事項四　塘沽停戦協定の成立

1　昭和8年4月8日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

秦皇島北方における丁強軍の活動に関し曹汝霖より注意喚起について

付記　四月十一日、十八日　外務省
丁強軍と日本軍部との関係および灤東方面の軍事情勢に関する情報

天津　4月8日前発
本省　4月8日後着

第二〇八号

丁強（本名李際春）ノ義勇軍（兵数約五千）ハ秦皇島ノ北方海陽鎮ヲ争奪中ナルカ右ハ恐ラク日本軍ノ柳江占領ノ目的ヲ確保スル為柳江及海陽鎮ノ線ヨリ山海関及九門口ノ東長城ニ至ル地方ヲ占領シ丁ノ地盤トスルノ企図ニ出テタルモノナル可シ

右ニ関シ七日曹汝霖ハ本官ニ対シ丁ハ天津事件当時便衣隊ノ頭目タリシ李ニシテ日本軍ハ自ラ関内深ク侵入スルヲ避ケ李ノ下ニ便衣隊ヲ使用シ居ルモノト噂サレ従テ日本軍ハ柳江占領ハ支那軍ノ執拗ナル攻撃ノ為已ムヲ得ス之ヲ行ヒタリト称シ居タルモ右ハ単ナル口実ニ過キストノ疑ヲスラ生スルニ至レリ若シ日本カ便衣隊ヲ関内ニ使用スルニ於テハ日支関係改善モ絶望ナル上日本ニ対スル国際輿論ハ益々悪化スヘシト語レリ尚当地軍ハ外国武官ヨリ丁軍兵数並ニ日本トノ関係ニ付質問アリタルニ対シ丁軍ハ一万三千ト称セラレ居ルモ実際ハ三千位ニテ重要視スルニ及ハサルヘク今回ノ如キ事件ハ支那ニハ常ニ之ヲ看ル所ナリ又日本軍トノ関係ハ全然無ク苟クモ我軍ニ対シ挑戦的行為アル場合ハ直ニ討伐スヘシト答ヘ置キタルモ先方ハ怪訝ナ顔ヲシ居タリトノ趣ナルカ丁軍ニ対スル日本側ノ報道振ニハ相当注意ヲ要スルモノト認メ軍側ニモ注意ヲ喚起シ置ケリ

（付記）

昭和八年四月十一日、十八日　外務省

丁強軍ニ関スル件（八、四、十一）

十一日柴山中佐（兼四郎）来省ノ際確メタル処其ノ内話左ノ通

一、丁強（天津事件当時ノ李際春ナリ）ハ沈克師ニ合流シテ之ト共ニ反蔣挙事ノ計画ヲ以テ関内ニ入レルモノナリ

一、関東軍及天津軍ニ於テハ彼ヲ利用シ北支新政権ノ樹立ヲ企図シタルモノノ如ク彼ヲ援助シタキ趣旨ノ来電アリタルモ参謀本部ニ於テハ厳重之ヲ差止メ両軍ニ於テモ既ニ右様企図ヲ断念セリ

一、右様ノ事情アリシヲ以テ丁強ト我軍トカ絶縁シタルハ丁カ石門砦ニ進出シタル後ノコトナリ但シ丁ノ後続部隊入関ニ付テハ其ノ後モ黙認シ居ルモノノ如ク本部トシテハ遺憾ニ存シ居レリ

一、万一丁カ敗戦シ再ヒ満州国ニ入ラントスルカ如キ場合ニハ武装解除ヲナスノ外ナカルヘシ

四月十八日朝参謀本部酒井大佐（隆）ニ確メタル灤東方面ノ情勢要領左ノ通

一、日本軍ハ撫寧、永平ヲ占領セリ昌黎及灤州対岸迄進出スルコトナキヲ保シ難シ（当方ヨリ右ハ十五日話アリシ制限線ヲ越ヘ南下セシニアラスヤト訊ネタル処其ノ通ナルモ此等軍隊ニ対シテハ既ニ北方ニ撤退方命令シタルニ付近ク其ノ運ヒトナルヘシトノ趣ナリ）

二、外部ニ対シテハ右進撃ハ支那側挑戦ノ策源地ヲ掃蕩スル為ノ已ムヲ得サル進撃ナリト宣伝シ居レリ尚対外的ニハ格別ノ反響ナキ模様ナリ

三、秦皇島ニ於テハ支那軍同地撤退後我カ守備隊（天津駐屯軍所属）カ停車場ノ警備ニ任セリ但シ支那街ノ行政ヲ管理セル事実ナシ

四、灤東ノ警備ハ丁強及寝返リ支那軍ニ於テ当ルコトトナルヘキ見込ナリ

2　昭和8年4月19日　在米国出淵大使より内田外務大臣宛（電報）

日本軍飛行機の河北地区爆撃、宣伝文撒布等に関する新聞報道について

ワシントン　4月19日後発
本省　4月20日前着

第三四六号（後廻電報）

北支ノ情勢ニ関シ

㈠十七日ヨリ十九日ニ掛ケ国務省当局ハ新聞側ニ対シ事態

悪化ノ場合米国トシテ如何ナル措置ヲ講スヘキカハ先ツ在支米国官憲ヲシテ決定セシムル意向ニテ米国人其ノ他一般外人ノ生命財産カ危殆ニ瀕スル虞アルカ如キ場合ハ「ジョンソン」公使ニ於テ諸外国公使トモ相談シ対策ヲ具申シ来ルヘク日本飛行機通州爆撃ノ新聞報道ニ付テハ未タ公報ニ接セストテ差当リ一切ヲ出先官憲ノ裁量ニ委セ居レリトノ趣旨ヲ以テ応対シ居ル趣ナリ

(二)昨今当方面新聞ニ現ハルル支那各地殊ニ北平、上海方面来電ハ頻ニ米国一般ノ神経ヲ刺戟スルカ如キ支那側ノ宣伝ヲ伝フル傾向有リ例ヘハ十八日北平発UPハ何応欽陸相ノ発表ニ拠レハ数台ノ日本飛行機密雲県上空ヨリ日支両国人ハ共ニ黄色人種ニ属シ白色人種ハ支那人ヲ奴隷ト為セルカ日本軍ハ白人ノ圧迫ヨリ支那人ヲ救フ可ク来レリ云々ノ「パンフレット」ヲ撒布シ又三台ノ日本飛行機通州ヲ爆撃シ同地ニハ数名ノ教員、二十五名ノ米人宣教師及支那各地ヨリ集マリ居ル二百ノ米人生徒ヲ有スル「アメリカン、ボーディング、スクール」有リ尤モUPノ承知セル処ニテハ同地米人ニ損傷無シト報シ十九日上海発紐育「タイムス」特電(「アベンド」)ハ日本飛行機通州ヲ爆撃シ米国学校ヲ危殆ナラシメタル為北平ハ恐慌ヲ来シ日本軍平津進出ノ虞著シク増セルモノト認メラル最初前記爆撃ノ報ニ接シタル時ハマサカト思ハレタルモ通州警察ニ電話シタル結果ハ事実ナリトノコトナリ尤モ「アメリカン、ボード、フォーア、フォーレン、ミッション」代表者 Earl Ballou ハ前記学校ノ教員生徒ハ全部無事ナリト言ヒ米国公使館側ニ於テモ其ノ入手セル情報ニ依レハ昌黎、台頭営其他山海関灤河間ノ諸地点ニ在ル米国人ハ無事ナリト言ヘリ尚支那側発表ニ依レハ日本飛行機ハ石匣及密雲県ヲ爆撃シ居レルカ密雲上空ヨリ撒布セル西洋排斥ノ「パンフレット」ハ日支紛争発生以来未タ曾テ聞カサリシモノニテ痛ク注意ヲ惹ケリト報シ又十八日山海関発UPハ同地消息通間ニ於テハ近ク平津地方ニ独立支那政府樹立セラルヘシト取沙汰セラルト報シ居レリ

3　昭和8年4月19日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛(電報)

灤河鉄橋の保護に関する英国公使館員の要請について

第一七一号(暗)　北平　4月19日後発　本省　4月19日後着

十九日英国公使館「ホルマン」来訪極メテ非公式ニ貴官ノ御注意ヲ願フ次第ナルカト前置シ最近日本軍ノ動キハ北寧及開灤炭坑ノ関係ニテ英国ノ重要ナル利益ニ触ルル理ナルカ其ノ中ニテモ灤河ノ鉄橋ハ一度破壊セラルル時ハ修理ニ長日月ヲ要スルニ付之カ保護方ニ付テハ特別ノ注意ヲ煩ハシ度ク右ハ在天津英国司令官ヨリ日本軍司令官ニ御願ヒシ置ケルカ此ノ点ハ英国ノ最モ重キヲ置ク所ナルニ鑑ミ貴官ニモ御話スル次第ナリト述ヘタリ

支、満、天津ヘ転電セリ

4　昭和8年4月20日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛(電報)

ジョンソン米国公使の中立地帯設置案に関するイーキンスの内話について

第一七三号　北平　4月20日後発　本省　4月20日後着

十七日「イーキンス」ト茶ヲ共ニス談芳沢前大臣ニ及フヤ「イ」ハ同氏ト会見シタルコトヲ米国公使ニ話シタル処何故中立地帯ノコトヲ話ササリシヤト言ハレタリト述ヘタルニ付本官ハ中立地帯トハ何ソヤト言ヒタル処「イ」ハ先週 very high American official here (此ノ時以後此ノ語ヲ用ヒ居ルモ米国公使ヲ指スモノナルコトハ前後ノ関係ヨリ明瞭ナリ)ハ北平、密雲間ノ一地点例ヘハ唐山ト三河、玉田、秦皇島ヲ結フ大自動車道路ト長城トノ間ノ地域ヲ中立地帯トシ支那軍ハ該道路以南ニ退キ日本軍ハ長城迄撤退スルノ案ヲ説明シタリ右中立地帯トハ之ヲ指スモノナルヘシト言ヘルニ付小官ヨリ右「ハイ、アメリカン」ハ何処ヨリ此ノ考案ヲ得タルヤト尋ネタルニ「イ」ハ右考案ハ「ハイ、チャイニース」ヨリ出テタリト答ヘ更ニ其ノ「チャイニース」ノ何人ナルヤノ問ニ対シ「イ」ハ「ハイ、アメリカン」ノ許可ヲ得タル上ニテ話スヘキヲ約セリ

尚「イ」ハ同席上米国公使ハ日本軍カ北平ヲ占領スル場合ニハ北平ヲ立退クヘキ旨又米国ハ当地方ニ商業的利害全然無キニ付若シ日支停戦ニ介入スルコトアリトセハ人道的理由ニ基クモノナル旨ヲ語リ居リタリト言ヘリ右ノ席ニハ米

国公使館語学将校「ヘイゲン」大尉同席シ居タルカ一語テモ「イ」ノ言ヲ打消シタルコト無キノミナラス当地方ニ米国カ商業的利害ヲ有セサル点ニ付テ自ラ進テ説明ヲ与ヘ居タリ同日ノ会談ニ依リ先週中米国公使ハ何応欽ヨリ休戦仲介ノ依頼ヲ受ケタルモ日米間ノ関係、日支ノ現状ヨリ直ニ之ヲ応諾スルコトハ躊躇シ居ルモノト信スヘキ「ヒント」ヲ得タリ

公使ヘ御伝ヘヲ請フ

5 昭和8年4月20日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

何応欽の戦闘停止の意向に関する情報について

北平　4月20日後発
本省　4月20日後着

第一七六号

十九日本官ノ知リ得タル所ニ依レハ十八日何応欽軍事顧問独人 Wetzel ハ米国公使館付武官 Drysdale ヲ訪問シ支那側ハ日本軍ノ為ニ大打撃ヲ受ケタルカ最早何等カノ方法ニ依リ戦闘ヲ休止スルノ外無シト申出テタルニ付右武官ハ支那側ニ果シテ其ノ意アリヤヲ確ムル為当地外檔案処長王ヲ午餐ニ招キ之ヲ尋ネタル処王ハ直ニ何応欽ニ面会後武官申入ノ次第ヲ語リタル結果何ノ答ナリトテ王カ同武官ニ答ヘタル所左ノ通ナル趣

「何ハ休戦ノ考案ニ依リ大イニ感動ヲ受ケタリ何ハ戦闘ヲ休止セシメントスル如何ナル努力ニ対シテモ大イニ感謝ス武官ノ申出ニ関シテハ上司ニ訓令ヲ仰クヘシ同武官ニ於テ仲介（go between）ノ労ヲ執ラレ度シ」

公使ニ御伝ヘアリタシ

6 昭和8年4月20日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

停戦交渉仲介に関するランプソン英国公使の意向打診について

北平　4月20日後発
本省　4月20日後着

第一七七号

十九日英国公使ヲ往訪シ永津武官ヨリ得タル材料ニ依リ長城遼東方面ニ於ケル状況ヲ縷々説明シタル上機ヲ見計ラヒ本官ヨリ支那側カ何時迄モ戦闘ヲ継続スル以上終止スル時

期ヲ知ラサル次第ナルカ支那側モ相当其ノ愚ヲ悟リタルヘキ処目下支那側ニハ停戦ヲ申込ム勇気ナカルヘク又日本側ヨリ切出スモノト期待スルモノナカルヘク従テ上海事件ノ例モ有リ支那側ハ外国側ニ依頼セントスルニ非スヤト試問シタルニ「ラ」ハ其レハ最モ有リ得ヘキ事ナルモ上海事件ト目下ノ事態トハ大イニ異ナルノミナラス言ヒ出シタル者ハ支那側ヨリ大イニ怨マルル事明カナル上吾人ハ此ノ問題ニ付既ニ「コムミット」シ居レリト言ヘルニ付其ノ意ハ連盟ノ決議ノ関係ナリヤト反問シタル処正ニ然リト答ヘ語ヲ続ケテ極メテ非公式ノ話ナルカ吾人ハ停戦交渉ニ仲介ヲ依頼サルルモ単独ニ之ヲ引受ケ難キ理由ハ若シ之ヲ引受クレハ一方ニ於テ condemn シタル事ヲ他方ニ於テ condone スル事トナルヲ以テナリト言ヒ然ラハ支那側ノ依頼アル場合引受ケ得ル地位ニ在ル者ハ米国ノミトナルヤト質問シタル処其ノ通ナリト述ヘタリ其ノ節其ノ後ノ「クラーク」報告ノ概要ヲ述ヘ往電第一六九号ノ件更ニ繰返シ依頼シ居タリ

公使ニ御伝ヘアリタシ

7 昭和8年4月20日　内田外務大臣より在米国出淵大使、在英国松平大使宛（電報）

関東軍の長城線確保および灤河付近の戦況について

本省　4月20日後10時30分発

合第八〇九号

往電合第七七三号ニ関シ

一、其後関東軍ハ長城ニ隣接セル支那軍ノ根拠地ヲ掃蕩シ長城線ノ確保ニ努ムルトコロアリシカ支那軍ハ依然トシテ執拗ナル挑戦ヲ継続セル為之ヲ排撃シテ其ノ前線部隊ハ海陽鎮、撫寧（Funing）及永平（Yungping）ニ入レリ固ヨリ右ハ一時ノ必要ニ出テタルモノニシテ我軍ニ於テハ此等地区ヲ永久ニ占領スル意向ナキ由ナリ

二、右軍事行動ノ結果支那軍ハ灤河以西ニ総退却セリ

三、灤河以東ノ地区ノ治安維持ハ結局丁強（往電合第七六六号ノ通日満軍ト関係ナシ）及寝返リ支那軍等ニ於テ之ニ当ルコトトナルヘキ見込ナリ（此項極秘御含ミ迄）

四、灤東ニ於ケル我軍事行動ニ関シ満州国軍カ之ニ協力シ居ルカ如キ報道ヲナスモノアルモ満州国軍ハ関内ニ入リ居ラス

五、秦皇島ハ我守備隊（天津駐屯軍所属）カ任務上停車場

ヲ警備シ居ルモ支那街ヲ占領セル事実ナク又我軍カ同地ヲ爆撃セルコトモナシ

六、尚灤河以西ノ長城線ニアリテハ我軍ハ関内ニ進出シ居ラス

8　昭和8年4月21日　内田外務大臣より在英国松平大使宛（電報）

英代理大使より日本軍の長城以南進出の理由および停戦に関し問合せについて

第六八号

北支問題ニ付英代理大使来訪ノ件

二十一日英国代理大使来訪本大臣ニ内示セル英外相ヨリノ来電ニ依レハ英外相ハ灤東方面ノ状況ヲ極度ニ悲観シ松平大使カ請訓ノ上与ヘタル証言ニ反シ日本軍ハ長城以南ニ進出シタルカ其ノ理由ノ説明ヲ本大臣ニ求ムヘシトノコトナリシニ付本大臣ハ我軍ハ支那軍ノ度重ナル挑発的攻撃ノ為同方面ニ於テ既ニ千名内外ノ死傷者ヲ出シタルニ付已ムヲ得ス其ノ策源地ヲ攻撃シタルモ事態平定セハ直ニ長城線ニ引返スコトニナリ居レリ最早之レ以上発展スルコト無カルヘシト信ス今後支那側ニ於テ挑戦ヲ繰返ササル限リ同方面ハ鎮静スルニ至ルヘク況ヤ北支地方ニ日本軍カ進出スルカ如キコト無キハ本大臣ノ確信スル所ナリ実ハ近来支那側ノ宣伝ナランカ信スヘカラサル虚報カ欧米ノ都市ヲ脅カシ居ルニ驚キ居ル次第ナリト語リタル処同代理大使ハ右説明ニ満足ヲ表シ英外相モ安心スルコトナルヘシト答ヘ若シ今後日支軍ノ衝突ヲ避クル為何等カノ申合セカ成立シ支那軍ハ灤河ノ右岸ニ停マリ日本軍ハ長城線ニ引揚クルコトハ出来マシキヤト推問シタルニ付両軍ノ衝突ヲ避クルコトハ最モ希望スル所ナルモ提案ノ可否ハ現地ノ状勢ニ依リ判断スルノ外無ク結局軍側ノ意見ヲ徴スル要アルカ何人カ斯ル申出ヲ為スヘキヤト尋ネタル処名案ナシトテ北平ニ於ケル日英両公使ノ会話（北平発本大臣宛電報第一七七号（六文書）参照）ニ言及シ結局斯ル申合セノ成立スルコトハ本国政府ノ希望スル所ナルヘシト申述ヘ辞去セリ

9　昭和8年4月22日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

湯爾和らの停戦工作について

北平　4月22日後発
本省　4月23日前着

第一八〇号

二十日雷寿栄（大正十三年人名鑑六八〇頁）及湯爾和、永津武官（佐比重）ヲ往訪シ停戦ノ私的意見ヲ申入レタル由ニテ右ニ付陸軍側ヨリ御聞及ノコトト存スル処湯爾和、王克敏ハ各別ニ原田ニ対シ会見希望方申入レ来レリ原田（竜一）ハ予メ小官ノ内意ヲ受ケ二十一日先ツ湯ヲ往訪セル処湯ハ長城以西ヘノ日本軍ノ進出ヲ指摘シ斯クテハ日本軍ハ平津ハ愚カ南京、広東ヲモ占領セサレハ止マサルヘキカ日本政府ノ方針如何ト探リヲ入レタルヲ以テ原田ハ之ニ言明ヲ避ケ逆ニ何応欽ノ態度並蔣ノ北上説ニ関シ反問セル処湯ハ何ハ国民党中ニ於テ従来張継等ノ主戦論ニ反対シ穏和政策ヲ執リ来レル人物ニテ何等積極的意向ヲ有セス又蔣ハ過般北上ノ暇ニ共産軍活躍シ陳誠等ノ二箇師全滅シ南昌モ危フク失ハントセル為急遽江西ニ向ヒタル経緯アル為今回ノ北上ハ困難ナルヘキ旨述ヘ蔣及何ニ於テ此上戦闘ノ意無キ旨ヲ仄カシタル上更ニ語ヲ継キ此ノ辺ニテ戦闘中止ノ要アルカ右ハ軍事当局直接之ニ当ルコト困難ナル事情アルニ付自分等ハ心配シ居ル次第ニテ近ク何等カノ形式ニ於テ日本側ニ申入ルル筈ナリト述ヘ次テ往訪セル王克敏モ殆ト同趣旨ノ談ヲ為セル趣ナリ往電第一七二号以下ノ事実ニ照シ右雷、湯、王等ハ恐ラク何応欽ノ依頼ヲ受ケテ人選ニ付日本側ノ内意ヲ探ル為ニ派遣セラレタルモノト察セラル

10　昭和8年4月22日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

華北方面の政況および宋子文の動静に関する仏公使の内話について

北平　4月22日後発
本省　4月22日後着

第二五三号

本二十二日仏「ウイルソン」公使来訪語ル所左ノ通リ御参考迄

一、自分ハ北方ノ形勢重大化スル兆アルニ依リ本夕発列車ニテ帰平スルコトトセリ自分ノ有スル情報ニ拠レハ北方ノ将領殊ニ于学忠ハ蔣介石ノ遣口ニ対シ頗ル反感ヲ有シ居ル趣ニ付北方ノ独立策動重大変化ノ起ルコトアルモ驚クニ足ラス更ニ独立セル北方ノ政権カ満州国ヘノ合併ヲ希望スルカ如キコトスラ想像セラル（仏公使ハ日本軍ノ平津侵入説ヲ余程気ニシ居ルモノト見エ再三本官ニ確ム

ル所アリ）

二、宋子文トハ出発直前上海ニ於テ会見シタルカ頗ル意気銷沈シ居リ内政、財政、外交ノ各方面ニ対シ悲観的意見ヲ述ヘ居タリ宋ノ出発ハ急遽決定セルモノ故政府トノ打合モ充分出来ス会議ニ対スル具体案モ無キ模様ナリ云々

11 昭和8年4月23日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

河北省于学忠主席らの停戦運動に関する情報について

天津　4月23日後発
本省　4月23日後着

第二三八号

数日前于学忠ハ北支ニ於ケル抗日戦費其ノ他ノ給与ハ河北省又ハ省内数県ニ於テ負担シ居ル為住民ノ窮状其ノ極ニ達セルヲ以テ之カ救済方ヲ北平軍事分会ニ申出テタル趣ノ処（本月二十二日付第三五六号詳報）孫潤宇ノ談ニ依レハ更ニ于主席ハ当地ニ於ケル河北省出身各界要人ト懇談ノ結果此ノ際河北省ノ保境安民ノ為中央ニ対シ上海事件ノ例ニ倣ヒ速ニ日本ト協定シ日本軍ハ長城一線ニ止マリ支那軍ハ後方ニ移駐シ抗日態度ヲ改ムルノ方策ニ出ツルコトヲ上申スヘク既ニ意見ノ一致ヲ見タル趣ナルカ右運動ノ中心ト思ハルル旧直隷派政客張志潭ノ内話スル所ニ依レハ目下当方面抗日軍将領ハ勿論蔣介石等ニ於テモ内心抗日ノ徒事ナルノミナラス益々時局ヲ混乱セシムル事ハ知悉シ居ルモ対内関係上敢テ抗日ヲ停止シ得サルモノニシテ斯ル事情ヲ利用シ先ツ当地主民衆団体ヲシテ保境安民ノ見地ヨリ抗日戦停止ノ運動ヲ起サシメ若シ中央カ停戦ヲ肯スレハ善シ然ラサレハ于学忠等中心トナリテ蔣派ニ不満ヲ抱キ真ニ抗日ノ意ナク唯中央軍監視ノ下ニ已ムナク抗日戦ヲ続ケ居レル東北軍及雑軍ヲ糾合シ飽迄河北省ノ安全ヲ計ラントスルモノニシテ既ニ昨二十二日河北省出身ノ各界代表者（省政府委員モ加ハレリ）三十余名連名ニテ中央ニ対シ戦禍ニ依ル地方的窮状ヲ訴ヘ北平ノ古物南送等ノ事実ヲ挙ケ中央ハ河北省民ノ生命財産ヲ挙ケテ抗日ノ犠牲タラシメントスルモノナリヤ将又今後ノ抗日策ハ如何トノ趣旨ノ詰問的電報ヲ発シタルカ右ニ対スル中央ノ態度如何ニ依リテハ反中央ノ手段ニ出テ一方日本側ニ対シ地方的妥協ヲ進ムルノ段取ニ出ツル予定ナル趣ナリ

尚右電報ノ外銀行公会商務会等ヨリモ夫々発電セシムル様運動中ノ由

本電内容ハ先方ノ希望モアリ公表御見合セアリ度シ

12 昭和8年4月24日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

英公使の停戦斡旋の意向および中国側要人の動静について

北平　4月24日後発
本省　4月24日後着

第一八一号

支那側並米人記者ノ情報ニ依レハ熊希齢及熊夢兆（蔣夢麟カ）（北平大学長）二十二日英国公使ヲ往訪シ日支停戦ノ斡旋ヲ依頼シタル趣ナルカ二十三日「ゴルフ」場ニ於ケル立話ノ際「ラ」ハ右ノ事実ニハ全然言及スルコト無ク小官ニ対シ停戦ハ何レノ方面ヨリ見ルモ望マシキコトナルニ付日支双方ニ其ノ意思アリヤヲ確メタル上仲介（go between）ニ入ルコトヲモ考ヘ居レリ何レ近日懇談シ度シト申居タリ又右米人記者ノ情報ニ依レハ実業部長陳公博（独逸公使ト同シ汽車ニテ来平）ハ汪精衛ノ命ヲ帯ヒテ某国側（恐ラク米国ナラン）ニ停戦仲介方ヲ依頼シタル趣ナルカ二十四日独逸参事官Kuhlborn帰任挨拶ノ為来訪シ日支停戦ノ交渉進行中ナリヤト問ヘルニ付全然斯ル話ヲ聞カスト答ヘタル処日本ハ例ヘハ長城ヨリ二十粁外ニ支那軍ノ撤退ヲ要求スル声明ヲ発スルカ如キコトヲ考ヘ居ラサルヤト尋ネタルニ付本官ハ右考ヘノアルコトハ承知セサル旨ヲ答ヘ置キタリ

屢次往電ニ付御承知ノ通リ停戦問題ニ関シテハ各種要人ノ活動ヲ見ツツアリ然ルニ之等ハ汪精衛陳公博等ノ反蔣ノ系統ニ属スルカ又ハ華北ニ地盤ヲ求メントスル于学忠、商震、龐炳勛乃至ハ熊希齢等ノ運動ニ外ナラスシテ停戦問題ハ一面多分ニ内政的色彩ヲ加ヘ来レルヤノ感アリ我方トシテハ本問題ニ付軍ヲ指揮スル実権者ヨリ確実ナル意思表示アル迄ハ之ヲ取リ上ケサル方針ヲ執ルコト機宜ニ適スト思考ス尚英国公使ト面会ノ節心得ヘキ点至急御内示ヲ請フ

13 昭和8年4月24日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

王克敏より長城以南中立地帯設置による停戦に関し意向打診について

天津　4月24日後発

第二三九号　本省　4月25日前着
往電第二三八号（一二文書）ニ関シ

北平財政整理委員会副委員長王克敏ハ約二週間前天津造幣廠対日本側借款問題ニ付会談ノ序ニ長城ヲ境トスル日支停戦協定促（進）ニ関シ私見ヲ披瀝セルコトアリシ処更ニ二十二日来津王揖唐ノ肝煎ヲ求メ本官ニ対シ一私見ナリトテ此ノ際日本軍ハ長城ノ線ニ留マリ支那軍ハ夫ヨリ相当ノ距離ニ退キテ一歩モ出テサル条件ヲ骨子トスル妥協案ヲ述ヘ出来得レハ本官ヨリ之ヲ日本政府及当地軍司令官ニモ通セラレ度シト申出有リ本官ハ王克敏ノ一私見ヲ直ニ政府及司令官ニ通シ得サルモ若シ河北ニ於ケル軍事責任者例ヘハ何応欽辺リモ同意見ナルコト明ナルニ於テハ考量ノ上王ノ希望ノ如ク取計フヘシト答ヘタルニ王ハ恐ラク何応欽モ同意見ト認ムルモ至急協議ノ上重ネテ何分ノ儀申出ツヘシトテ二十三日帰平セルヲ以テ或ハ先方ヨリ何等カノ形式ヲ以テ重ネテ申出ノ次第アルヘシト思料セラル本件詳細守島書記官ニ説明シ置ケルニ付テハ同官ヨリ御聴取ヲ請フ

尚関係者ノ立場モ有リ本電取扱特別ノ御注意アリタシ

14　昭和8年4月(25)日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

于学忠らの停戦運動に関する中村天津軍司令官の意向について

（発電番号不明）　天津　本省　4月25日着

部外極秘

往電第二三八号（一二文書）及往電第二三九号（一三文書）ノ次第ハ本官ヨリ内密参考迄ニ軍司令官（中村孝太郎）ニモ話シタル処同官ハ民衆団体ノ希望ヲ基礎トスル保境安民運動ハ此ノ際最モ好マシ（キ）ニ依リ実現ノ可能性アルモノト思考スル旨語レリ御参考迄

15　昭和8年4月26日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

仏国公使日本側の停戦条件打診について

北平　4月26日後発　本省　4月26日後着

第一八五号（暗、極秘）

二十六日仏国公使ノ希望ニ依リ会見ス同公使ヨリ最近ノ戦況ヲ尋ネタルニ付全般的説明ヲ与ヘ置キタルカ公使ハ最近支那側ハ日本軍ノ圧迫ニ懲リ最早停戦ヲ希望シ居レル由ナルカ日本側ニ対シ何等「ヂュデイケーション」（ママ）ナキヤト問ヘルニ付本官ノ関スル限リ全然ナシト答ヘ置キ（タリ）公使ハ支那側ニ戦闘ヲ継続スル意思ナキハ明カナルカ日本側ハ如何ナル条件ナラハ停戦ニ同意セラルルカ（ト）問ヘルニ付本官ハ我政府ハ停戦ヲ目下ノ事態ニ於テ考慮スルヤ否ヤヲ承知セス従テ条件ニ至リテハ全然承知セサル処ナルカ私見トシテ常識ヨリ言ヘハ若シ支那側カ戦闘ヲ欲セサルナラハ兵ヲ引ケハ可ナリト思考スト述ヘタル所公使ハ支那側ハ面子ヲ重ンスルニ付何処迄引クカ問題ナル（モ）于学忠等ハ停戦運動ニ就テハ重要ナル人物ナリ孰レニシテモ明日（二十七日）支那人及「アザー、ピープル」ニ会ヒタル上更ニ詳細御話スヘシト言ヘリ依テ本官ヨリ聞ク処ニ依レハ目下支那側ニハ内政関係ニ於テ複雑ナル事情アルカ如ク一面ニ於テ此ノ種停戦運動台頭シ居ルモ事実ニ於テ中央軍ハ着々準備ヲ整ヘ居リ又古北口方面ニ於テハ過去二週間内ニ三回逆襲ヲ試ミタル事アリ即[2]チ支那側ハ左手ニ拳銃ヲ擬シ乍ラ右手ヲ伸ヘテ握手ヲ求メントシ居ル状態ナリ斯ル複雑ナル内政ノ動キト共ニ外国人カ行動スルコトハ極メテ危険ニシテ日本側ヨリ観レハ停戦問題ノ如キモ何人ノ言葉ヲ以テ支那側ノ申出ト観ルヤサエ疑問トスル処ナルカ閣下ハ如何ニ観ラルルヤト問ヒタルニ之カ回答ニハ難色アリタルモ遂ニ「オフィシァリイ」ニハ羅文幹ナルヘシト言ヘルニ付羅ハ当地方ノ軍ヲ動カシ得ルヤト反問セル処実際上ハ何応欽ナリト考フト言ヘリ本官ハ何ハ本官ト知合ノ間柄ナルニ付若シ何ニシテ休戦ヲ希望スルナラハ直接本官ニ申出テ来ル可ク来ラサルハ不思議ナリト試ニ述ヘタル処公使ハ夫レカ当然ナルモ支那人ノ面子ヨリ之ヲ為シ得サル処ナリト言ヒ又何ノ命令ハ中央軍ニハ効果アルヘキモ雑軍ニハ如何カト思ハルルモ何ハ雑軍ニ対シテ完全ニ命令ヲ実行セシムル自信ヲ有スルヤト尋ネタル処同公使ハ日本軍ニ対シ攻撃スル命令ナラハイサ知ラス退却スル命令ナラハ実行セラルルコトト信スト言ヘリ

公使ノ所謂「アザー、ピープル」ハ当時ノ模様ヨリ観テ英又ハ英米公使ヲ意味スルモノノ如ク感セラレタリ

支、満ヘ転電セリ

16　昭和8年4月28日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

何応欽の英米仏三国公使にたいする停戦斡旋依頼の情報について

北平　4月28日後発
本省　4月28日後着

第一八八号（暗）

二十八日耿堅白ノ内話ニ依レハ何応欽ハ劉崇傑ノ名ヲ以テ二十七日晩餐ニ英米仏三国公使ヲ招待シ日支間停戦斡旋方ニ付懇談セルカ陳公博、黄紹雄、商震、宋哲元、龐炳勛等モ同席シ居タル趣ナリ

支満ヘ転電セリ

17　昭和8年4月28日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

日本軍の熱河および河北省進出に対する中国政府の抗議について

南京　4月28日後発
本省　4月28日後着

第二五八号

本官発支宛電報第二六四号

羅外交部長ヨリ貴公使宛二十七日付公文ヲ以テ概要左ノ通申越セリ

日本政府カ大軍ヲ熱河ニ進メ山海関ヲ占領シ九門口等ヲ侵略シタルニ対シ本部ハ一月四日及二十二日並ニ三月二日及二十四日事件発生ノ都度厳重抗議ヲ提出シ同時ニ右責任ハ日本ニ在ル事ヲ明カニシ置キタルカ近来又復日本ハ大兵ヲ河北省城ニ集メ恣ニ侵略、攻撃ヲ行ヒ中国ノ領土権ヲ破壊シツツアリ右ハ東三省ノ侵略、山海関及熱河ニ対スル暴挙ト同様其ノ責任ハ日本政府ニ於テ負フヘキモノナリ、中国政府ハ茲ニ厳重抗議ヲ提出ス

右貴公使ヨリ貴国政府ニ御転電ノ上速ニ本件不法攻略ヲ中止シ目下河北省ニ進出中ノ日本軍及其ノ指揮下ニ在ル武装隊伍ヲ一律撤退セラルル様取計ヒ相成リ度シ

全文郵送ス

大臣、満、北平、天津ヘ転電セリ

上海ヘ転報アリ度シ

18　昭和8年4月29日　内田外務大臣より在仏国長岡大使、在米国出淵大使他宛（電報）

マルテル仏大使停戦に関する日本の意向打診について

合第八六七号（暗）

北支日支停戦問題ニ関シ仏国大使来訪ノ件

二十八日仏国大使有田次官ヲ来訪ノ際在支仏国公使ヨリノ情報ニ依レハ蔣介石其他支那側ニ於テハ「ランプソン」ニ対シ北支ニ於ケル日支停戦ニ付斡旋ヲ求メ居ル（近ク大使ニ昇任何レニカ転任ノ由）趣ナル処別ニ本国政府ヨリ訓令ヲ受ケタルニアラサルモ本件ニツキ日本側ニ於テハ如何ニ考ヘ居ラルルヤト述ヘタルヲ以テ次官ハ大体北平宛往電第六三号ノ㈠ノ「ライン」ニ依リ㈠今日ノ事態ハ支那側ノ挑戦ニ基クモノニシテ支那側カ日本軍ニ対シ挑戦ヲ止ムルニ於テハ停戦協定ヲ俟タスシテ事態ハ解決シ得ヘキコト又㈡停戦協定ト云フモ北支目下ノ情勢ニ於テ我方トシテ協定ヲ締結シ得ヘキ確実ナル相手ヲ見出スコト困難ナルヘキコトヲ述ヘタル処大使ヨリ日本ハ外国ノ仲介ヲ喜ハレスヤト問ヒタルニ付次官ハ之ニ対スル直接ノ答弁ヲ避ケ今日ノ事態ニ於テ何等ノ効果アリヤヲ疑フ旨ヲ述フルト同時ニ要スルニ外国側ニシテ好意アラハ前述ノ次第ヲ支那側ニ徹底セシメ支那側ヲシテ挑戦セシメス事実上ノ休戦状態ニ入ル様仕向クルコト最モ適切ナルヘキ旨答ヘタル趣ナリ

（編注）本電報は、上海、満州国、北平にも発電された。

19　昭和8年5月2日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

黄郛の政務整理委員会委員長就任について

上海　5月2日後発
本省　5月2日後着

第二三一号

往電第二二二号ニ関シ

二日王超俊ノ内報ニ依レハ黄郛（二日南京ヨリ帰滬ノ筈）ハ蔣介石ヨリ政務整理委員会会長ニ就任方懇請セラレ受諾セル旨電報ニ接シタルカ（電報ヲ示セリ）右ハ黄ニ於テ冒頭往電汪精衛等ト話合ノ上河北ノ事態ヲ収拾スル事ヲ引受ケタルモノト思考セラルル趣ナリ

20　昭和8年5月2日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

英国公使に中国軍撤退線（三河―玉田）示唆について

北平　5月2日後発
本省　5月2日後着

第一九〇号

一[1]日英国支那派遣軍司令官「ボーレット」ノ為ニ開カレタル英国公使晩餐ニ出席ス食前及食後ニ於ケル同公使トノ会談要領左ノ通

同公使ヨリ停戦問題ニ付新シキ発展無キヤト問ヘルニ付日本政府ニ於テハ支那政府又ハ軍ノ司令官カ真ニ停戦ヲ欲スル意思明瞭ナラサル限リ同問題ハ考慮スル能ハサル次第ニ付其ノ点ノ明カナラサル以上当分新シキ発展ヲ見ルコトナカルヘシト答ヘ置キタルカ食後同公使ト二人限リノ別座ノ節公使ハ右日本ノ立場ハ充分了解シ得ル処ナルカ其ノ点カ現在最モ困難ナル点ニシテ実ハ最近三日以前迄殆ト毎日支那側ヨリ依頼ヲ受ケ各種ノ案（「フォーム」）ヲ出タシ見タルカ支那側ハ何人モ同意ヲ渋リ居リ其ノ理由ヲ停戦カ満州問題ト全然関係ナキコトヲ明カニシタル場合ニ於テモ日本トノ合意ハ「コンプロマイズ」ニナルコトヲ恐レ居ルニ依ルト云ヘルニ付何処カノ新聞ニテ見タリト記憶スルカ支那ハ英又ハ他ノ外国公使ニ又日本モ其ノ外国公使ニ対シ一定ノ約束ヲ為ス案カ考慮セラレツツアルヤノ趣ナルカ果シテ斯ルコトアリヤト尋ネタル処公使ハ右ノ方法ニ依ル場合自分ハ極メテ困難ナル立場ニ立タサルヘカラス何国公使ト雖支那カ攻撃セサルコトハ保障シ得ル者無カルヘシト答ヘ尚[2]語ヲ継ヒテ日本側ニ具体案アラハ「メッセンヂャー」ヲ務メ度シト問ヘルニ付日本側ハ第一支那カ停戦ヲ欲スルヤヲ明カニセンコトヲ欲スル次第ニテ具体案ノアルヘキ理無ク支那カ之ヲ欲スル場合ニ於テモ南天門ト石匣鎮ノ如ク近距離ニ対峙シ乍ラ戦闘ヲ欲セスト言明ストスルモ問題ニナラサルヘク現状ノ儘ナラハ日本軍ハ石匣鎮ヲモ占領セサルヲ得サルコトト信ス兎ニ角支那軍カ充分距離ヲ隔ツレハ協定ヲ用ヒスシテ自動的ニ戦闘ヲ終熄スヘシト思考スト述ヘタル処公使ハ右距離ニ付本官ノ私見ニテモ話シ呉レ間敷ヤト問ヘルニ付右ハ軍事専門家ニ非サレハ答フルコトヲ得サルヘク本官ハ永津武官トモ斯ク立入リタル問題ヲ話シタルコト無キニ付具体的意見ヲ有セサルモ惟フニ右距離ハ日本政府殊ニ関東軍ヲ不満足乍ラモ安心セシメ得ル程度ノモノナラサルヘカラスト答フルヤ公使ハ実地ニ付テ言ヘハ何ノ辺ナリヤト極メテ熱心ニ問ヘルニ付日本政府並当館武官ト全

然関係無キ意見ナルコトヲ念ヲ押シタル上支那側カ停戦ヲ欲スルコト明瞭トナル場合ニハ三河、玉田ノ線ヲ延長シタル線以南ニ支那軍撤退スル案ナラハ日本ニ取次クヤ否ヤヲ考慮スヘシト答ヘタル処公使ハ地図ヲ研究シ武官ノ意見ヲモ聞キ考慮スヘシト言ヘリ

21　昭和8年5月2日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

中国軍撤退線（三河―玉田）は永津武官と協議済について

北平　5月2日後発
本省　5月2日後着

第一九一号

往電第一九〇号（二〇文書）末段ノ地点ニ関スル発言ハ予テノ御訓令ヲ逸脱シ居ルモ実ハ右晩餐ニ於テ停戦期ノ持出サルヘキ場合ヲ考慮シ同朝来永津武官ト熟議ヲ遂ケ同武官ノ慎重ナル考慮ノ結果右線ヲ暗示スルモ害ナキコトト意見一致シ小官ヨリ素人ノ私見トシテ暗示シタル次第ニ付御諒解ヲ請フ

22　昭和8年5月3日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

黄郛の行政院駐平政務整理委員会委員長就任に関し新聞等の論評注意方について

上海　5月3日後発
本省　5月3日後着

第二三四号（暗、大至急）

往電第二三一号（一九文書）ニ関シ

其ノ後殷汝耕等ノ内報ニ依レハ黄郛ノ委員長就任ハ本三日政治会議ニテ決定、今明日中ニ発表セラルル運ニシテ右ハ国民政府部内ニ於テ行詰マレル日支関係打開ノ為方向転換ヲ決意シ其ノ第一歩トシテ黄郛ヲシテ華北ノ事態ヲ収拾セシムル事トシタルモノナルカ黄郛ニ於テハ此ノ際日本側新聞通信等ハ黄ノ出馬ニ関連シ右ハ国民政府対日態度緩和乃至直接交渉ノ第一歩ナリ等ノ論評ヲ試ムルカ如キコトアラハ先般北平市長ノ問題ノ際ノ如ク忽チ輿論ノ反対ヲ招キ折角ノ計画モ水泡ニ帰スヘク其ノ場合黄郛トシテハ此ノ上両国関係改善ノ為ニ乗出ス機会ヲ失フ訳ナレハ右ノ点ニ付日本ノ新聞等カ慎重ノ態度ヲ執ル様斡旋方頻リニ希望シ居ル趣ナリ

黄郛北上ノ事情等ニ付テハ本使ニ於テ明朝同人ニ面談ノ上

更ニ確カムル手筈ナルカ右黄ノ希望ハ至極尤モノ儀ト存セラルルニ付此ノ際黄ノ委員長就任ニ付本邦新聞通信等ノ論評ヲ厳禁（例ヘハ論評差止命令ヲ出ス等ノ方法ニ依リ）スル様大至急手配願度ク尚当方面新聞通信ニ対シテハ不取敢論評差止方発令済ナルモ今後ノ取扱ノ都合モアリ右御手配ノ程度折返シ御回電ヲ請フ

満、北平、天津、青島、済南、漢口、南京、福州、広東、香港ヘ転電シ上海ヘ転報セリ

23　昭和8年5月3日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

英米仏三国公使の停戦斡旋に関する電通の発表について

北平　5月3日後発
本省　5月3日後着

第一九三号

二日当地電通ハ英、米、仏公使カ支那側ヨリ日支停戦ニ仲介ノ依頼ヲ受ケ日本公使館ニ提案シ公使館ハ之ニ承諾ヲ与ヘタル旨ヲ発表セリト報道シタル趣ニテ内外通信新聞特派員ヨリ其ノ真否ヲ問合セ来レルニ付全然無根ナル旨発表シ置キタリ当館ニ於テハ停戦問題ニ付何等ノ発表ヲ為シタルコト無ク会見ニ於テモ之ニ言及スルコトヲ避ケ居リ現ニ二日ノ会見ニ於テモ電通ノ質問ニ対シ停戦ニ付外国公使ヨリ当館ヘ何等ノ申出無キ旨答ヘ置キタル次第ナリ発電者取調中ナルモ不取敢

24　昭和8年5月3日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

駐平政務整理委員会および軍事委員会北平分会委員について

南京　5月3日後発
本省　5月4日前着

第二六三号

三日ノ中央政治会議ニ於ケル決議中左ノ二項目不取敢

㈠行政院駐平政務整理委員会ヲ設立シ黄郛、黄紹雄、李柏英、張継、韓復榘、于学忠、徐永昌、宋哲元、王伯群、王揖唐、王樹幹、傅作義、周作民、恩克巴図、蔣夢麟、張志潭、王克敏、張伯苓、劉哲、チョーエイセイ、湯爾和、丁文江、魯蕩平ヲ委員ニ任シ黄郛ヲ委員長トス（韓復榘、于学忠、徐永昌、宋哲元、傅作義ハ省政府主席ノ

儘加入スルコト）

㈡傅作義、孫魁元、呉光新、魏宗瀚、秦徳純、門致中ヲ軍事委員会北京分会委員ニ任ス

25　昭和8年5月4日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

黄郛の駐平政務整理委員会委員長就任に関する談話について

上海　5月4日後発
本省　5月4日後着

第二三八号

行政院駐平政務整理委員会委員長ニ任命セラレタル黄郛ハ三日新聞記者ニ対シ「自分ハ過去六ケ年野ニアリテ農村建設ニ興味ヲ持チ政務ヲ研究スル暇モナカリシカ最近蔣、汪ノ招ニ依リ南京、南昌ヲ訪レ時局ノ重大ヲ痛感シ是以上無関心ノ態度ヲ持続スルヲ得ス今回ノ任命ヲ受諾セル次第ナリ曩ノ北平政務分会ト今回組織ヲ見ルヘキ行政院北平政務整理委員会トノ相違ハ新機関ヲ行政院ノ一分会トシ以テ華北ノ行政ヲ従来ニ比シ一層国民政府ノ直接支配ノ下ニ置ク点ニアリ」トノ趣旨ヲ述ヘタル趣ナリ

26　昭和8年5月4日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

黄郛の時局収拾に関する構想について

上海　5月4日後発
本省　5月4日後着

第二四〇号

往電第二三四号（二三文書）[1]ニ関シ

黄郛ノ駐平政務整理委員会委員長任命ハ三日ノ中政会議ニテ決定シ二十三名ノ委員ト同委員会組織大綱ト共ニ四日ノ当地各新聞ニ発表セラレタルカ同日本使黄ト会見シタル処右就任決定ノ経緯等ニ付同人ノ語ル処左ノ通

一、自分（黄）ハ蔣介石及汪精衛ノ懇望ニ依リ先月下旬南京ヲ経テ南昌ニ赴キタルカ同方面ノ共匪討伐ハ当初討伐軍勝利ヲ得油断シタル為最近大ニ敗戦ヲ招キ士気沮喪ノ状態ニテ此ノ際蔣カ北上スルカ如キ事アラハ恐ラク二、三ケ月ヲ出テスシテ共産軍ノ長江沿岸進出ヲ見ル虞アリ一面広東派ノ反蔣運動モ盛ニテ此ノ儘ニテ進マハ国家ノ前途真ニ憂慮ニ堪ヘサルモノアリ今回蔣及汪ヨリ之等ノ事情ニ付説明ヲ受ケ北上方懇談セラレ尚先般汪帰国ノ際自分ヨリ行政院

長復職ヲ勧告シ必要アラハ自分モ援助ヲ惜マサル旨約束シ居リタル関係モアリテ俄ニ今回ノ任命ヲ引受クル事トナレリ

二、自分（黄）ハ従来屢勧告ヲ受ケタルモ国民党ニ入党セス現在党ノ組織及統制ニ対シテハ一般国民ニ不平鮮カラス日本モ亦不満ノ模様ナル処今直ニ歴史有ル国民党ヲ解散スルハ策ノ得タルモノニ非ス順ヲ追テ之ヲ改良スルノ外途無キモノト信シ居リ此ノ点ニ関シ今回就任ノ条件トシテ或種ノ了解ヲ取付ケ置キタリ

三、(2) 平津地方ニハ内外人旧友モ鮮カラス常ニ外国側トモ往復接触スルコトトナルヘク特ニ日支間ノ難局打開ノ為ニハ日本側ノ好意ニ俟ツ外無キ次第ナルモ現下ノ事態ニ鑑ミ急ニ日本人側ト露骨ニ往復接触スルハ却テ双方ニ不利ナリト考フルニ付暫クハ日本側ニハ冷淡ニ感セラルルコトアルヘキモ此ノ点特ニ諒察アリタシ

四、要スルニ自分ニハ

(一)党部ノ内容ヲ改善シ穏健ナル政治ヲ行ヒ切テ北方ニ其ノ範囲ヲ示シタキコト

(二)日支両国ノ間ニ橋渡ヲ為シ遂ニハ東三省問題話合措置ヲ作リ度コト

右二点ニ付非常ナル決心ト抱負トヲ抱キ此ノ難局ニ当ラントスル次第ナリ（黄ハ今回ノ赴任ハ最後ノ奉公ニシテ若シ失敗セハ将来恐ラク日支間ノ難局ヲ打開シ得ルモノ他ニ無カルヘシトテ其ノ決心ヲ繰返セリ）

次テ本使ヨリ長城内ニ於ケル支那軍ノ挑戦的行動ニ付警告シタルニ対シ黄ハ前線ニ対シ蔣介石ヨリ停戦方既ニ命令シアリ中央軍ハ之ニ服従シ居ルモ雑軍ハ命令ニ服セス随時妄動シ居ル実情ナルカ赴任後ハ此ノ点ニ付テモ尽力シ度キ積リニ付茲一ヶ月位大目ニ見テ貰ヒ度ク済南事変ニ於テ受ケタル如キ苦杯ヲ再ヒ舐メサル様願度旨切ニ懇願シ居タリ

尚黄ハ約一週間後出発赴任ノ予定ニテ其ノ前ニ張群先発シ北平ニテ各種ノ準備ヲ為スヘク又許卓然及李択一モ之ト前後シテ北上シ張ノ任務ヲ援助スヘシトノコトナリ

本電内容発表セサル様致度シ

27 昭和8年5月4日　内田外務大臣より在上海有吉公使宛（電報）

黄郛の駐平政務整理委員会委員長就任に関する新聞等の論評差止めについて

第六八号（暗）　本省　5月4日後6時40分発

黄郛起用通信ニ関スル件

貴電第二三四号（三文書）ニ関シ

黄郛ノ起用決定ノ通信（南京電通、上海朝日）ハ貴電接到前既ニ三日夕刊ニ掲載サレ朝日ニハ右通信ト同時ニ国民政府ノ態度変更セルモノト観測セル記事アリ今更本件論評禁止ノ措置ハ見合スコトトセリ尤モ連合電通ニ対シテハ直ニ支那宛発電ヲ差止メ本省出入記者ニ対シテハ係官ヨリ充分説示シ置ケリ

28 昭和8年5月6日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

英国公使に停戦斡旋の経緯に関する王克敏の談話について

天津　5月6日後発
本省　5月6日後着

第二五七号

天津造幣廠借款問題ニ関シ昨五日王克敏来訪ノ際本官ヨリ支那側ニ於テハ英米仏三国ニ対シ停戦調停ヲ依頼シ居ルヤニ伝聞スル処事実如何ト尋ネタルニ王ハ稍々狼狽ノ面持ヲ以テ極秘ニ打明ク可シトテ語レル要領左ノ通リ

客月二十日頃北平ニ於テ茶話会ノ席上蔣夢麟ヨリ列席ノ「ランプソン」公使ニ対シ長城一帯ニ亘リ日支停戦協定ノ斡旋方ヲ希望スル旨申出テ「ラ」ヨリ右ハ少クトモ何応欽ノ如キ軍事上ノ責任者ノ希望ナルニ於テハ考慮スヘシト応酬シタルニ依リ蔣ハ直ニ何応欽ノ同意ヲ取付ケ其ノ旨「ラ」ニ伝ヘタルカ其ノ後「ラ」ハ蔣ニ対シ東京英国大使ヨリモ「ラ」ニ停戦斡旋方ヲ慫慂シ来リタルヲ以テ本国政府ニ請訓セル処日支両国共希望スルニ於テハ斡旋ニ乗出シ差支無キ旨回訓有リシモ現ニ支那側ニ於テハ広東方面ハ勿論南京政府要人中ニサヘ抗日ヲ高唱シ日支協定ニ反対シ居ル始末ニテ（同席ノ王揖唐ハ羅文幹カ南京ニ於テ某英国書記官ニ対シ協定反対ヲ強調セル事実有ル由ヲ聞クカ「ラ」ノ南京政府要人云々ノ言ハ此ノ事実ヲ意味スルモノナルヘシト言ヲ挾メリ）支那側ノ希望斯ク一致シ居ラサル此際到底斡旋ノ余地無シト告ケ客月二十七日以来「ラ」トノ話ハ中絶ノ姿ナリト　右発表御見合アリタシ

29　昭和8年5月8日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

張群日本側の停戦意向打診について

天津　5月8日後発
本省　5月8日後着

第二五九号

本八日当地着ノ張群ハ周竜光ト共ニ来訪シ本官ニ対シ同人ハ最近南昌ニ出張中急遽北上ヲ命セラレシ為黄郛其ノ他政府要人トモ充分打合ノ遑ナク出発シ来リ本日夕刻北平ニ向ヒ同地ニ約二週間滞在ノ予定ナルカ今回北上ニ付特ニ指示セラレシ任務ナキモ大体一週間後ニ北上ノ予定ナル黄郛ノ為予メ北支ノ現状ヲ視察シ且北支ノ時局打開策ニ関シ何応欽等トモ篤ト協議シ置ク程度ノモノニ過キス尚日支ノ現状トシテ例ヘハ停戦協定説ニ関シテモ日本側ハ支那側カ北支ノ反蔣運動牽制ノ為之ヲ言出シ居レリトシ支那側ニ於テハ相当責任アルモノサヘモ日本側ハ停戦ヲ云為シ乍ラ実際ハ虚ニ乗シ平津地方ニ迄進出スル意図ナリト疑ヒ居ルカ如ク双方互ニ相信セサル態度ヲ執リ居リテ両国ノ接近ハ甚タ困難ナルカ自分ハ勿論黄郛ニ於テモ此ノ間ニ処シ出来得ル限リ双方ノ了解ヲ進メ両国関係ノ調整ヲ計ル確信ト抱負ヲ有スルモノナル旨ヲ語レリ尚一両日前上海ヨリ来着ノ米国費府「ヤッフェ、シンジケイト」代表「ワイス・プラット」ノ如キ偶々本官ニ対シ日本軍ハ其ノ従来ノ態度ニ鑑ミ必ス平津地方ニ進出シ来ルモノト自分ハ確信スト強調シ居レル処右ハ恐ラク一部支那側方面ノ空気ヲ伝ヘ居ルモノニシテ前記張ノ談話ト一脈相通スルヤニ認メラルルニ付右御参考迄ニ申添フ

30　昭和8年5月8日　内田外務大臣より在英国松平大使、在米国出淵大使宛（電報）

灤東方面中国軍の動向について

本省　5月8日後2時50分発

合第九〇六号

灤東方面ノ形勢ニ関スル件

軍部情報ニ依レハ灤河以西ニ退却セル支那軍ハ我軍カ既定ノ方針ニ基キ長城ノ線ニ復帰ヲ開始セルヲ機トシ再ヒ灤東ニ進出シ永平、昌黎、撫寧ノ各地ヲ占拠シ何柱国軍ハ北戴河一帯ニ陣地ヲ構築シ再ヒ挑戦的態度ニ出テツツアル由ナリ尚我軍ノ最前線ハ現在海陽鎮及台頭営ニアリ又丁強軍ハ海陽鎮ノ南西方ニアル由ナリ

31　昭和8年5月9日　内田外務大臣より在英国松平大使、在米国出淵大使宛（電報）

関東軍の灤東方面への軍事行動開始について

本省　5月9日後3時発

合第九一六号

往電合第九〇六号（三〇文書）ニ関シ

曩ニ灤東各地ニ進出セル我軍ハ支那軍ノ灤西ヘノ撤退ト共ニ長城線ニ引揚ケタル処支那軍カ又々灤東ニ進出シ来リタルハ右往電ノ通リナルカ該支那軍ハ我カ前線ニ対シ執拗ナル挑戦ヲ反覆スル有様ナルニ鑑ミ関東軍ニ於テハ長城線確保ノ為メ右支那軍ノ掃蕩ヲ決意シ五月七日夜半行動ヲ開始シ八月遷安、撫寧等各地点ニ進出セル趣ナリ

32　昭和8年5月9日　内田外務大臣より在英国松平大使、在米国出淵大使宛（電報）

軍事行動開始に関する関東軍の声明および黄郛に有吉公使の意見伝達方について

本省　5月9日後9時発

合第九一九号

北支ノ状勢ニ関スル件

北支方面ノ形勢ニ関シ何等御参考迄左ノ通

一、関東軍ハ長城以南灤河以東地区ノ支那軍ニ対スル攻撃開始ニ関シ八日大要左記趣旨ノ声明ヲ発セリ

我軍ハ軍自体ノ安全及長城線確保ノ為メ曩ニ灤東方面ノ支那軍カ長城線ヲ守レル我軍ニ対シ攻撃ヲ加ヘ来ルヤ灤東ニ出動シ支那軍ヲ反撃セルカ支那軍ノ灤西ヘ撤退スルト共ニ既定ノ方針ニ基キ長城線ニ帰還セル処支那軍ハ之レニ乗シ再ヒ灤東ニ進出シ建昌営其ノ他ニ於テ執拗ナル挑戦ヲ繰返シ我第一線ノ諸部隊ヲシテ応戦ニ遑ナカラシメ居ルヲ以テ我軍ハ断然一大痛撃ヲ加ヘ挑戦意志ヲ挫折セシムルニ決セリ

二、南京政府ハ五月三日中央政治会議ニ於テ行政院駐平政務整理委員会ヲ設立シ黄郛ヲ委員長ニ任命セル処六日黄郛ハ親近ノ邦人ニ対シ日本軍側ノ真意ヲ知リ度キ旨申出タル趣ナリシヲ以テ我方ニ於テハ右邦人ヲシテ有吉公使ノ意見トシテ「日本軍ハ支那軍カ挑戦セサル限リ進出セ

サルコトハ累次ノ声明ニ依リ明カナリ又日本側トシテハ北支ニ於ケル責任者ノ何人ナルヤヲ問ハス苟モ支那軍ノ挑戦的行為ヲ抑ヘ且排日運動ヲ弾圧スルモノニ対シテハ好意ヲ以テ之ヲ迎フヘク殊ニ黄郛カ北上ノ上右ノ如キ態度ニ出ツルコトニ対シテハ努メテ好意的態度ヲ執ルコト然ルヘキ旨既ニ本使ヨリ政府ニ意見ヲ上申シ居ル次第ナルモ現在ノ如ク支那軍カ挑戦的態度ニ出テ来ルニ於テハ日本軍ハ之ヲ打タサルヲ得ス要スルニ支那軍カ日本軍自体ノ安全及満州国国境ノ確保ニ対シ危険ノ及ハサル様行動セハ問題ナキ訳ナリト思考スル」旨黄郛ニ伝達セシムルコトトセリ

33　昭和8年5月11日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

黄郛日中関係改善の決意表明について

上海　5月11日後発
本省　5月11日後着

第二五二号（見当ラズ）
貴電第七二号ニ関シ
十日橘ヲシテ貴電ノ通リ本使ノ意向黄郛ニ伝ヘシメタル処黄ハ最近華北ノ事態ニ鑑ミ自分ノ出発ヲ暫ク延ス可シト忠告スル者有ルモ自分トシテハ此ノ際出発ヲ延期セハ外ニ此ノ難局ニ当ル者無カル可ク折角蔣汪ノ諒解ヲ得タル両国関係改善ノ端緒ヲ失フハ遺憾ナレハ近ク出発ノコトニ決心シ居ルモ自分等ニ於テ支那軍ヲ抑ヘ得ル以前ニ日本軍ノ進出トナリ済南事件ノ二ノ舞ト為ルヤニモ予感セラレ憂慮ニ堪ヘサルモノ有リ日本側各方面ニ於テ自分今回ノ決心ト誠意ニ同情シ好意有ル態度ニ出テラルル様斡旋方切望スル旨本使ニ伝達方依頼シタル趣ナリ

34　昭和8年5月11日　※在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

張群より平津地方における日本軍の策動取締方要請について

北平　5月11日後発
本省　5月11日後着

第一九八号
（弥吉郎）須磨ヨリ
十日張群本官ヲ来訪シ内話セル所左ノ通
一、八日着平以来何応欽等当方面各要人ト会談ノ結果時局稍重大ナルヲ認メ実ハ御相談ニ上リタル次第ナルカ黄郛、何応欽其ノ他大小日本出身者ヲ以テ時局ノ収拾ニ当ラシメントスルニ際シ恰モ日本軍カ関内ニ進出ヲ開始シ折角ノ機会ヲ無ニシ遂ニ日本出身者ヲシテ活動ノ余地無キニ至ラシムルヤニ懸念セラルル処何トカシテ黄郛来平ノ機会ニハ同人ヲシテ充分活躍セシメラルル様特ニ日本当局ノ御考慮ヲ煩度シ
二、実ハ黄郛カ今回絶大ナル決意ヲ以テ北方時局ノ処理ニ乗出シタル裏面ニハ申ス迄モナク蔣介石及汪精衛ノ断乎タル決意存スル次第ナルニ付日本側ハ此ノ際支那側ノ言分等ヲ顧慮スルコトトナリ進ンテ其ノ支那ニ対スル要求ヲ明示セラルルコト然ル可シ蓋シ日本カ満州事変以来直接支那ニ対シ未タ何等ノ意思表示無キハ解シ難キ次第ナレハ此ノ機会ニ「イニシアチーブ」ヲ執ラレ日支両国感情復興ノ端緒ヲ作ラレ度シ
三、尤モ日支関係ヲ一挙ニ解決スルカ如キハ望ミ難キモ先ツ前述ノ如キ日本側ヨリノ申出ニ依リ停戦ヲ具体化シ漸次両国間ノ空気ヲ緩和セラルル事肝要ナルカ之カ為ニ先ツ是非共御願シ度キハ平津地方ニ於ケル日本軍部各機関ノ策動ヲ厳格ニ取締ラルル事ナリ
右会談中張群ハ関東軍今次ノ軍事行動ニ依リ支那側軍部当局ノ狼狽振リヲ隠シ得サリシカ同十日劉崇傑、湯爾和、祝惺元等モ本官ニ対シ同様日本出身者ノ為特ニ寛大ナル措置ニ出テラレ度キ旨並ニ黄郛来平以来ノ好機ヲ逸セラレサル様願ヒ度シト懇願セン計リノ申入ヲ為シ殊ニ湯爾和ハ同日何応欽ノ意向ナリトテ何モ来平以来内心固キ決心ヲ以テ日支関係ノ恢復ニ当ラントシツツアル旨及先般英米仏各公使ニ停戦ノ申入ヲ為シタル際ハ実ハ同時ニ日本側ニモ夫ト無ク同様ノ申入ヲ仄メカシ（永津武官ノ許ニ雷某ナル者ヲ遣ハシタル事実有ル由）居リ決シテ外国ヲ利用セントシタル筋合ニ非サルカ故ニ意ノアル所ヲ察セラレ度シト伝達スル所アリタリ

35　昭和8年5月12日　在満州国武藤大使より内田外務大臣宛（電報）

灤河方面における日本軍の進撃状況について

新京　5月12日後発
本省　5月12日後着

第五〇七号

第八師団主力ハ十一日夜石匣鎮ヲ占領続イテ南下シツツアリ第六師団主力ハ小部隊ヲ遷安以南灤河東方地区ニ残シ遷安上流地域ヨリ灤河ヲ渡リ遵化及豊潤方面ニ敵ヲ追撃中ナリ軍ノ意図ハ執拗ナル支那側ノ挑戦的行為ヲ挫折セシムルニアリ従来ノ声明ニ何等変更ヲ加ヘタルモノニアラス

36　昭和8年5月12日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

日本軍の長城線引揚、中国軍の密雲・遵化・灤州線への撤退による停戦協定成立に関する王克敏の談話について

上海　5月12日後発
本省　5月12日後着

第二五三号

先般来滬中ノ王克敏カ十一日有野ニナセル談話中御参考迄左ノ通（発表見合セラレ度シ）

一、華北ニ於ケル当面ノ急務ハ速ニ日中両国軍隊ノ不進出区域ヲ設ケ両軍ノ衝突ヲ防止スルニアル処目下両国側自ラ進テ之ヲ言ヒ出スコトヲ好マス他面先月中英国公使蔣夢麟ト会談ノ際調停問題カ話題ニ上リタルモ（北平発閣下宛電報第一八一号参照）（二二文書）其ノ後英国公使ハ同月二十五、六日頃本国政府ヨリ日支双方ニ於テ同意ナラハ調停方斡旋ン差支ナキモ英国側トシテ進テ交渉スルコトハ避クヘシトノ訓令ヲ受ケタル模様ニテ話ハ其儘立消トナリタル為現在ニテハ全ク三竦ノ状態ニアリ

二、然ルニ前線ノ現状ハ日本側ハ其ノ進出ニ対シ支那側ノ前進挑戦ヲ理由トシ居ル処従来一部方面ノ例外ヲ除キ支那軍ノ行動ハ概ネ逆襲又ハ挑戦ト云フ程ノモノニアラス先般日本軍後退ノ際モ僅ニ地方ノ治安維持ノ為少数ノ軍隊ヲ入レタル程度ニ過キス殊ニ今日ニ至リテハ長城以南ノ支那軍ノ損害約三万ニ達シ支那側ニテハ此ノ上反抗ノ意思モナク又能力モナキ実情ニアリ

三、右ノ如キ状態ニ付自分（王）ハ此ノ際双方停戦協定等正式ニ保障ノ途ハ付カストモ一方日本側ニテ大国ノ襟度ヲ示シ軍ヲ長城ノ線迄引揚ケ他方支那側ハ一定線（例ヘハ密雲、遵化、灤州ノ線）以外ニ進出セサル様何等カノ諒解ニ依リ実現ノ方法ナキモノカト考ヘ居リ此点ニ付黄郛ノ今回ノ北上ヲ大ニ期待シ居レリ

四、黄郛ハ今回蔣介石及汪精衛ヨリ相当広汎ナル権限ヲ与ヘラレ居ル模様ナルカ其ノ平素ノ主張ニ見ルモ党部ノ改善ニ相当力ヲ用フルモノノ如ク其ノ第一歩トシテ就任ノ上ハ平津地方ノ救国会抗日会等ノ活動ヲ封スルモノト期待サレ居レリ

尚王ハ北平政治委員会設置ニ関シ黄郛ト下打合セノ為南下セリトノ説ヲ否定シ単ニ私用ノ為来滬シタルニ過キス十三日発帰平ノ予定ナルモ別段委員会ニテ重要ナル役割ヲ引受クル考ナキ趣答ヘタル由ナリ

37　昭和8年5月13日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

黄郛の使命遂行協力のため日本軍の行動抑制方について

上海　5月13日後発
本省　5月13日後着

第二五七号

一、[1]往電第二四〇（二六文書）号本使黄郛トノ会見ニ依リ得タル印象及其後入手セル各方面ノ情報ヲ綜合スルニ今回黄郛北上ノ上ハ支那軍ヲ統制シテ停戦ヲ確保シ北方事態ノ安定ヲ計ルト共ニ国民党ノ改善乃至排日諸団体ノ活動取締等ニ依リ日支関係改善ノ端緒ヲ作ルカ為努力スルモノト考ヘラル而シテ右黄郛ノ抱負ニ付テハ蔣、汪等国民政府首脳者カ愈行詰レル内政及外交ノ局面打開ノ必要ニ迫ラレ対日態度ノ転換ヲ決意シタルモノノ如ク之カ遂行ニ対シ充分ノ了解ヲ与ヘタルモノト思考セラルルヲ以テ（数日前汪精衛ハ其要人ニ対シ黄郛ノ使命遂行ニ対スル日本側ノ態度予測シ難キノミナラス之ニ対スル一般国論殊ニ反蔣各派ノ反対甚シキモノアルヘク[2]蔣介石及自分トシテハ両国関係改善ノ為一大冒険ヲ敢行シタル訳ニテコノ点ニ付テハ日本側ノ同情有ル態度ヲ切（望）スル旨語リタル趣ニテ又最近杜月笙、張嘯林、王暁籟等当方面排日ノ巨頭連カ頻リニ内密乍ラ我方ニ接近シ来リ殊ニ張ノ如キハ館員ニ対シ国民党ノ専制ヲ攻撃シ居ルカ如キ蔣介石ノ心境ヲ反映スルモノトモ認メラル）黄郛ハ前記難事業ノ遂行ニ対シ充分ノ決心ト誠意トヲ有スルモノト認メラル

二、尤モ黄カ果シテ貴電第七二号等我方期待ノ如ク其抱負ヲ実行シ得ルヤ否ヤハ遽カニ予測シ難キ事勿論ナルカ今回黄カ失敗スル場合ニハ彼ノ忌憚ナキ告白ノ如ク北方及西南ニ於ケル反蔣運動ノ進捗ト相俟テ長江方面迄モ共匪

軍ノ進出ヲ見ルヘキハ明カニシテ独リ黄等初メ日本ニ理解ヲ有スル者等ヲ失墜セシムルノミナラス終ニ支那全局ノ動乱ヲ招致シ時局収拾ノ途無キニ至ルヘシト認メラル

三、[3] 他方最近著シク緩和ノ徴アリタル当方面ニ於ケル支那側ノ対日感情ハ数日来華北ニ於ケル我軍事行動ノ進展ニ伴ヒ頓ニ逆転シ殊ニ華北方面ニ於ケル極度ニ不安ナル状況（数日前来滬セル白耳義公使ハ十二日本使ニ対シ同方面外支人ノ人心恟々タル実情ヲ語リ憂慮ニ堪ヘサル旨述ヘ居タリ）長引クニ於テハ支那側ノ捨鉢的態度ヲ激成スルハ勿論遂ニハ永久ニ民心ヲ失フニ至ルヘク北平発閣下宛電報第一九九号我飛行機ノ活動ノ外同方面ニ於ケル我軍部ノ陰謀ト称セラルルモノカ当方面ニ大袈裟ニ伝ヘラレ居ル事情等ニモ鑑ミ前記ノ如ク支那全局ノ動乱ヲ来ス場合帝国ノ対外関係ハ或ハ今日以上ノ困難ニ立至ルナキヲ保セス

四、[4] 以上各般ノ事情ヲ考量スル時ハ帝国トシテハ此ノ際黄郛ヲシテ前記ノ如キ使命遂行ノ為手腕ヲ振フノ余地ヲ与ヘ其ノ結果如何ニ依テハ之ヲ契機トシテ両国関係改善ニ協力スル事得策ナルヘク之カ為今暫ク静観的態度ヲ執リ平津地方ニ於ケル所謂軍ノ陰謀ノ如キモノカ世上ニ喧伝セラルル事無キ様中央及出先ニ於テ充分ニ手配スルト共ニ関内ニ於ケル軍事行動ハ国境ノ安全確保上絶対ニ必要ナルモノ以外之ヲ避クル事頗ル肝要ト存セラル

日支関係ノ将来及国際関係ノ全局ヨリ見テ現下ノ情勢カ極メテ機微ナルモノアリ右ハ既ニ御考量中ノ事ト存セラルルモ卑見申進ス

38　昭和8年5月15日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

日本軍飛行機の飛来等による北平の恐慌状況について

北平　5月15日後発
本省　5月15日後着

第二〇四号

我方飛行機ノ飛来及皇軍ノ密雲付近進出ニ伴ヒ当方面人心ハ不安ノ度ヲ増シ南京、上海、天津等安全地ヘノ避難者ニテ連日各列車ハ雑踏シ殊ニ十四日以来市内各所ノ要地ニ土嚢（一箇所百乃至百五十嚢）ヲ積ミ戒厳時間後ハ之ニ武装兵ヲ配シ機関銃ヲ備ヘ付ケ来レル為一般ハ今ニモ日本軍襲来スルヤノ感ヲ抱キ不安ニ伴フ謡言百出シ居ル処右ニ関シ諜者ノ情報左ノ通リ

一、前記土嚢ノ防（備）工事ハ治安当局ニ於テ共産党及反動分子カ日本側ト結託シ市内ニ暴動ヲ起シ秩序維持ノ為日本軍ヲ進出セシメントスル謡言ニ惧レタル措置ナリ

二、十四日軍事委員会会議ニテ当地防備司令官トシテ何応欽ハ商震ヲ擬シタルニ対シ商ハ兵力ノ乏シキニ藉ロシテ固辞セル結果傅作義ニ決シ傅ハ在京兵二箇旅ヲ入城セシムル事ト成レリ

三、当地商民有力者ハ南軍ノ北平駐屯ニ危惧ヲ感シ他ヘ移駐方ヲ運動シ前記傅作義ノ入（城）決定ハ其ノ一端ナルカ時局ノ推移ニ依リテハ治安維持会ヲ組織シ熊希齢、又ハ呉佩孚ヲ会長ニ推サントシツツアル模様ナリ

39　昭和8年5月15日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

停戦問題に関し永津武官熊斌と会見について

北平　5月15日後発
本省　5月15日後着

第二〇五号

何応欽ハ殆ト毎日雷寿栄ヲ永津武官ノ許ニ派シ停戦ニ関スル日本側ノ意向ヲ尋ネ居レルカ同武官ハ当方ト協議ノ筋ニ依リ今日迄実質ニ触レタル話ヲ避ケ居タルカ最近雷ハ永津武官ニ何応欽若ハ熊斌ニ会見方ヲ懇願シタルニ付武官ハ十五日熊斌ト会見シタルカ右会見ノ状況ハ北平電第五五五（ママ）（号）ニテ御承知アリタシ

40　昭和8年5月15日　在南京日高総領事より内田外務大臣宛（電報）

黄郛津浦線にて北上について

南京　5月15日後発
本省　5月16日前着

第二七四号

本十五日午後七時黄郛ハ王克敏其ノ他十数名ヲ伴ヒ津浦線ニテ北上セリ

41　昭和8年5月15日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

時局収拾に関する中国側の困難な立場を張群より須磨に談話について

天津　5月15日後発

第二六七号　　本省　5月15日後着

北平発閣下宛電報第一九八号（三四文書）ニ関シ

張群ハ十三日須磨ノ離平間際ニ面談ヲ申入レ左ノ通リ会談セル趣ナリ

灤河、古北口両方面共激戦アリ避難民ハ北平、天津ニ殺到シ来リ時局漸ク重大ヲ加ヘタル処日本軍ハ何処迄来ル積リナリヤト頗ル沈痛ナル面持ニテ尋ネタルニ対シ須磨ヨリ軍事上ノコトハ知ラサルモ支那軍ハ依然抵抗ヲ試ミ居ル由ニテ支那側コソ何処迄遣ル積リナリヤト反問シタルニ張ハ実ハ自分ハ奉天事件突発直後宋子文等カ所謂共同委員会位ニテ片付ケタランニハ今日ノ事態ハ勿論無ク又先般熱河問題ニ関シ貴官ヨリ黄郛ニ試案ヲ申出テタル際思切ツテ処理シタランニハ空気モ転換シタラントハ信シ居ルモ敗戦者トシテハ中々思切レルモノニ非ス而モ斯ク矢継早ニ押詰メラレテハ支那側ハ実ノ処冷静ヲ欠キ自暴自棄ニ陥ルノ外無キニ付先日御話ノ通日本側ヨリ一刀両断解決ノ歩ヲ進メラレ度シト述ヘタルニ対シ須磨ヨリ八日面会ノ際汪栄宝モ胡適モ同様自暴自棄論ヲ申出テタルカ斯クテハ支那コソ解決ノ門戸ヲ鎖スモノニテ支那ノ為ニモ遺憾ニ堪ヘスト応酬シタルニ張ハ自分ハ黄郛ト共ニ此ノ間ノ事情ハ熟知シ居ルモ日本ハ英米仏等ノ第三者ヲ介入セシメテハ話ニナラスト折合ヒ呉レス去リトテ支那側ト直接話合ハルル気配モ見セス強硬一点張ナレハ何トモ手ノ下シ様無キ次第ナリト零シ抜キタルニ依リ須磨ヨリ今ヤ支那ハ平常ノ感情ト猜疑ヲ棄テ本当ニ目覚メテ大局ヨリ実際的解決ヲ決意スヘキ秋ニ非スヤト応酬シタリ

42　昭和8年5月15日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

停戦斡旋状況に関する英国公使の須磨への談話について

第二六八号　　天津　5月15日後発　本省　5月15日後着

英国公使ハ手術ヲ受ケタル為人ヲ避ケテ静養中ナルカ十三日須磨ノ離平ニ際シ先方ヨリ特ニ面談ヲ求メ左ノ通リ申入レタル趣ナリ

(一)支那側ニ対シテハ其ノ後モ機会アル毎ニ満州問題等ハ長

キニ亘ル隠忍ニ依ル外解決ノ途ナケレハ一日モ早ク現在ノ無意義ナル抵抗中止方説示シ先般来何応欽ヲ始メトシ支那要人ヨリ自分ニ斡旋方申出テタル場合ニモ其ノ都度支那側ノ断然タル注意ヲ促シ置キタル次第ナルカ何分ニモ支那側トシテハ満州問題等ノ根本問題ニ対シテ「コンミット」スルコトナシニ停戦ヲ実現スルコト困難ナル実情ニ困惑シ居リ何応欽始メ責任ヲ以テ乗出シ得サル様見受ケラレ旁自分ハ暫ク事態ヲ静観シ度キ所存ナリ

(二)然ルニ日本軍部最近ノ思ヒ切リタル関内進出ニ依リ支那側及其ノ他ノ方面（外交団ヲ指スカ如キ口吻ナリキ）ヨリ自分ニ乗出シ方ヲ申出来ル向アルモ打明ケテ申セハ日本ニハ自分ヲ排日ナリト誤解シ居ル者モアル様ナレハ自分トシテハ支那ニ駐在スル公使トシテハ出来得ル限リ誠心誠意ヲ以テ日本ニモ尽シ居ル考ニテ今回モ実ハ何トカ犬馬ノ労ヲ取リ度キ所存ナルモ昨年上海事件交渉ノ当初ニ於テ自分カ日支間ノ会商ヲ先ツ「アレンヂ」シタルニ結局日本側ノ「アルティメータム」ヲ支那側ニ取次キタルヤノ観ヲ呈シタルコトモアリ旁今回モ日本側ノ意向ヲ余程突詰メタル上ニ非サレハ何事モ成就セサルヘシト考ヘ居ル次第ナリ

(三)尤モ平津地方ノ土地柄ニモ顧ミ何時迄モ斯ノ如キ事態ヲ続クル訳ニモ行カサルヘキカ故ニ或ル一定ノ時機来ラハ（自分ハ軍事上ノ「ライン」ハ知ラサルモ）文書ノ調印等ニ依ラサル事実上ノ停戦ヲ遂クルノ要アルヘシト思考セラルル処右ハ勿論軍事上ノ諒解ナルモ目下ノ事態ニ鑑ミ或ル程度迄外交交渉ニ依ラサレハ此ノ儘ニテハ達成シ得サルヘク又停戦状態実現後空気転換ノ要モアルヘキカ故ニ此ノ際日本側ニ於テモ政治的ニ考慮ヲ為サルヘキコト鮮カラスト信ス

(四)自分ハ昨年十一月賜暇帰朝中外務省ヨリ本年末迄ニハ大使級ノ異動六箇所モアル筈故ニ其ノ際自分ヲモ動カスコトトナルヘキニ付右決定ノ上ハ此ノ夏中ニハ一旦帰英方内談アリシカ其ノ後音沙汰ナク或ハ経済会議関係ノ人繰リ及駐露大使ノ帰英等ニ依リ右ノ話ハ沙汰止ミトナリシヤモ知レサルカ何レニセヨ即急ニハ支那ヲ離ルル模様モナキニ付日支時局ノ為此ノ上トモ精々御手伝ヒ申上ケ度シ

43　昭和8年5月16日　在満州国武藤大使より内田外務大臣宛（電報）

日本軍の北平付近進出に対する中国各地の反響報告方について

新京　5月16日後発
本省　5月16日後着

第五一八号

本使発北平、天津、支、南京、広東、済南、漢口、英、米宛電報

合第二〇二号

五月十日以後ニ於ケル皇軍ノ所謂第二次攻勢ハ頗ル順調ニ進行シ北平ヲ距ル十二里ノ密雲ニ迫リツツアル処軍側ノ希望モアルニ付貴地方ニ於ケル反響等此ノ上トモ随時電報アリ度シ

44　昭和8年5月16日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

中国軍の撤退線、中立区域への巡警配置等に関する許卓然の談話について

北平　5月16日後発
本省　5月16日後着

第二〇七号

十六日答礼ノ為許卓然ヲ往訪セリ許ハ黄郛ハ愈十七日着平政務委員会長ニ就任スヘキカ地位ノ関係上頻繁ニ日本側ト会見シ得サルヲ以テ自分カ其ノ使者トシテ日本側トノ間ニ折衝ノ任ニ当ルコトトナルヘキ旨挨拶セルヲ以テ本官ハ然ルヘク応酬シ仮令黄郛カ来平スルモ今迄ノ如ク徒ニ面子ノ末節ニ拘泥シ居ルニ於テハ到底局面ノ打開ハ困難ナリト客年往電第六九六号学良ニ対スル警告ノ例ヲ引キ小ナル面子ヲ棄テ大局ニ立脚シ政治的解決ヲ要スル旨説キ聞カセタル処許ハ之ヲ肯定ノ上黄今回ノ北上ハ黄カ茲一年以来主張シ来レル政策ヲ蔣介石ニ於テ容レタル結果ナルニ顧ミ必スヤ方策アルヘシト述ヘタルニ付黄ノ方策ハ蔣介石国民政府ノ方策ナルヘキ処停戦ニ就テハ如何ナル腹案アルヤト尋ネタル処許ハ極秘ノ含トシテ目下支那軍ハ密雲方面ノ中央軍カ対内的面子ノ関係上已ムナク抗戦シ居ル外灤河方面何柱国等ハ陸続退却中ノ実情ニテ停戦ニ就テハ黄ハ長城ヲ距ル五十支里ノ地点地名ヲ言ヘハ密雲迄退ク考ヲ有シ居リ此ノ点ニ就テハ上海ニ於テ日支間ニ既ニ話合着キ居レリト述ヘタリ

依テ小官ハ過日英国公使ニ話シ置キタルコトハ何応欽モ聞キ居ルコトト思考スルカ如何ト問ヒタルニ許ハ同公使ハ右ヲ何ニ通スルト共ニ英国政府南京英国官憲ニ電報シ南京ニテ国民政府ニ申入レシメタル処羅文幹ノ強硬ナル反対ノ為右ノ話ハ挫折スルコトトナリ又本国ヨリハ日支意見ノ一致ヲ見タル場合ニハ調停ニ乗出シ差支ナキ旨ノ回訓ニ接シタル趣ナリ又何ヨリ政府ニ対スル請訓ニ対シテハ汪等ノ反対ニ依リ該案ニ同意スヘカラサル旨回訓アリタル旨ヲ答フ次ニ日支双方カ約ニ反シテ一足線外ニ進出スルコトナキコトヲ確認スル方法ニ付テハ如何ニ考ヘ居ルヤト問ヒタルニ其点ニハ気付カサリシカ只今ノ思付トシテハ其ノ中間地帯ニハ巡警ヲ配置シテ治安ニ任セシムルコトハ如何ト言ヒ居タリ最後ニ取極ノ方法ニ関シ日支ノ意見一致ヲ見タル上ニ於テモ右羅ノ態度並ニ内政関係ヨリ支那側ヨリ直接日本側ニ申入ルルコトハ困難ニ付英国公使ノ発案ノ如キ体トシテ日支双方カ之ニ同意ヲ与フル形式トシタキ腹案ナリト言ヒ居タリ

45　昭和8年5月16日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

平津地方に対する軍部の意向に鑑み黄郛等との接触振り問合せについて

第二七〇号

貴大臣発支宛電報第七二号ニ関シ

当地軍部及関東軍ハ形式ノ如何ヲ問ハス北方ニ南京勢力ノ及フヲ絶対ニ不可ナリトシテ平津地方ニ第三勢力ヲ樹立スヘシトノ意見ニ大体一致シ居ルヤニ察セラレ今般黄郛北上ストモ右ノ次第ニテ何等成果ヲ期シ難キ処黄北上セハ従来ノ関係ヨリ或ハ直接間接ニ本官トノ接触アルヘキニ付テハ冒頭貴電ハ軍部ト何等御打合セノ結果ナリヤ本官心得迄ニ至急承リタシ

46　昭和8年5月16日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

呉佩孚、張作相等の独立政権樹立計画に関する特務機関等の策動について

天津　5月16日後発
本省　5月17日前着

第二七二号

当地特務機関ノ大迫（通貞）中佐ハ最近ニ至リ呉佩孚カ其ノ旧幕僚

ヲ通シ密ニ満州国側ト連絡シ場合ニ依リテハ河北ヲ地盤トシ復辟運動ヲモ起サントスルノ意図アルヲ看取スル一方張作相カ往電第一九五号所報ノ如キ立場ニアリ右両者ノ間ニ一脈通スルモノアルヲ察知シ張ニ依リ旧東北軍ノ残部ヲ操縦シ呉ニ依リ于学忠ノ軍ヲ動カシ両者合シテ約十五万ノ兵力ヲ以テ河北ニ一独立政権ヲ樹立セシメントノ計画ヲ樹テ本月九日大迫ハ板垣(征四郎)ニ代リ部下ノ上角、謝魯生等ト共ニ赴平シ呉ト会見シ差当リノ運動費トシテ五万元ヲ交付シ張作相立ツニ於テハ呉モ直ニ右運動ニ加ハル諒解ヲモ取付ケ爾来板垣一派ハ当地ニ於テ百万元提供等ノ条件ヲ以テ極力張ノ奮起ヲ説得シ居ル趣ニテ右ハ其ノ運動ニ参加シ居ル重要分(子)カ極秘トシテ本官ニ内話セル所ナルカ尚具体的行動ハ日支関係等ニ依リ平(津)地方混乱ニ陥ル機会ヲ利用シ前記ノ兵力ヲ背景トシ北平天津其ノ他河北重要都市ニ治安維持会ヲ設立シ其ノ首脳ニ呉佩孚ヲ推戴シ南京政府ニ対シ抗日戦ノ停止及中央軍ノ南方引揚ヲ要求シ抗日雑軍等ニ対シテハ長城ヨリ一定ノ距離ニ後退ヲ強要シ斯クシテ日本軍ト事実上ノ停戦ヲ実現シ一方南京側ハ其ノ体面上斯ル行動ヲ承認スル筈ナキヲ以テ其ノ場合之ト絶縁シ独立政権ヲ樹立シ満州国ト提携セントスルモノニテ之ヲ呉ヨリ右一派ニ内示セル腹案ナル趣ナリ

元来特務機関関係ノ策動ハ極メテ統一ヲ欠キ現ニ呉ニ対シ右ノ如キ運動ヲ試ムル一方其ノ有力者于学忠ヲ満州国関係者ハ二回モ暗殺ヲ企テ失敗セルカ如キ事実モアリテ前記運動ノ成否甚タ疑ハシキ次第ナルカ該運動ハ往電第二二三八号(一一文書)所報直隷派要人ヲ中心トスル保境安民運動トモ略相通スルモノアリ且先般何応欽カ呉ノ衛隊解散ヲ申出テタル際呉ハ于学忠ノ大事ノ前ノ小事ナリトノ忠言ヲ聴キ之ヲ納得セル事実アルヲ以テ斯ル事情ヲ綜合シ該運動ノ成行注視中

47　昭和8年5月16日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

日本軍の灤西進出のため何応欽辞職申出説について

天津　5月16日後発
本省　5月16日後着

第二七四号

北寧鉄路局長銭宗沢ハ本十六日田中ニ対シ最近日本軍ノ灤西進出ニ依リ同鉄道ハ益々打撃ヲ蒙リ居ル窮状ヲ訴ヘタル

後日本軍ハ従来累次ノ声明ニ反シ無抵抗ノ支那軍ヲ爆撃ニ依リ追詰メツツ平津地方ニ迫リ居リ其ノ態度ハ支那国民ニ対シ挑戦シ居ルニ異ナラス何応欽ノ如キ全線ニ対シ引揚ヲ命シタル為南京政府及党部ノ忌憚ニ触レ而モ日本軍ノ進出止マス到底此ノ難局ニ耐ヘ兼ネ本日中央ニ対シ辞職電報ヲ発セル程ナリト語レル由御参考迄

48　昭和8年5月17日(注)　内田外務大臣より在北平中山書記官宛（電報）

停戦問題に関し参謀本部より永津武官あて重要訓令発出について

第七三号

北支停戦ノ件

北支方面停戦問題ニ関シ

永津武官ト何応欽側トノ接衝ノ模様ニ関シテハ陸軍側ヨリ随時内報ヲ受ケ居レルカ右ニ関シ十七日参謀本部ヨリ永津宛重要訓令ヲ発シタルニ付委細同武官ニ就キ御承知相成度

（編注）本電は日付不明であるが、一応五月十七日と推定し、仮に日付を付した。

49　昭和8年5月17日　内田外務大臣より在天津桑島総領事宛（電報）

軍部側に第三勢力樹立の意向なき旨について

本省　5月17日後3時10分発

第八八号

黄郛等トノ接触振リニ関スル件

貴電第二七〇(四五文書)号ニ関シ

支宛往電第七二号ハ陸軍側ト打合ノ結果ナルカ同電ハ上海方面ノ環境ニ於テ黄郛ナル特定ノ人物ニ対シ有吉公使ノ意見トシテ伝ヘシメタルモノナルニ付其ノ辺御含ノ上貴地ニ於テハ黄郛タルト又ハ其ノ他ノ要人タルトヲ問ハス苟モ責任ヲ以テ北支ノ事態ヲ収拾シ得ヘシト認メラルルモノカ誠意ヲ以テ何等申出ヲナシ来ル際ニハ右往電中段「殊ニ東洋ノ大局」ヨリ「意見ヲ上申シ居ル次第ナルモ」迄ヲ削除セル部分ノ趣旨ヲ含ミ形勢ノ緩急ニ応シ可然応接セラレ度尚ホ北支方面ノ形勢ニ関シテハ満州国国境確保ヲ主眼トスヘキコトハ天津軍及関東軍ニ徹底シ居ル筈ニテ従テ右両軍ニ於テ遮二無二第三勢力ヲ樹立セムトスルカ如キ考ナキコトハ当方ノ軍部ヨリ入手スル各般ノ情報等ニ顧ミ確実ト認メ

ラルル処貴官ニ於テモ適当ノ機会ヲ捉ヘ中村司令官(孝太郎)ト相当突進シテ意見ノ交換ヲ試ミラレ度又北平中山書記官及永津武官トモ此ノ上共密接ナル連絡ヲ取ラレ度

50 昭和8年5月18日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

北平到着の黄郛「一面交渉一面抵抗」の方針を記者団に談話について

北平　5月18日後発
本省　5月19日前着

第二一〇号

黄郛ハ天津駅着前其ノ乗用列車ニ爆弾ヲ投セラレタルモ（支那兵二名負傷）無事十七日午後四時半着平シ記者ノ質問ニ対シ左ノ如ク応答セル由

一、政務委員会ノ成立期日ハ委員未揃ヒノ為尚未定ナルモ会務ハ其ノ成立ヲ俟ツ迄モナク随時各委員ト接洽ノ上弁理スヘシ逼迫セル河北時局ニ対シテハ中央ノ「一面交渉一面抵抗」ノ方針ニ基キ善処スヘク外間伝ヘラルルカ如キ中日妥協説ハ確カナラス又軍事方面ハ依然何応欽ニ於テ負責弁理スヘキモ余モ亦随時意見ヲ交換スヘシ

二、之ヲ要スルニ対日交渉ハ短日月ニテ解決シ得ヘカラス河北ノ局部問題モ一切中央ノ指示ニ俟ツヲ要シ又外間伝ヘラルル平津軍事機関ヲ他ニ移転シテ日支緩衝地帯設置説ノ如キハ毫モ根拠ナシ

51 昭和8年5月19日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

特務機関の于学忠暗殺および暴動惹起に関する策謀について

天津　5月19日後発
本省　5月19日後着

第二七九号

第三政権独立ヲ画策シ居ル一派ハ往電第二七二号(四六文書)ノ如ク呉佩孚、張作相ヲ合作セシムル方策ノ下ニ呉ノ系統ニ属スル于学忠抱込ヲ策スルモノアル一方于ハ容易ニ動カサルヨリ其ノ部下将兵ヲ速ニ動カサシムル為于ヲ暗殺スヘシトスルモノアリ累次報告ノ于暗殺計画ハ実ニ右後者ニ属スル者ノ所為ナルハ支那側ニ於テモ之ヲ知悉シ警戒厳重ナリシ為悉ク失敗シタル処十八日森木(五郎)憲兵隊長ハ特務機関及郝（脱）其ノ外数名ノ支那人列席ノ場所ニ当館新坂署長ノ出席ヲ求

メ同夜ヲ期シ予テ彼等ノ手ニ依リ狩集メ置キタル支那人多数ヲ以テ郊外南開大学付近ニ於テ暴動ヲ起シ支那側警備ノ主力同方面ニ向ヒ居ル虚ニ乗シ別働隊ハ第一梯団本部ヲ襲撃シ予テ連絡ヲ執リ置ケル同団内ノ一部ト呼応シテ先ツ于ヲ暗殺シ更ニ同団ヲシテ兵変ヲ起サシムル計画ニシテ事態ハ直ニ租界ニ波及スルカ如キコトナキ見込ナルモ警備ノ直接責任者トシテ右承知シ置カレタシト話シタルニ対シ新坂ハ右計画ハ支那側ヨリ逸早ク内報ヲ受ケ居レル次第ヲ語リシ処（事実支那側ハ当夜南開大学方面ヲ中心トシ全市ニ特別戒厳ヲ実施セリ）森木等ハ之ヲ甚タ意外トシ倉皇トシテ同夜ノ計画ヲ中止セリ尚右策謀ト連絡シ側面的ニ行動ヲ起ス筈ナリシ石鳳鳴（旧閻錫山部下ニシテ師長タリシモノ）モ武器、佈告文、一味ノ徽章等迄準備シ居タルカ之亦中止セリ斯クシテ右策謀ハ一時中止セラレタルモ関係者ハ引続キ実行ノ機会ヲ狙フ旨語レリ尚当地駐屯軍側ニ於テハ勿論右計画ヲ承知シ居レルモ特務機関ノ工作ニハ干渉セストノ建前ニテ傍観ノ態度ヲ持シ居ルニ付軍首脳者ニ対シテハ此ノ上共自重方懇談シ置クト共ニ租界ノ警備ニ付万遺漏ナキヲ期シ居ル次第ナリ

52 昭和8年5月19日(注)　内田外務大臣より在上海有吉公使宛（電報）

特務機関側の新政権樹立運動等の策謀抑制について

第八三号

北支五省政権樹立問題

貴電第二六七号ニ関シ

北支方面ノ形勢ニ付満州国国境ノ確保ヲ以テ第一義ト為ス既定方針ニ何等変更ナク又出先軍部ノ態度ハ天津宛往電第八八号ニテ御承知相成度尚ホ特務機関側ノ斯種運動ニ付テハ種々込ミ入リタル事情アルモ当方ニ於テハ中央軍部ト密接ナル連絡ヲ執リ大局ヲ過ラシメサル様善処ヲ期シ居ル次第ナルニ付右様御含相成度

（編注）本電は日付不明であるが、一応五月十九日と推定し、仮に日付を付した。

53 昭和8年5月20日　在満州国武藤大使より内田外務大臣宛（電報）

第六・第八両師団の戦闘状況および関東軍の態度について

第五三二号　　新京　5月20日後発
本使発支、北平、天津、南京、広東、漢口、済南、英米宛　　本省　5月20日後着
電報
合第二一一号
往電合第二〇二号（四三文書）ニ関シ
一、第八師団主力ハ十九日密雲ヲ占領シ其ノ先遣部隊ハ同日懐柔ヲ占拠セリ一方第六師団主力ハ（同）日夜玉田、豊潤間ノ線ヲ又服部部隊ノ一部ハ十九日薊県ヲ占領セリ
二、第六師団ノ為ニ徹底的ノ打撃ヲ受ケタル旧東北軍ハ楊村方面ニ集結スルモノノ如ク又密雲付近ニ於テ我軍ノ為ニ撃破セラレタル中央軍第二師、第二十五師、第八十三師等ハ北平ニ向ケ退却中ナルカ何応欽ハ北平ヲ中心ニ右敗退兵及第一師、第四十四師、第八十七師、第八十八師、第八十九師等兵力約七万ヲ集結シ依然トシテ機ヲ見テ攻撃ニ出ツル態度ヲ持シ居ルモノノ如シ
三、黄郛ノ北平入リト共ニ支那側ハ頻リニ日本軍トノ妥協成立ヲ宣伝シ居ルモノノ如キモ関東軍ノ関スル限リ未タ何等正式ノ交渉ニ接シ居ラサルノミナラス敗退セル支那軍ハ随所ニ集結シテ今尚挑戦的態度ヲ改メ居ラス従テ関東軍トシテハ従来ノ声明ノ趣旨ニ依リ行動スル方針ナル趣ナリ

54　昭和8年5月20日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）
熊斌中国軍の順義・宝坻・蘆台の線へ撤退方申出について

第二一六号　　北平　5月20日後発
往電第二〇五（三九文書）号ニ関シ　　本省　5月20日後着
何応欽側ハ毎日何回トナク使者ヲ永津武官ニ派シ支那側ノ自発的撤退ヲ約シ日本軍ノ追撃停止ヲ懇願シ居リシカ遂ニ十七日熊斌ハ書面ヲ以テ支那軍ヲ順義、宝坻、蘆台ノ線ニ撤退スヘキ旨ヲ約シタルニ依リ当方ニ於テモ黄郛ノ使者ニ対シ近ク答礼旁々会見スヘキ旨申入レ置キタルモ十九日許卓然来訪支那軍ハ既ニキヨウザン迄撤退シタル旨ヲ述ヘ居タルカ同地ト順義トハ相当開キアリ此際尚支那側ニ於テ掛引ヲナス考ニテハ黄郛ヨリ来訪アラハ格別当方ヨリ往訪スルハ交渉上不利益ト考フルニ付今暫ク推移ヲ見タル上会見スル事トシ差当リ原田通訳官ヲ代理トシテ答礼セシムル事トセリ御含置ヲ請フ尚諜報ニ依レハ何側ハ黄ノ来平ニ依リテ面子ヲ潰サレタルモノトナシ最早何黄ノ間ニ反目アルヤノ聞込モアリ成行注視中

55　昭和8年5月20日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）
特務機関の暴動惹起策謀について

第二八四号　　天津　5月20日後発
往電第二八〇号ニ関シ　　本省　5月20日後着
右暴動ハ往電第二七九（五一文書）号所報ノ計画カ実行セラレシモノニシテ特務機関及憲兵隊ハ勿論之カ実行ニ至リ駐屯軍ノ一部ニ於テ之ニ関与シ居タルモノト推セラルル節アリ二十日ノ支那新聞中ニハ本件ニハ日本駐屯軍モ関係シ居レリト仄カシ第二天津事件トモ称スヘキ陰謀ナリト掲載セルモノサヘアリ本件策謀ニ加ハリ居ル重要分子ノ内話ニ依レハ特務機関ハ関東軍側ヨリ第三勢力樹立工作ヲ督促セラレ居ル趣ニ付此ノ為暴動ハ遮二無二決行セラレシモノト認メラル尚本件策謀ハ一頓挫ノ姿ナルモ其関係者ハ今後更ニ如何ナル態度ニ出ツヘキヤ注意中ナリ

56　昭和8年5月20日　在広東吉田総領事代理より内田外務大臣宛（電報）
日中妥協説の内容に関する西南政務委員会の反対通電について

第二八六号　　広東　5月20日後発
二十日ノ当地各新聞紙ニ依レハ西南政務委員会ハ其ノ常務委員ノ連名ヲ以テ蔣、日妥協問題ニ関シ十九日左ノ通リ主張シ国際連盟、九国条約締結国代表者並露西亜大使宛通報スルト共ニ全国ニモ通電セル旨報シ居レリ　　本省　5月21日後着
一、中国全国民ハ日本カ設立セル偽満州国承認ヲ基礎トスル如何ナル対日妥協又ハ和議ニ対シ一致之ニ反対ス蓋シ満州及熱河ハ支那ノ領土ノ主要且ツ完全ナル部分ニシテ此ノ理由ノミニ依ルモ支那ハ満州及熱河ノ分割ヲ断シテ

容認シ得サルヲ知ルヘク若シ支那ニシテ右ヲ容認センカ物質上並精神上ノ損失及禍害ハ甚タシク独立自存ノ国家タルコト極メテ困難ナルヘシ

二、本委員会ハ事実上ノ日本政府タル同国参謀本部ト南京政府ヲ操縦スル軍事委員会トノ間ニ満州及熱河問題解決ノ交渉秘密裡ニ進行シツツアリトノ情報ニ接シタルカ右交渉条件タルヤ曩ニ連盟カ日本ニ勧告セル条項及九国条約ト抵触スルノミナラス支那独立上ノ基本権利ヲ極端ニ無視セルモノニシテ即チ

(イ)日本政府ハ満州国独立承認ヲ支那ニ要求スルノ不可能ナルヲ考慮シ支那政府ニ対シ交渉開始ノ日ヨリ支那政府ハ一切ノ満州国擾乱行動ヲ有効ニ停止シ満州国政府ヲ事実上ノ政府トシテ認ムヘキコトヲ要望シ且ツ両国政府ハ黄河以北ノ各省ヲ非戦区域ト定メ以テ日支間永遠ノ平和ヲ保障スルコトニ合意ス

(ロ)支那政府ハ日貨抵制ヲ其ノ国是トセサルコトヲ確実ニ保障スヘシ

(ハ)[2]右両項ニ同意セハ日本ハ其ノ片務的条約ヲ自発的ニ廃棄シ且租借地治外法権内河航行権等ニ関連スル一切ノ特権及権利ヲ抛棄シ尚進テ支那政府ト平等互恵ノ建前ニテ「亜細亜「モンロー」主義」維持ヲ目的トスル各種条約ヲ締結スヘシ

トノ三項ノ外ニ更ニ協議中ノ一項トシテ日本ハ支那ニ経済的及軍事的援助ヲ与フル条件アリ右ハ共匪討伐ノ為トモ伝ヘラレ又南京軍事委員会ヲシテ支那ノ他ノ軍事勢力ヲ排除シ其ノ独裁ヲ鞏固ナラシメンカ為トモ伝ヘラル

三、以上秘密妥協条件ノ意義ハ極メテ明白ナルカ右ニ依レハ南京政府ハ事実上満州国ヲ承認シテ永遠ニ支那トノ離脱ヲ来サシメ且参謀本部カ満州ニ施シタル「日支合作制度」ヲ支那全部ニ行フコトトナルヘク即チ斯ル条件カ支那ヲ危殆ニ導キ全世界ヲ禍スヘキヤ言ヲ俟タス

抑々支那現下ノ政治制度ニ於テハ武力ニ依ル以外人民ハ南京現政府ニ反対シ之ヲ改組シテ前述ノ如キ密約ニ反対ノ意ヲ表示シ得ル政治組織存在セサルヲ以テ全国ノ承認セル合法的政治機関ナル西南政務委員会ハ茲ニ全国人民ノ旨ヲ体シ左ノ如キ確乎タル意思ヲ表明スルモノナリ

(イ)支那全国民ハ日本参謀本部ト南京軍事委員会又ハ如何ナル機関或ハ個人トノ秘密交渉ニ反対ス（其ノ交渉ニ南京政府関係者ノ諒解ヲ与ヘタルト否トヲ問ハス）

(ロ)人民全体ノ総意ニ基キ国際連盟及各友邦ニ対シ「凡ソ南京政府及他ノ如何ナル機関又ハ個人カ日本政府ト締結スル支那ノ満州及熱河ニ於ケル領土権並行政上ノ自主権ヲ害シ又ハ連盟ノ満州問題ニ関スル決議並九国条約ノ規定ニ違反スル如何ナル合意ニ対シテモ支那人民ハ誓テ之カ効力ヲ否認ス」ヘキ旨ヲ謹告ス云々

支、北平、天津、満、奉天、青島、南京、漢口、厦門、汕頭ヘ転電シ香港ヘ暗送セリ

支ヨリ上海ヘ、青島ヨリ済南ヘ転報アリタシ

57　昭和8年5月21日　在南京日高総領事より内田外務大臣宛（電報）

黄郛北上の使命遂行に関する新聞論調について

南京　5月21日後発
本省　5月22日前着

第二九〇号

唐紹儀等ノ国外通電ニ対シ当地各新聞ハ其ノ不心得ヲ責メ黄郛ノ北上ハ妥協ノ為ニ非ス和ヲ求ムル為ニモ非ス相互諒解ノ下ニ平和ヲ計リ困難ヲ救フ為ナリ中日交渉ノ本格問題ハ遠クシテ条件ノ如キ知ルニ由無キ状態ナリ人ノ和ヲ以テ進ムヘキ此ノ際至急中央ニ協力スヘキナリト論議セリ

58　昭和8年5月22日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

日中両軍の停戦実現、黄郛の使命支持に関する杜月笙の談話について

上海　5月22日前発
本省　5月22日後着

第二八二号（暗）

[1]杜月笙ヨリ目下北平ヨリ来滬中ノ元三井物産買弁黄植ヲ通シ本使ニ面会ヲ求メ来リタルニ付二十日会見（黄及対露貿易商（脱）葉封同席）セルカ会談要領御参考迄左ノ通

一、先ツ杜ヨリ日支両国ハ兄弟ノ国ニシテ両者和セサレハ各傷ツキ第三者ニ乗セラレ特ニ両国ノ経済的損失莫大ナルモノアリトノ趣旨ヲ述ヘタル後今回黄郛ノ北平政務整理委員長任命ハ政府ノ対日妥協態度ヲ暗示スルモノニシテ其ノ主タル使命ハ中日両軍ノ停戦ヲ実現シ北方ノ政局収拾、人心ノ安定ヲ図リ漸次中日妥協ノ端緒ヲ開カント

スルモノト認メラルル処先決事項タル中日両軍ノ停戦ニ関シ既ニ支那側ハ着々軍隊ヲ引揚ケ戦意ナキコトヲ示シツツアルニ付此ノ際日本軍ニ於テモ両国和親回復ノ大義ニ基キ自働的ニ其ノ軍隊ノ引揚ヲ敢行スル様本使ノ尽力ヲ望ム旨並既往ニ於テハ支那軍ノ統制不充分ニテ挑戦ノ事実アリタルヘキモ現在ニ於テハ反抗的態度ハ全クナク又其ノ実力モナシトテ最近曹汝霖カ本使ニ対シ又王克敏カ有野ニ対シ為シタルト略々同様ノ話ヲ為セリ

二、右ニ対シ本使ハ我方累次声明ノ趣旨及長城以南ニ於ケル支那軍ノ執拗ナル挑戦ノ経過ニ関シ適宜説明ヲ与ヘタル上此ノ際支那側カ各軍ヲ統制シ既往ノ如キ盲動及無益ノ宣伝ヲ止メ速ニ現地ノ実情ニ即シ責任ヲ執リ得ヘキ当局者ヨリ誠意ヲ示スニ於テハ我方ハ素ヨリ事ヲ好ム者ニアラサルニ付自ラ停戦実現ノ可能性アルヘシトテ支那側ノ覚醒ト誠意表示ノ必要ナル次第ヲ説示セリ

三、[2] 次テ杜ハ前顕停戦ノ実現ト同様急務ナルハ不平軍隊及政客ト反動分子ノ弾圧問題ナル処従来国内ノ不平分子カ外国側ト策応シ事件ヲ起シタル例鮮カラス此ノ際特ニ日本側ニ於テ之等不平分子ヲ使嗾シ策謀ヲ援助スルカ如キ事無キ様本使ノ尽力ヲ請フ旨申出テ尚同席ノ兪ヨリ天津ニ於ケル日本側策動ノ噂ニ関シ種々述フル処アリ暗ニ日本軍カ不平分子ヲ煽動シ居ルカ如キ口吻ヲ仄シタルカ本使ハ従来我方ニ於テハ極力之カ取締ニ努力シ居レルカ実際問題トシテ支那側不平分子等カ個人的情誼ヲ辿リ策動スル例モ有リ今後共之カ取締ニ力ムヘキ処一面支那側当局ノ充分ナル統制ヲモ希望セサルヲ得ストテ態ト漠然ト応酬シ置ケリ

四、杜ハ最後ニ先般黄郛ノ北上前当地ニ於ケル商会有力者協議ノ上黄ノ意見及政策ノ実行ヲ支援シ若シ黄ノ政策ニ対シ上海方面ニテ民衆ノ反対アル場合ハ之カ抑制指導ニ尽力スル事ニ予メ黄ニ了解ヲ与ヘタル旨ヲ語リ又兪ハ最近日支妥協説等伝ヘラルルニ拘ラス当地ノ輿論従来ノ如ク反抗的ナラサルハ全ク杜ノ尽力ニ依ルモノナリト付言セリ

五、会談ノ要領大体右ノ通ナル処御承知ノ如ク杜ハ当地商工界ノ有力者トシテ又青帮ノ親分トシテ実勢力ヲ有スル人物ニシテ今回同人カ進ンテ本使ニ会見ヲ求メ来リタルハ最近ノ支那側ノ動向ヲ窺フニ足ル一現象トモ見得ヘク

従テ此ノ機会ニ我方ノ態度ヲ正解セシメ将来同人等ヲ指導シ当地方面ニ於ケル抗日排貨運動ノ抑止ニ尽力セシムルハ至極有意義ノ事ト認メタルニ付本使ハ右談話ノ間同人ノ両国和親回復ノ意見ニ賛意ヲ表シ其ノ努力ヲ希望スル旨激励シ置ケリ（本件杜ノ希望モアリ会見ノ事実、談話ノ内容トモ発表セサル様致度シ）

北平、天津、南京、満へ転電シ上海へ転報セリ

59　昭和8年5月22日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

居留民保護のため一個大隊北平に臨時増派について

天津　5月22日後発
本省　5月22日後着

第二八六号

当地軍部ハ北平ヨリ交民巷日本人密集地域ニ目下多数南軍敗残兵出没シ殆ト無警察状態ニ陥リ居留民ノ生命財産危険ニ瀕ストノ報ニ接シタルヲ以テ専ラ居留民ノ保護ノ目的ヲ以テ当地ヨリ一箇大隊ヲ臨時増派スルコトトナリ二十三日午前七時当地発出発ノ予定ナル趣ナリ

60　昭和8年5月23日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

特務機関の運動抑制および黄郛の停戦活動支援方について

上海　5月23日後発
本省　5月23日後着

第二八五号

[1] 往電第二五七号（三七文書）ニ関シ

一、最近北支方面ニ於ケル我軍ノ行動ハ満州国境確保ヲ以テ第一義ト為シ従テ北支ニ於ケル責任者ノ何人タルヲ問ハス苟モ支那軍ノ挑戦的行為ヲ押ヘ排日運動ヲ弾圧スルモノハ好意ヲ以テ迎フヘキ我方ノ方針ナルコトハ貴電第七二号等ニ依リ承知セラレ又北平発閣下宛電報第二二三（六二文書）号黄郛トノ停戦条件等ニ依リ右方針ハ出先ニモ相当了解セラレ居ルモノト存セラル

二、平津方面ニ於ケル特務機関等ノ運動ニ対スル御方針ニ付テハ貴電第八三号（五二文書）ニ依リ一応了承シ居ル処最近同方面ニ於ケル多数意外ノ出来事及須磨カ出先官憲特ニ軍部ニ付確メタル処等ニ依レハ右運動ハ国民党否認ノ方針ニ基

キ華北ニ於ケル独立政権ノ樹立ヲ誘導スルカ為ニ行ハレ居ル趣ナルカ斯ノ如キ計画カ仮ニ一時成功スルモ之カ保護及政策指導ノ為ニハ相当ノ兵力ヲ常駐セシムルコト絶対ニ必要ナルノミナラス右[2]政権ハ支那本部ト絶縁スル為帝国トシテハ財政上絶大ノ負担ヲ増スハ勿論斯ノ如キ事態ノ出現ニ依リ満州国成立ニ伴フヨリモ更ニ困難ナル国際関係ニ立ツヲ覚悟セサル可カラサルハ勿論之ニ依リ華北以外ノ支那本部ニ対スル関係ハ極度ニ悪化シ日支関係ノ調整ハ全ク絶望トナル可シト存セラル

三、華北ニ於ケル停戦協定及同地方ノ事態収拾ノ為ニハ往電第二五七号（三七文書）ノ趣旨ニ依リ黄郛ヲシテ充分ノ手腕ヲ振フノ余地ヲ与ヘ其ノ結果ヲ見タル上漸次日支関係ノ改善ヲ誘致スル事得策ナリト思考シ居ル処黄郛北上後ニ於ケル停戦ニ対スル誠意ト努力ハ相当認ム可キモノアリト存セラルルニ付目下進行中ノ停戦交渉ノ如キモ国境確保ノ目的以上余リ苛酷ニナラサル条件ニテ之カ妥協ヲ計ル事然ル可ク事態収拾ニ対シテモ出来得ル限リ好意的態度ヲ示シ之[3]ニ依リ当方面一般ニ醞釀シツツアル支那側ノ対日態度転換ノ機運ヲ助長スルト共ニ徐ニ国民政府ヲシテ黄郛ニ対シ北方ニ於ケル国民党改善乃至排日禁止等ノ政策ヲ採用セシムル様誘導ニ努ムルコトト致度ク万一黄郛努力ノ結果ニ拘ラス党部ノ横暴及排日運動等依然タルモノアル場合ニハ改メテ別ノ考量ヲ払フモ遅カラスト思考セラル

右冒頭往電補足旁申進スル処本使トシテハ大体右計画ニ依リ（脱）差支無キヤ貴電第八四号ノ通リ本使モ適当ノ機会ニ北上ヲ希望シ居リ旁右御承認ヲ得ハ右ノ趣旨出先軍部等ニ此ノ上共徹底スル様御配慮ヲ煩度ク何分ノ儀御回示ヲ請フ

61　昭和8年5月23日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

平津地方における特務機関の策動阻止、停戦への協力等黄郛の申出を曹汝霖伝達について

上海　5月23日後発
本省　5月23日後着

第二八六号
往電第二八五号（六〇文書）ニ関シ
二十三日夕曹汝霖来訪シ今朝十一時発ノ黄郛ノ依頼電報ヲ

受ケタリトテ(一)停戦問題ニ付黄ハ日本側ト交渉ヲ開始セルカ此ノ際日本側ニ於テモナルヘク寛大ノ態度ニ出テラルル様又(二)平津地方ニ於テ目下反動分子ノ策動盛ナルカ之等ノ中軍部関係者トモ連絡アルモノアルヤニ見受ケラルル由ナル処右ハ日本政府ノ方針ニモアラサルヘク之ニ依リ民衆ノ恨ミヲ買フハ其ノ本意ニ反スト認メラルルニ付日本側ニテモ此ノ種ノ策謀阻止ヲ援助セラルル様日本政府ニ転請方本使ノ尽力ヲ願ヒ度旨申出タリ

本使ハ(一)ノ点ニ付誤解ナルヘキ旨ヲ述ヘ可然応酬シ置ケルカ兎ニ角申入レノ次第ハ政府ニ伝達スヘキ旨答ヘ置ケリ

尚曹ハ数日中ニ出発北上ノ予定ナリシモ黄ヨリノ依頼ニ依リ当方ト連絡ノ為当分出発ヲ延期シタル由ナリ

62　昭和8年5月23日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

停戦条件に関する黄郛との密談について

別　電　同日在北平中山書記官より内田外務大臣宛第二二三号
日中両軍停戦条件

北平　5月23日前発
本省　5月23日後着

第二二二号
二十二日深更海軍武官室ニ於テ黄郛ノ来訪ヲ受ケ二十三日午前四時過迄懇談ヲ重ネタル結果別電第二二三号ヲ実行スル事ニ支那側ニ於テ同意スルヤ否ヤヲ二十三日午前中ニ支那側ヨリ回答シ来ル事ニ打合セヲ了セリ委細追電ス
右外部ニ洩レサル様特別ノ御手配ヲ請フ

（別　電）

北平　5月23日後発
本省　5月23日後着

第二二三号
一、中国軍ハ延慶、昌平、高麗営、順義、通州、香河、宝坻、林亭口、寧夏ノ線以南及以西ニ撤退シ爾後一切ノ挑戦行為ヲ為ササルコト
二、従テ日本軍ハ右線ヲ越ヘテ進撃セサルコト
三、何応欽ノ正式任命セル停戦全権員ヲ密雲ニ派シ日本軍高級指揮官ニ対シ停戦ニ関スル意思表示ヲナスコト
四、右正式約束成立後関東軍司令官ノ指名セル日本軍代表者ハ某日某時北寧線上ノ某地点ニ於テ中国側軍事全権者ト停戦ニ関スル正式協約ヲ作ルコト

63　昭和8年5月23日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

中国軍の撤退実施について

北平　5月23日後発
本省　5月23日後着

第二二五号
往電第二一二二号（六二文書）ニ関シ
二十三日本官ハ特ニ武官室ニ於テ黄代理李択一ノ来訪ヲ受ケタルカ李ハ何応欽ヨリ黄ニ宛テタル軍使派遣ニ決定シタル旨ノ書面ヲ提示シ往電第二一二三号（六二文書）ノ四項ノ方針ニ依リ実行ニ着手スルコトニ決定セル旨ヲ述ヘタリ軍使トシテハ軍事分会大佐参謀徐燕謀ヲ派遣ニ決定セル由ナルカ軍使出発ノ日時ハ永津武官ト関東軍トノ間ニ打合スコトトセリ恐ラク二十五日以後トナル見込尚李ハ第一線ノ支那軍撤退ハ二十三日早朝全線ニ電訓シタルモ無線電信ヲ所有セサル部隊モアリ全部ノ実行ハ大体二十四日正午頃迄カカル見込ナル旨申シ居タリ

64　昭和8年5月23日　在南京日高総領事より内田外務大臣宛（電報）

宋子文の対日妥協反対、何応欽の黄郛非難の情報等について

南京　5月23日後発
本省　5月23日後着

第二九六号
当館諜報左ノ通
一、宋子文ハ最近中央ニ対シ米国ニ於テ第二次米支借款交渉進捗シ引続キ「ラインバーガー」及施肇基ニ於テ奔走中ナルヲ以テ此ノ際従来ノ外交方針ヲ抛棄シテ対日妥協ヲ為ス事ハ国際間ノ同情ヲ失ヒ支那ノ立場ヲ失フモノナルニ付慎重考慮スヘキ旨電報越セル趣
二、四川省今回ノ内争ハ内情頗ル複雑ナルモ一面胡漢民ハ代表王養冲ヲ派シ積極的ニ劉文輝ヲ援助スルコトニ決シ劉ヲシテ四川ヲ統一シ貴州ノ王家烈ト協力シ兵ヲ武漢ニ進メシメントスル計画モアル趣ニテ劉文輝ノ代表冷融ハ香港ニ於テ飛行機ノ購入ヲ為シ居ル趣
三、何応欽ハ二十三日朱培徳宛電報ヲ以テ黄郛ハ対日妥協ノ成案ナクシテ先ツ日本側ノ好感ヲ得ントシテ支那軍ノ後退ヲ命シタル処日本軍ノ急追ニ遇ヒ遂ニ軍ノ収拾ヲ不

可能ナラシメタルモノニシテ今次ノ敗退ハ全ク準備ナキ妥協ニ基因シ主トシテ黄ノ責任ナリトテ難詰シ越セル由右真否確ナラサルモ御参考迄

65　昭和8年5月23日　在南京日高総領事より内田外務大臣宛（電報）

総理紀念週における汪兆銘の時局報告について

南京　5月23日後発
本省　5月24日前着

第二九七号
二十二日ノ総理紀念週ニ於テ汪兆銘カ重要報告トシテ述ヘタル四項目新聞ニ発表セラレタルカ要点左ノ通リ
一、華北戦事問題ハ我軍三月ニ亘リ総員三十万ヲ以テ奮闘シタルカ日軍ノ兵器鋭利ナルニ我軍ノ武器旧式ナル為ト交戦地方人民ノ苦痛ニ忍ヒス已ムナク撤退ノ戦略タル次第ナリ右ハ内外人ノ諒トスル所ナリトス
二、無頼漢ヲ除去スヘキ要アリ国難非常ノ此際党派ヲ問ハス一致国運ヲ救ハサルヘカラス北平政務委員会ノ人選亦之ニ基ケリ国民党員ニアラサルノ故ヲ以テ国政ニ参加セシムヘカラストスル議論ハ誤ナリ平津ニ在ル無頼ノ徒此ノ機ニ乗シ売国ノ挙ニ出ツルニ於テハ殺シテ然リ
三、平和問題ニ関シテ中国ハ弱国ニシテ日本ノ強国ナルハ皆人ノ知ル所強キ者弱キヲ呑マントスル時弱キハ自然其ノ難ヲ免レ平和ヲ希フモノナレハ平和回復ノ鍵ヲ手ニスル強者タル日本ニ其ノ意志アラハ平和ハ成立スヘシ日本ハ終始平和ヲ破壊スルモノナリ今回米国大統領ノ国際平和提議ニ付テモ林主席ヨリ賛同ノ返電ヲ発シタル次第ナルカ中日ノ懸隔大ナル今日目前ノ平和ヲ期シ得ストスルモ友邦ノ懇切ナル平和提議ニハ賛同セサルヲ得ス
四、此ノ際ノ手段トシテハ臨機応変軍事財政上ニ積極的ニ充実ヲ準備セサルヘカラス外交上ニ於テハ面目ヲ保ツヘキハ他言ヲ要セサルモ最近ノ広東一部委員等カ為セル国外ヘノ通電ノ如キハ一種ノ猜疑虚構ニシテ中央カ日本ト妥協的密約ヲ結ヒタリト為セル如キハ中央ヲ誣ウルモノナリ既ニ広東ヘハ忠告シ置キタルカ同胞一致中央ノ趣旨ヲ体シ生路ヲ求ムヘキモノナリ

66　昭和8年5月23日　内田外務大臣より在米国出淵大使、在英国松平大使宛（電報）

日中停戦交渉の進捗状況について

別　電　同日内田外務大臣より在米国出淵大使、在英国松平大使宛合第一〇二六号
日中停戦交渉の現況について

本省　5月23日後8時40分発

合第一〇二五号

北支状況ニ関スル件

最近ニ於ケル北支ノ状況ニ関シ

自然貴任国当局ヨリ質問等アルヤモ知レサル処右ニ対シテハ別電合第一〇二六号御参酌ノ上累次申進メノ趣旨ニ依リ我方ニ於テハ満州国国境確保ノ外他意ナク従テ支那側カ該国境ノ確保ヲ危険ナラシムルカ如キ態度ヲ執ラサルコト確実トナレハ我軍関内進出ノ要ナキ次第ナル旨ヲ徹底セシムル様御説明相成度尤モ右別電三及四ハ我方ノ支那側ニ対スル折衝上機微ナル関係アルヲ以テ（支那側当局ノ立場ヲモ考慮スル要アリ）厳秘ニ付スル要アルモ前記趣旨ヲ徹底セシムル為ノ貴大使限リノ極秘参考トシテ電報スル次第ナルニ付其ノ辺ハ充分御含置相成度

（別　電）

本省　5月23日後10時50分発

合第一〇二六号（別電）

北支状況

一、満州国軍ノ熱河肅清ニ協力セル関東軍ハ二月中旬右肅清事業ノ一段落ト共ニ長城線ニ停止セル処関内ノ支那軍ハ之ニ対シ執拗ナル攻撃ヲ加ヘ来レルニ依リ三月中旬ニ至リ一部灤東方面ニ出動シ之ニ反撃ヲ加ヘタルカ支那軍ノ灤河以西撤退ヲ見ルニ及ンテ満州国国境確保ノ既定方針ニ基キ長城線復帰ヲ開始セリ然ルニ支那軍ハ右形勢ニ乗シ再ヒ灤東方面ニ進出シ挑戦的態度ニ出テ又古北口方面ノ支那軍ノ我軍ニ対スル攻撃益々執拗トナリ来レルニ依リ五月上旬以来関東軍ハ右両方面ヨリ進撃ヲ開始シ同月二十日頃迄ニ大体密雲、玉田、豊潤ノ線ニ達セリ（委細累次ノ電報御参照アリ度）

二、右ハ満州国国境確保ノ既定方針ニ何等変更ヲ来シタルモノニ非スシテ支那軍ニ対シ一大痛撃ヲ加ヘ以テ其ノ挑戦意思ヲ挫折セシメムトスルニ外ナラス従テ支那軍ニシテ満州国国境ノ確保ヲ危険ナラシムルカ如キ態度ニ出テサルコト確実トナルニ於テハ日本軍ハ長城線ニ復帰スヘキ方針ナリ而シテ以上ノ次第ハ関東軍司令官ニ於テ累次

声明シ来リシノミナラス（往電合第九一九号ノ一及合第九五〇号参照）有吉公使等出先ニ於テ黄郛其他支那側要人ニ対シ同様ノ趣旨ニテ応酬シ居ル次第ナリ

三、前記ノ如ク日本軍ノ第二回関内進出ヲ見ルヤ支那側ニテハ我方出先ニ対シ頻リニ停戦方ヲ求ムル趣旨ノ申出ヲナシ来レルモ右ハ何レモ責任アル申出ニ非サルノミナラス其ノ内容モ懸引アリ充分ニ信頼ヲ置キ難カリシ処黄郛北上直前同人ヨリ出先軍憲ニ対シ支那軍ハ一定ノ線外ニ撤退スヘキニ付日本軍ニ於テ之ヲ追撃セサラムコトヲ望ム旨申出アリ我方ニ於テハ支那軍ニシテ右撤退ヲ実行シ且挑戦行為ヲ停止スルコト確実ナルニ於テハ我方ハ敢テ之ニ攻撃ヲ加フルモノニ非ル旨ヲ答ヘシメタル次第アリ又最近ニ至リ何応欽ハ日々在北平陸軍武官ノ許ニ使者ヲ派シ停戦方ヲ求メ来リ更ニ十七日ニ至リ何応欽側ヲ代表スル熊斌ハ同武官ニ対シ支那軍ヲ順義、宝坻、蘆台ノ線ニ撤スヘキ旨ヲ約スル趣旨ノ書面ヲ提出セルニ依リ我方ニ於テモ右ハ相当責任アル申出ナルヤニ認メ中央軍部ヨリ同武官ニ対シ支那側ノ誠意ヲ確メツツ該申出ノ緒口ヲ辿リ進ム様電訓セリ今後ノ経過随時追電ス

四、第一項記載ノ線ニ進出シタル関東軍ハ満州国々境確保ノ方針ニ基キ且第三項記載ノ形勢ニ順応シ大体右線ニ停止シテ事態ノ推移ヲ監視スルノ態勢ヲ執リ居レリ又天津軍ハ関東軍ノ軍事行動ニ策応スルコトナク専ラ其ノ本来ノ任務タル居留民ノ保護ヲ全フスル態度ヲ厳守シ居レリ尚ホ今後モ北京ニ於ケル歩哨襲撃事件天津ニ於ケル反蔣派暴動等ノ如キ種々ノ派生的ノ事件発生スルヤモ知レサルモ我方ニ於テハ之カ為メ叙上記載ノ大勢ヲ覆スカ如キコトトナラサル様善処ヲ期シ居レリ

67　昭和8年5月24日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

大公報号外にて停戦協定成立を報道について

天津　5月24日後発
本省　5月24日後着

第二九〇号

二十三日大公報ハ逸早ク号外ヲ以テ停戦ニ関スル基礎協定成立セル旨ヲ報シタルカ之レニ依リ時局ニ対スル一般ノ懸念ハ相当緩和セラレタルモノノ如ク同日午後以来支那街ヨリ各租界ヘノ避難者ハ著シク減少セリ尤モ支那新聞中ニハ

政府カ人民ノ同意ヲ求メス秘密外交ニ依リ作レル協定ハ何等ノ効力ナシ軍事当局ハ停戦期間中ト雖モ空文ニ終ル惧アル協定ニ依頼シ抵抗ノ準備ヲ怠ルヘカラス等ノ論説ヲ試ミタルモノ一、二アルモ概シテ楽観的態度ヲ示スニ至レリ

68　昭和8年5月24日　内田外務大臣より在英国松平大使、在米国出淵大使宛（電報）

中国側停戦条件応諾について

本省　5月24日後5時発

合第一〇二八号

支那側ノ停戦応諾ニ関スル情報

往電合第一〇二六号（六六文書）三末段ニ関シ北平来電第二二二号（六二文書）第二二三号及第二二五号（六三文書）要領貴官限リ極秘御参考迄左ノ通

一、中山ハ二十二日夜半黄郛ノ来訪ヲ受ケ翌朝四時迄懇談ノ結果支那側ニ於テ左記各項ノ実行ニ同意スルヤ否ヤニ付二十三日午前中ニ先方ヨリ回答スルコトニ打合セタリ即チ

(イ)中国軍ハ延慶、昌平、高麗営、順義、通州、香河、宝坻、林亭口、寧河ノ線以南及以西ニ撤退シ爾後一切ノ挑戦行為ヲ為ササルコト

(ロ)従テ日本軍ハ右線ヲ越ヘテ進撃セサルコト

(ハ)何応欽ノ正式任命セル停戦全権員ヲ密雲ニ派シ日本軍高級指揮官ニ対シ停戦ニ関スル意思表示ヲナスコト

(ニ)右正式約束成立後関東軍司令官ノ指名セル日本軍代表者ハ某日某時北寧線上ノ某地点ニ於テ中国側軍事全権者ト停戦ニ関スル正式協約ヲ作ルコト

二、二十三日黄郛代理李択一中山ヲ来訪シ前掲四項ノ方針ニ依リ実行方異存ナキ旨ヲ答ヘ尚第一線ノ支那軍撤退方二十三日朝全線ニ訓令ヲ発シタル旨ヲ述ヘタリ

69　昭和8年5月24日　内田外務大臣より在北平中山書記官宛（電報）

停戦協定成立後は速かに排日運動弾圧等の交渉を黄郛側と開始について

本省　5月24日後4時10分発

第七八号

北支停戦協定ニ関連スル支那側トノ一般的話合ニ関スル件

貴電第二二二五号（六三文書）ニ関シ

貴電第二二三号（六二文書）ノ四ニ依リ停戦協定成立ノ上ハ機ヲ逸セス黄郛側トノ間ニ北支地方平静回復ニ関スル一般的話合ヲ開始シ例ヘハ(一)駐平政務整理委員会ハ其ノ管轄区域ニ於ケル一切ノ排日運動ヲ弾圧スルコト(二)同委員会ハ其ノ管轄区域ヨリ反満義勇軍ノ活動ニ対シ与ヘラルル一切ノ支持援助ヲ弾圧スルコト(三)同委員会ハ其ノ管轄区域ト満州国領域トノ間ノ適法ナル平和的交通ニ対スル一切ノ障碍ヲ除去スルコト（本点ハ熱河省ニ対スル北支方面ヨリノ物資ノ供給ヲ円滑ナラシムルコトヲ主要目的トスル次第ナリ）等ニ付何等カノ形ヲ以テ協定ヲ遂クルコト肝要ナルヘク尚(四)停戦区域ノ治安維持方法ニ付テモ取極ヲナスノ要アルヘシト存ス（右(四)ノ点ハ停戦協定ノ一部トナルヤモ知レス）尤モ停戦協定ニ併行スヘキ右政治協定ノ内容等ニ付テハ（前記(一)乃至(四)ハ当方一応ノ思付ニ過キス）目下軍部トモ連絡シ折角攻究中ナルカ貴方ニ於テモ武官側ト連絡ノ上御攻究相成リ結果回電アリ度　本電陸軍ト打合セスミ

70　昭和8年5月25日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

停戦協定成立後の交渉には黄郛の立場尊重の必要について

上海　5月25日後発
本省　5月25日後着

第二九四号

閣下発北平宛電報第七八号（六九文書）[1]ニ関シ

停戦協定成立ノ上ハ北支方面ニ於ケル平静恢復ヲ計ル為適当ノ措置ヲ講スヘキ事勿論ノ儀ナルカ之カ為黄郛等ト話合ヲ進ムルニ付往電第二八五号（六〇文書）ノ外左ノ諸点ニ付慎重考慮スルコト必要ト存セラル

一、黄郛北上ノ使命ハ支那軍ノ挑戦的態度ヲ抑ヘテ停戦ヲ成立セシメ北支ノ事態ヲ収拾スルニ存シ此ノ点ニ付蔣、汪等ノ充分ナル諒解ヲ得居ル事ハ明カナルモ進ンテ極端ナル国民党政策ノ緩和乃至排日ノ弾圧等ニ依リ河北ニ於ケル日支関係ヲ改善シ更ニ進ンテ全般的両国関係ノ建直シヲ策スルコトハ専ラ黄郛自身ノ発案ニシテ之等ノ点ニ付或ル程度迄蔣、汪等ノ諒解ヲ得居ルモノトスルモ之等ノ事項ノ外満州国ノ承認ヲ意味スルカ如キ事項（貴電(二)及(三)）ニ付我方トノ間ニ明確ナル協定ヲ結フカ如キ事ハ黄自身頗ル困難トスヘキハ勿論南京側トシテ今日ノ事態

ノ下ニ於テ直ニ之ヲ承認スルカ如キハ絶対ニ不可能ナリト存セラル（現ニ南京側ニ於テハ停戦協定締結其ノモノニ対シテモ反対派ノ策動ヲ惧レ新聞掲載ヲ厳禁シ居ルノミナラス昨二十四日閣下ヨリ本使北上ノ御訓令アル可キ旨ノ東京発通信伝ヘラルルヤ同日夜某支那人ハ本使ヲ来訪シ本使北上ハ停戦交渉ト並行シテ政治的協定ノ交渉ヲ行フカ為ナリヤ果シテ然ラハ南京側ノ立場ヲ困難ナラシムルハ素ヨリ黄郛自身ノ使命遂行ヲサヘ不可能ナラシム可シト申出テタリ右[2]ハ南京政府部内ノ旨ヲ受ケタルモノト思ハルル筋アリ）従テ黄郛ニ於テ此種事項ニ付テモ協定ヲ遂クルニ難色ナキ場合ハ兎モ角無理強ニ之ヲ押シ付クルカ如キコトアラハ就任後日尚浅ク整理委員会ニ於ケル其ノ統制モ未タ充分ナラスト察セラルル黄郛ノ立場ヲ失ハシメ且南京側トノ関係ヲ極メテ困難ナラシメ遂ニ彼ヲシテ手ヲ引クノ已ムナキニ至ラシメ華北事態ノ収拾ヲ不可能ナラシムル虞アルノミナラス我方ニ於テ停戦協定ト引掛ケニ排日ノ弾圧満州国承認等ヲ要求セリトノ事実カ世上ニ伝ヘラルルカ如キコトアラハ華北ニ於ケル我軍事行動ハ此種政策遂行ノ為ナリトノ国際的批難モアルヘク南京部内ニ於ケル対日転換策反対論者ノ勢力ヲ強メ両国関係ノ改善ノ気運ヲ逆転セシムヘキ危険鮮カラスト考ヘラル

二、従テ目下ノ事態ニ於テハ速ニ停戦協定ヲ成立セシメ同時ニ黄郛等ヲ援助シテ整理委員会ヲ固メシメ之ヲシテ自発的ニ排日運動ノ弾圧、国民党的政策ノ緩和乃至満州国トノ平和ナル交通確保等ヲ実行セシムル様始終接触誘導シ之ニ依リ華北ニ於ケル空気ノ好転ヲ計リ充分ノ素地ヲ作リタル後此種協定締結ヲ計リ之（ヲ）利用シ之ト平行シテ全般的両国関係ノ改善ニ付徐ニ南京側トノ間ニ折衝ヲ行フコト然ルヘシト存セラル

71

昭和8年5月25日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

中国軍敗退後の動向について

北平　5月25日後発
本省　5月25日後着

第二二九号

二十五日公安局吉秘書ノ内話ニ依レハ前線ヨリ敗退シテ目下北平、通州間ニ駐屯中ナル宋哲元、龐炳勛両部ハ蔣介石ヨリ保定移駐命令ヲ受ケタルニ対シ之ニ服セス張家口ニ移駐ノ気配アル一方当市襲撃説モ伝ヘラレ軍事当局ハ極力之カ警戒中ニシテ其ノ他万福麟部ハ殆ント全滅シ黄杰部モ三、四千ニ減少シテ海甸（北平、万寿山間ニ在リ）ニ商震部ハ南苑ニ夫々駐屯中ニテ其ノ他ノ部隊ハ何レモ徒歩或ハ汽車ニテ平漢線ニ沿ヒ続々夫々南方ニ敗退中ナル由尚両三日来邦人ノ密集区タル東城一帯ニ入城シ居タル支那軍モ我方累次ノ要求ニ依リ本日全部城外ニ移駐セリ

72

昭和8年5月25日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

中国軍の移駐に伴う邦人の保護について

天津　5月25日前発
本省　5月25日後着

第二九一号

大沽駐屯ノ第六三七団ハ楊村ニ移駐ヲ命セラレ既ニ移動ヲ開始セルヲ以テ斯ル場合有勝チナル万一ヲ慮リ同地方邦人婦女子ハ二十四日ヨリ夜間ノミ同地有明及富士ノ両旅館ニ収容スルコトトシ場合ニ依リテハ日本兵営ニ収容スルコトニ手配済

73

昭和8年5月25日[注]　内田外務大臣より在上海有吉公使宛（電報）

黄郛の活動支援および天津特務機関の活動抑制について

第八八号

北支時局ニ関スル件

貴電第二八五号（六〇文書）ニ関シ

一、当方ニ於テモ大体貴見ト同様ノ見解ヲ有シ居リ従来右見解ニテ国内各方面ヲ誘導シ来リ将来亦同様ノ方針ニテ進ム考ニシテ旁々支那側ニ充分ノ誠意サヘアレハ遠カラス貴見ノ如キ「ライン」ニテ北支ノ時局ヲ収拾シ更ニ進ンテハ日支関係ノ調整ニ利用シ得ヘキカト思考シ居レリ

二、尤モ国内ノ誘導方ニ付テハ右見解ヲ正面ヨリ強調スルノ余リ反対論ノ台頭ヲ刺戟スル等所期ニ反スル結果ヲ誘致セサル様慎重ニ措置シ来レル次第ニテ又支那側ニ対スル関係ニ於テモ我方カ北支ノ時局ニ焦慮シ居ルカ如キ又ハ黄郛ニ「スティック」スルモノナルカ如キ印象ヲ与フルコトトナルニ於テハ反テ面白カラサル影響ヲ招来スヘキニ付其ノ辺充分ニ留意シ来レル次第ナリ

三、尚天津方面ニ於ケル特務機関ノ行動ニ付テハ最近ニ於ケル停戦ノ機運ニモ顧ミ中央軍部ヨリ更メテ指示スル所アリタルニ付該機関ノ行動カ大局ヲ誤ルカ如キ結果トナルコトハ万々無之筈ナリ（此ノ点ハ特ニ厳秘ニ付セラレタシ）

四、就テハ叙上ノ趣旨篤ト御含ノ上所期ノ目的ヲ達成スル様善処セラレ度

（編注）本電は日付不明であるが、一応五月二十五日と推定し、仮に日付を付した。

74　昭和8年5月26日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

中国代表の西師団長に対する停戦正式申入れについて

北平　5月26日前発
本省　5月26日後着

第二三〇号

往電第二二七号ニ関シ

二十五日支那側徐燕謀大佐、李択一、日本側永津（佐比重）、藤原武（喜代間）官密雲ニ赴キ西（義一）師団長ニ会見シ徐ヨリ正式停戦ヲ申入レ師団長ハ右関東軍司令官ノ意図ハ永津武官ヲシテ伝ヘシムル旨ヲ答ヘ永津武官ヨリ同司令官ノ意図ヲ記載セル書面ヲ徐ニ提示シ之ニ署名セシメタリ時ニ午後四時ナリ

委細ハ関東軍司令官ヨリ中央部ニ対スル報告ニ依リ御承知ヲ請フ

75　昭和8年5月27日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

南京政府と黄郛との関係および南京政府の政情に関する情報について

上海　5月27日後発
本省　5月27日後着

第二九九号

二十四日乃至二十六日岡崎（勝男）、有野（学）南京ニ於テ各方面ト接触ノ結果北支時局ニ付御参考トナルヘキ所左ノ通

一、彭学沛ハ南京ト黄郛トノ関係ニ付黄出発前広範囲ノ権限ヲ与ヘラレ居ルニ付時局収拾ニハ独断専行シ得ルモノナリト説明シ国民政府カ日本ト直接接触スルヨリモ北方ニテ黄ヲシテ一切ヲ処理セシムル方一種ノ外交的緩衝圏ヲ構成スルコトトナリ政府トシテハ対内的反蔣派及民衆反対ノ鋭鋒ヲ避ケ得テ好都合ナリ要スルニ黄郛ハ必要ノ権限ヲ与ヘラレテ北ニ赴ケル訳ナルモ其ノ権限ノ範囲内ニテ甘ク事ヲ収ムルヤ否ヤハ一ニ黄ノ手腕ニ掛リ其ノ結果ニ付テモ黄カ責任ヲ負フト云フ仕組ナリト述ヘタリ

二、南京内部ノ事情ニ付「イングラム」ハ硬軟両派アルコトヲ述ヘ硬派ノ一団ニ羅文幹、軟派ノ一団ニ蔣介石存スト語レルカ中央日報編輯長金誠夫モ同様ノ事ヲ述ヘ羅ハ国際関係上平津ヲ抛棄スルモ飽ク迄抗日ヲ継続スヘシト主張シ居ルモ蔣トシテハ意見確定ノ今日羅ノ主張ハ実行力乏シト説明セリ

三、陳儀ハ黄郛ハ一部ノ軍権ヲモ与ヘラレ居リ時局一段落ノ後ハ何応欽ハ南京ニ帰ルヘシト述ヘタルカ北平発大臣宛電報第二二七号ノ三ノ点ニ付黄郛カ雑軍其ノ他ヲ整理スル為ニモ相当勢力ノ中央軍ヲ華北ニ止メ置クコトハ必要ナリト述ヘ尚雑軍ノ始末ニ付一部ハ解散、一部ハ出身地方ニ帰還セシメ残部ハ綏遠地方ニ移駐スル積リナルカ而カモ尚相当部隊残ルヘク之ハ差当リ華北ニ置クヨリ外ナキ訳ナルカ一切ハ黄郛、何応欽ニ於テ処理シ南京トシテハ特ニ指図等ハ為シ居ラスト語レリ

76　昭和8年5月28日　在広東吉田総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

日中停戦協定に関する西南政務委員会の中央執行委員会あて詰問電について

広東　5月28日後発
本省　5月28日後着

第二九一号

南京発閣下宛電報第二九一号ニ関シ

中央執行委員会ノ詰問電ニ対シ西南政務委員会ハ二十七日付常務委員会ノ名義ヲ以テ要旨左ノ如キ質問電ヲ発セル趣ナリ

一、貴電ニ依レハ軍事当局ハ日本ト妥協ヲ計レルコトナキ趣ノ処日支停戦協定ハ既ニ事実トシテ現レ前線軍隊ハ命ニ依リ通州、塘沽ニ移駐シ北平公安局亦義勇軍援助ノ禁止及抗日会活動ノ停止方ヲ報告セル由ナルカ右ニ関シテ左ノ質問ヲ提起ス

抑々四全大会及累次ノ中央全体会議ハ対日抵抗、失地回復、前線部隊並ニ義勇軍援助及抗日会ノ活動ハ民意ニ任ス旨ノ各種決議ヲ為セル処

二、(イ)軍事当局ハ終始一片ノ抵抗令ヲモ発セス今ヤ休戦協定ヲ了セリ
(ロ)四全大会以来寸土ヲモ回収セス却テ早クモ通州塘沽間ニ軍ヲ撤退セシメタリ
(ハ)軍事当局ハ錦州上海両事件以来現在迄正式ニ一師一旅ヲモ前線ニ派遣シタルコトナシ
(ニ)義勇軍ニ対シテハ従来共殆ト援助ヲ為サス今ヤ却テ協定条件ヲ履行シテ其ノ援助ヲ禁止シタリ
(ホ)抗日会カ侵略国ニ対シ経済絶交ヲ行フコト各国ノ通則ニシテ又敵ヲ制スル良法ナル処其ノ活動ハ停止セラレタリ
(ヘ)而モ這般ノ協定ニハ満州偽組織亦之ニ参加シ居ル趣ナルカ果シテ然ラハ右ハ満州国ヲ承認セル結果トナリ驚クニ絶エタリ
三、若シ貴会ニシテ前記各項ニ承認ヲ与ヘタリトセハ啻ニ四全大会等ノ決議ニ違反セルノミナラス又全国民ノ好意ニモ悖ルモノト称スヘク若シ然ラストセハ何人カ国家ノ利益ヲ害シ国民党ノ主義及政策ニ違反セルモノアルヘキヲ以テ厳重調査ノ上処置セラルルコト然ルヘシ云々

原文郵送

77　昭和8年5月29日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

日中停戦交渉委員の塘沽集合について

北平　5月29日後発
本省　5月29日後着

第二三二号
貴電第八〇号（七九文書）ニ関シ
三十日正午迄ニ塘沽ニ於テ日支委員落合フコトニ決定セルニ付同日午前八時当地発ノコトニ武官ト打合セタリ

78　昭和8年5月29日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

特務機関関係者の塘沽方面攪乱策動について

天津　5月29日後発
本省　5月29日後着

第二九六号
十九日夜便衣隊暴動事件後同隊ノ大部分ハ四散シ爾来市内及近郊ニ於テ公安局巡警及保安隊トノ間ニ不統一ノ小競合絶ヘス殆ト連日便衣隊ハ逮捕セラレ居ル実情ナル処更ニ二十五日以来特務機関関係ノ三野勇吉、小高虎造等ハ塘沽方面攪乱ノ為多額ノ運動費及任命状等ヲ準備シ同地方民団及近境土匪ノ操縦ニ着手シ二十六、七ノ両日ヲ期シ支那側守備軍ニ対シ攻撃ヲ開始スル手筈ナリシカ逸早ク支那側ニ探知セラレ遂ニ失敗ニ帰シタリ之カ為支那側ハ引続キ極度ニ警戒ヲ加ヘツツアリ

79　昭和8年5月29日　内田外務大臣より在北平中山書記官宛（電報）

停戦会議に参列方について

本省　5月29日後3時20分発

第八〇号
貴電第二二三号（六二文書）ノ四ニ関シ
陸軍側ヨリノ内報ニ依レハ正式停戦会議ハ三十一日頃塘沽ニ於テ開催ノ筈ナル趣ノ処右会議ニハ陸軍側ノ希望モアルニ付貴官モ参列シ関東軍代表ヲ援助セラレ度
尚貴電第二二七号ノ二（政治事項）ノ件ニ付テハ至急追電スヘキ電報第八一号及第八二号ノ通リト御承知相成度
本電陸軍ト打合済

80　昭和8年5月30日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

黄郛の対日交渉方針に関し理解ならびに協力方何澄より要請について

北平　5月30日後発
本省　5月30日後着

第二三四号（暗、至急、極秘）
三十日黄郛ノ顧問格ナル何澄カ極秘ニ原田（竜一）ニ為セル内話左ノ通
一、黄郛カ政務委員会委員長ニ就任スルト否トハ一ニ懸ツテ日本側ノ出方如何ニ依ルモノニシテ若シ日本側カ今回停戦協定ニ苛酷ナル案ヲ持出シ難ヲ強フルニ於テハ黄ハ国内ニ於テ停戦反対運動ノ板挟トナリ投出シテ再ヒ莫干山ニ帰ルコトトナルヤモ知レス依テ此ノ際同人ノ誠意ニ信頼シ同人可能ノ範囲内ニテ漸進的ニ話ヲ進メラルル様切望ニ堪ヘス
二、停戦反対者ハ北ニ馮玉祥、南ニ羅文幹及広東派アル処馮ニ付テハ過般宋哲元、龐炳勛等ノ旧西北軍馮ト合流ノ気配アリタルモ其ノ後何応欽ニ服従スルコトトナリ同人

等モ来平シ同軍隊ハ平漢線ニ引揚ケツツアリ唯土匪ニ等シキ方振武軍カ馮ト合作シ蠢動シ居ルノミナレハ何等時局ニ影響セス又羅文幹ハ頻リニ黄ニ電報ヲ寄セ協定ニ反対シツツアルヨリ黄ハ将来羅ヲ馘首シ日本ニ理解アル汪栄宝ヲ後釜ニ据エ日支間ノ交渉ニ当ラシムル意図アリテ黄トシテハ停戦協定成立ノ上ハ直ニ就任シ何応欽ヨリ軍権ヲ引継キ軍隊ノ整理、党部ノ活動停止等ニ着手シ同時ニ日本側ト日支間ノ問題ニ付話ヲ纏メ外交部長ヲシテ正式調印ヲ為サシメントスル腹案ナルカ如シ

支、満、南京、天津ニ転電セリ

81　昭和8年5月30日　内田外務大臣より在上海有吉公使、在南京日高総領事他宛（電報）

馮玉祥の反蔣運動不支持方新聞等指導について

本省　5月30日発

合第一〇七八号（暗）

馮玉祥挙兵ニ関スル件

最近北支ニ於ケル馮玉祥ノ反蔣運動ハ同人ノ経歴及現在ノ実力等ニ顧ミ徒ニ同方面ノ平静ヲ擾乱スルニ過キサルヘキヤニ認メラルル処当方トシテハ内政不干渉ノ方針ヲ持シツツ右運動ニ対シ寧ロ「ヂスカレヂング」ナルカ如キ態度ヲ以テ其ノ成行ヲ監視スルコト可然ト認メ軍部ト連絡シテ新聞紙等ヲ指導シ居ル次第ナリ尚ホ三十日ノ各新聞紙ハ外務乃至陸軍当局ノ見解トシテ

(イ)馮ハ反覆常ナキ従来ノ経歴ニモ顧ミ徳望薄ク且現在殆ト何等ノ実力ヲ有セス又今回ノ通電ニ対シテモ方振武、孫殿英等ノ反響アリシノミニテ韓復榘、于学忠等実力派ハ容易ニ動ク色ナク殊ニ旧東北軍ハ同人ニ対シ深刻ナル反感ヲ有スルヲ以テ果シテ成功スヘキヤ疑ハシ

(ロ)馮ハ従来ノ親露的態度ノ為メ支那民衆ノ信用ヲ失墜シ居ルノミナラス今回同人ノ標榜シ居ル徹底的抗日ノ如キハ最早同国ノ民心ヲ引クニ足ラス却テ之ヲ離反セシムヘシ

(ハ)我方トシテハ内政不干渉主義ヲ堅持スルモノナルヲ以テ北支ノ政権カ何人ニ帰スルヤハ問題ニ非ス要ハ該政権カ同方面ノ平静ヲ維持スル実力ヲ有シ且対日満関係ニ付誠意ヲ有スルヤ否ヤニ存ス従テ旧式軍閥的ノ野心ヲ以テ徒ニ同方面ノ平静ヲ攪乱セムトスルカ如キ運動ハ好意ヲ以テ迎フルコトヲ得ス況ヤ該運動カ抗日ヲ標榜スルモノナルニ於テヲヤ尚又右運動ノ結果我方ノ権益ニ影響ヲ及ホスカ如キ場合我方ニ於テ適当ノ手段ヲ執ラサルヲ得サルヘキハ勿論ナリ

等報シ居レリ右御参考迄

（編注）本電報は、北平、天津、青島、満州国、米国、英国にも発電された。

82　昭和8年6月1日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

停戦協定成立後の対日政策に関する汪兆銘談話について

上海　6月1日後発
本省　6月1日後着

第三〇七号（暗）

汪兆銘ノ廬山行直前南京ニ於テ同人ト会談ノ上来滬セル天津大公報張熾章カ汪ノ談トシテ一日須磨ニ語ル所大要左ノ通（本件発表見合サレ度シ）

中央ニ於テハ北支ノ形勢ニ鑑ミ黄郛ニ北支行政ニ関スル広汎ノ権限ヲ与ヘタルカ之カ結果ニ対シテハ当然南京政府ニ於テ政治上ノ責任ヲ負フ可キモノニシテ万一黄郛失敗ノ暁ト雖中央トシテハ之カ責任ヲ回避シ黄ヲ見殺シニスルカ如キ考ハ毛頭無シ自分トシテハ停戦交渉成立ヲ機会ニ不進出区域ヲ半永久的非武装地帯トシテ両国間感情ノ融和ヲ計ルト共ニ西南派ノ反対有ルヲ幸ニ出来得ヘクンハ七月一日開催ノ予定ナル全国代表大会ヲ中止又ハ延期シ以テ曩ニ三中全会ヲ通過セル抗日決議ノホトボリノ冷メルヲ待チ漸次日貨排斥長期抵抗等ノ排日感情ヲ緩和セシメ行キ度キ考ナリ

羅文幹ヨリ自分ニ対シ外交部長（脱？）ノ提出アリタルハ事実ナルモ（羅ハ外交部長ノ職ニ留リ汪精衛ノ時局収拾ヲ妨クルニ忍ヒサル旨汪ニ懇談セル趣ナリ）諸般ノ関係上目下之ヲ握潰シ居レリ

馮玉祥ノ抗日通電ニ関シテハ同人現在ノ地位ニ鑑ミ中央トシテハ何等問題トシ居ラス又十九路軍ノ湖南進出ニ対シテモ蔣介石ト陳済棠トノ間ニハ相当ノ黙契有リ左シテ介意スルニ足ラス

満、北平、天津、南京、広東ヘ転電シ上海ヘ転報セリ

83　昭和8年6月1日　在南京日高総領事より内田外務大臣宛（電報）

停戦交渉は軍事に限定の旨汪兆銘新聞記者に談話について

南京　6月1日前発
本省　6月1日後着

第三一〇号

往電第三〇四号ニ関シ

汪精衛、羅文幹等ハ三十一日帰京シタルカ汪ハ新聞記者ニ対シ大要左ノ如キ談話ヲ発表セリ

河北ノ停戦交渉ハ軍事ニ限ルモノニシテ政治問題ニ関係無シ即チ軍事代表ハ素ヨリ政治問題ニ対シ交渉ノ権限ヲ有セス

本件ニ付世上種々ノ論ヲ聞クモ苟クモ現在ノ我カ国力ヲ以テ抵抗ヲ為スモ勝利ヲ得ル能ハサル事明カナリ即チ有為ノ近代的優秀攻撃武器ニ対シ我ハ其ノ質及量ニ於テ敵スル能ハス而モ肉弾ヲ以テ之ニ当リタル結果ハ其ノ惨状言フニ忍ヒス加フルニ赤匪ハ猖獗ヲ来シ其ノ他種々ノ障碍ニ遭ヒ整然タル軍事計画ヲ遂行スル能ハサルト共ニ戦地人民ノ艱苦窮乏甚タシ斯ノ如ク成敗ヲ度外視シ犠牲ヲ忍ヒ国家民族ノ生存ヲ擁護セントスル決心ハ毫モ之ヲ抛棄スルモノニ非サルモ局部的ニ軍隊ノ休養ト人民救済ノ見地ヨリ政府ハ断乎トシテ局面ノ緩和ヲ計ラン事ヲ決意シ而モ飽ク迄領土主権及国際関係上ノ既得地位ニ影響ヲ及ホササル事ヲ期シ居ルヲ以テ国民ハ宜シク利害ヲ考慮シ真剣ニ其ノ前途ノ判断ヲ為スヲ要ス云々

84　昭和8年6月2日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

河北の党部は今後黄郛、何応欽の指揮下に入る旨中央党部より電報について

北平　6月2日後発
本省　6月2日後着

第二三九号（暗）

二日ノ挨拶ノ為来館セル殷汝耕ハ原田ニ対シ中央党部ハ本日付ヲ以テ河北ノ党務一切ハ爾今黄郛、何応欽ノ指揮ニ委ヌル旨電報越セルカ右ハ河北ニ於ケル党部ノ活動ヲ停止スル第一歩ナルコト及政務委員会ハ此処一週間内ニ成立ノ筈ナルカ同委員会ハ従来ノ如キ合議制ニアラスシテ名目ハ委員会ナルモ実質ハ会長独裁制ナル旨内話セル趣ナリ

本電発表見合セヲ請フ

支、満、南京、天津、済南、青島、広東、漢口、福州、奉天ヘ転電セリ、支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

85　昭和8年6月2日　※在ニューヨーク堀内総領事より内田外務大臣宛（電報）

停戦交渉の成立に関する米国民の反響について

ニューヨーク　6月2日後発
本省　6月3日前着

第一六一号

石井全権ヨリ

日支問題ニ関スル米国官辺ノ意向ニ付テハ既ニ卑見ヲ電禀シタルカ在米二週間ニ本官カ当国民間人士ト対談中ニ得タル感想ヲ述フレハ当国ニ於テハ我国ノ軍事行動ニ対スル反感頗ル強ク之カ為日頃ノ親日家ハ苦境ニ立チツツアリ但シ熱河事件起リ支那人カ無抵抗ニテ退却シタルニ愛想ヲ尽カシ天ハ自ラ助クル者ヲ助ク支那人ニシテ自国ヲ防護スルノ決心無キ腑甲斐無サヲ暴露シタル上ハ吾人又何ヲカ言ハンヤトノ声起リ支那ニ対スル興味ハ幾分減却シタルカ如シ此ノ際停戦協定ノ成立ハ一層親日米人ノ愁眉ヲ開キ当国一般ノ好感ヲモ惹カントス故ニ日満軍カ長城以南ニ留ルノ意無キヲ示シ撤退ヲ急カハ更ニ著シキ好印象ヲ当国人ニ与ヘ大局ニ益スルコト鮮カラサルヘシト存ス

86　昭和8年6月2日　内田外務大臣より在上海有吉公使宛（電報）

公使北上の可否について

本省　6月2日後4時20分発

第一〇一号

停戦協定成立後ニ於ケル支那側指導方ノ件

停戦成立後ニ於ケル支那側ヲ可然指導シ且外交団トモ適宜折衝スル為適当ノ期間貴公使ノ北上ハ此ノ際時宜ニ適スルヤニ認メラルルモ一方支那側其他ニ対スル機微ナル関係モ考慮ニ入ルルノ要アリ此辺ニ対スル現場ニ於ケル貴見至急回電アリ度

87　昭和8年6月2日　内田外務大臣より在天津桑島総領事宛（電報）

天津特務機関の解散について

本省　6月2日後3時30分発

第九四号

天津特務機関解散ノ件

陸軍ヨリノ内報ニ依レハ一日参謀本部ヨリ貴地特務機関解散方電訓セルニ依リ板垣以下ハ至急引揚ノ趣ナリ但シ影佐ハ残務処理ノ為今暫ク残ル由

88　昭和8年6月3日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

公使の南京出張に対する中国側の反応問合せについて

上海　6月3日後発
本省　6月3日後着

第三一二号

本使発南京宛電報

第四〇八号

北支時局モ一応落着キタル模様ニ付予テノ予定通リ此ノ際貴地ニ赴キ南京政府要人ト交歓シ度キ意向ナル処最近停戦協定後ノ政治問題交渉ニ付世評喧シキ折柄本使ノ出張ニ対シ政府部内殊ニ汪精衛カ如何ニ考フヘキヤ彭学沛辺ニ夫レトナク御確メノ上右報告旁来滬アリタシ

89　昭和8年6月3日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

南京到着の上北上の時機決定について

上海　6月3日後発
本省　6月3日後着

第三一三号（暗、至急、極秘）

貴電第一〇一号（八六文書）ニ関シ

本使ニ於テモ従来ノ電報往復及北平宛貴電第八一号(ロ)ノ次第等ニ鑑ミ成ル可ク速ニ北上シタキ意向ナル処外交団トノ接触ハ暫ク別トシ一面黄郛トシテハ停戦協定締結ニ当リ支那側委員ヲシテ排日弾圧方ヲ口約セシムル等（海軍側電報ニ依ル）予テノ抱負実行ノ意向ヲ表明シ居リ之カ為軍ノ整理ヲ為ス外速ニ政務委員会ノ内部ヲ固ムル為目下折角努力中ナル趣ナルニ付テハ支那側指導ノ必要ハ充分アルモ其ノ時機ハ一刻ヲ争フ訳ニ非ス本使早急ニ北上セハ政治協定等ノ世評ノ為却テ支那内部ノ混乱ヲ来ス虞アルヤニモ考ヘラル他方南京側ト黄トノ関係ニ付テハ往電第二九九号（七五文書）ノ一及往電第三〇七号（八二文書）ノ如ク観測一致セス此ノ点ニ付テモ本使北上ニ先立チ親シク汪精衛等ト接触シテ出来得ル限リ先方ノ意向ヲ突止ムルコトト致シタシ尚支那側ニ於テハ今回停戦

協定カ一般民心ニ及ホス反動乃至之ヲ機会トスル反蔣運動ノ台頭ヲ緩和スル為有ユル措置ヲ執リ居ル際ナレハ本使ノ北上乃至赴寧ニ付テハ之カ為政治的交渉説ヲ伝ヘ其ノ輿論ニ及ホス影響等ヲモ一応見定メ度ク旁々本使発南京宛往電第四〇八号（八八文書）ノ点ヲモ考慮ニ容レ近ク赴寧シ其ノ模様ニ依リ北上スルコトト致シタシ右時機等決定ノ上更ニ申進スルコトト致シタシ

90　昭和8年6月3日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

停戦協定成立後の華北情勢に関する情報について

上海　6月3日後発
本省　6月3日後着

第三一四号

最近ノ時局ニ関シ李思浩其ノ他カ有野ニナセル談話中御参考迄左ノ通（発表見合サレタシ）

一、李思浩（二日）

停戦協定ノ成立ハ何レノ点ヨリ見ルモ喜ハシ唯支那側ニ残サレタル今後ノ大問題ハ(一)二十万ニ近キ北方軍隊ノ配置統制(二)軍費政費ノ調達ノ二点ナルヘシ後者ニ付テハ毎月最少限三百五十万元ヲ要スル計算ニテ内五、六二ヶ月分ハ先般来発行ノ一千万元公債ノ手取リ七百万元ニテ既ニ黄郛ニ交付済ナルモ七月後ノ分ハ未タ予定無キ模様ナリ馮玉祥ノ反蔣抗日通電ハ段祺瑞宛ニモ来リタルカ段ハ勿論問題トシ居ラス従来ノ行懸上広東派ハ之ニ響応スヘキモ閻錫山ハ隣接セル関係上例ノ如ク不即不離ノ態度ヲ採リ又韓復榘ハ動カサルヘク結局有耶無耶ニ終ルヘシ段祺瑞ハ数日前又々二回吐血シ目下臥床シ居リ政治的談話モ差控ヘ居レリ

二、杜錫珪（二日）

停戦協定成立ニ依リ日支接近ノ機会ヲ得タルハ喜ハシキモ噂ノ如ク日本側カ此ノ際直ニ政治的交渉ニ入ラントスルコト事実ナラハ時期尚早ナリ馮玉祥ノ通電ハ西南派トノ諒解ノ下ニ発セラレタルモノナルモ西南派中実際ノ反蔣派ハ実力ヲ有セス陳済棠ハ蔣介石ト連絡アリテ進ンテ反蔣行動ニ出ツル虞無ク結局馮ノ運動ハ従来ノ蔭ノモノヲ表面ニ現シタル位ノモノニテ成功セサルヘシ

三、曹汝霖（三日）

馮ノ通電ニ対シ北方雑軍中ノ不平分子カ今後ノ収拾如何ニ依リ策応スル気配鮮カラス最近馮ノ背後ニ日本側ノ支持策動アリトノ説モアリ（此ノ点有野ヨリ強ク否定シ置キタル由）黄郛ノ工作ニ対シ相当障碍トナリ居ル模様ナリ政府ハ早目ニ馮ヲ圧迫スヘク河南方面ニ動員ヲ始メタル由ナリ

91　昭和8年6月3日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

停戦に関する協定（塘沽停戦協定）

付記　六月　外務省

「北支ニ於ケル日支停戦協定成立等ニ関スル件」

北平　6月3日後発
本省　6月3日後着

第二四二号
別電（注）

停戦ニ関スル協定

関東軍司令官元帥武藤信義ハ昭和八年五月二十五日密雲ニ於テ国民政府軍事委員会北平分会代理委員長何応欽ヨリ其ノ軍使同分会参謀徐燕謀ヲ以テセル正式停戦提議ヲ受理セリ

右ニ依リ関東軍司令官元帥武藤信義ヨリ停戦協定ニ関スル全権ヲ委任セラレタル同軍代表関東軍参謀副長陸軍少将岡村寧次ハ塘沽ニ於テ国民政府軍事委員会北平分会代理委員長何応欽ヨリ停戦協定ニ関スル全権ヲ委任セラレタル北支中国軍代表北平分会総参議陸軍中将熊斌ト左ノ停戦協定ヲ締結セリ

一、中国軍ハ速ニ延慶、昌平、高麗営、順義、通州、香河、宝坻、林亭口、寧河、蘆台ヲ通スル線以西及以南ノ地区ニ一律ニ撤退シ爾後同線ヲ越エテ前進セス
又一切ノ挑戦撹乱行為ヲ行フ事ナシ

二、日本軍ハ第一項ノ実行ヲ確認スル為随時飛行機及其他ノ方法ニ依リ之ヲ視察ス
中国側ハ之レニ対シ保護及諸般ノ便宜ヲ与フルモノトス

三、日本軍ハ第一項ニ示ス規定ヲ中国軍カ遵守スル事ヲ確認スルニ於テハ前記中国軍ノ撤退線ヲ越エテ追撃ヲ続行スル事ナク自主的ニ概ネ長城ノ線ニ帰還ス

四、長城線以南ニシテ第一項ニ示ス線以北及以東ノ地域内ニ於ケル治安維持ハ中国側警察機関之レニ任ス
右警察機関ノ為ニハ日本軍ノ感情ヲ刺戟スルカ如キ武力団体ヲ用フル事ナシ

五、本協定ハ調印ト共ニ効力ヲ発生スルモノトス
右証拠トシテ両代表ハ茲ニ記名調印スルモノナリ
昭和八年五月三十一日

関東軍代表　岡村寧次
北支中国軍代表　熊斌

（編注）本電第二四一号見当らず。

（付記）

昭和8年6月　外務省

北支ニ於ケル日支停戦協定成立等ニ関スル件

一、五月上旬日本軍ノ第二回関外進出ヲ見ルヤ支那側ニテハ我方出先ニ対シ頻リニ停戦方ヲ求ムル趣旨ノ申出ヲ為シ来リタルモ右ハ何レモ充分ニ責任アル申出ト認メ難カリシカ国民政府首脳部ト協議ノ上北支方面ノ時局収拾ノ為五月十七日着平セル黄郛ハ同月二十二日深更在北平公使館中山一等書記官ヲ来訪シ公使館付陸海軍武官輔佐官同席ノ下ニ懇談ノ結果二十五日支那軍参謀密雲ニ赴キ関東軍側ニ対シ停戦方ヲ正式ニ申入レタルヲ以テ我方之ニ応シ三十日ヨリ塘沽ニ於テ停戦会議ヲ開催シ三十一日停戦協定ノ調印ヲ了セリ

二、而シテ右停戦協定ノ成立ト並行シテ成ルヘク速ニ支那側トノ間ニ北支方面ニ於ケル排日運動ノ取締及満州国治安攪乱ノ停止等政治的事項ニ付了解ヲ遂ケ置クコトヲ肝要ナリト認メ在北平中山書記官ニ対シ何等カノ形式ニテ右了解ヲ遂クル様電訓セリ

三、然ルニ張家口ニ蟄伏中ナリシ馮玉祥ハ五月二十六日付ヲ以テ停戦反対反蔣抗日ノ通電ヲ発シタル趣ナル処北支各方面有力者ノ意見ヲ綜合スルニ目下馮自身ハ何等ノ実力ヲ有セス而シテ此ノ際右馮ノ挙事ニ応スルモノハ方振武及宋哲元等ノ少数部隊ニ過キサルヘキニ付中央側ニ於テ雑軍圧迫ヲ強行セサル等措置宜シキヲ得ハ其ノ他ノ将領ハ容易ニ馮ニ呼応セサルヘク尚黄郛側ニテモ万全ヲ期スル為使者ヲ派シテ馮ニ自重方ヲ説得セシメツツアル一方中央軍ノ一部ヲ京綏線方面ニ出シ警戒ヲ加ヘ居ル由ナルニモ顧ミ目下ノ形勢ニテハ馮ノ策動ハ左シテ時局ニ影響セサルモノト観測セラレ居レリ

92　昭和8年6月3日　在南京日高総領事より内田外務大臣宛（電報）

盧山会議の内容に関する情報について

南京　6月3日後発
本省　6月3日後着

第三一三号

盧山（会議）参加ノ要人ハ相前後シテ帰京シタルカ同会議ノ内容ニ付諜報者カ内査シタル所左ノ通

先ツ停戦協定締結ノ已ムヲ得サル次第ヲ是認シ之ニ依リ急迫セル河北ノ局面ヲ緩和シ今後ハ専ラ共産党討伐ニ力ヲ注キ以テ後方治安維持ノ確保ト反蔣運動ノ台頭ニ備フルト共ニ他面動モスレハ紛糾ノ原因ヲ為ス全国代表大会ヲ十一月十二日ニ延期シ其ノ間錯綜セル国内諸問題ヲ処理シ且世界経済会議並軍縮会議ノ動向ヲ見極メタル後改メテ全国代表大会ニ於テ対日問題其ノ他ノ根本政策ヲ決議シテ国民ノ了解ヲ求メントスル方針ナルカ如シ

93　昭和8年6月3日　在南京日高総領事より内田外務大臣宛（電報）

停戦協定調印に関する汪行政院長の通電について

南京　6月3日後発
本省　6月4日前着

第三一四号

河北停戦協定調印ニ関シ最初国民政府ノ名ヲ以テ宣言ヲ発スヘキヤニ伝ヘラレタルカ之ニ代フルニ行政院長汪兆銘ヨリ責任通電ヲ発スルコトトナリ昨二日其ノ内容ヲ発表セリ其骨子左ノ通

熱河ヲ失ヒテ以来我軍長城一帯ニ抗戦苦戦三箇月但シ日本軍ノ優良武器ノ為メ南天門ノ戦闘ノ如キ我中央各師死傷過半ノ惨烈ヲ見非戦闘ノ人民ノ死傷多キニ忍ヒス戦略上退却ヲ始メタルカ更ニ平津ノ地ニ災難ノ及フコトヲ惧レ一面将士ヲ激励シテ努力ヲ続ケシメ一面休戦運動ヲ行ヒタリ既ニ右調印ヲ了シタルモ中国領土ノ主権及世界平和各条約ニハ無害ノモノニシテ又政府従来ノ根本方策ニ影響ナキ単ナル局部的軍事協定ニ過キス既定ノ外交国防方針ニ努力シ以テ正義ノ貫徹ヲ期セントス

94　昭和8年6月4日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

停戦協定実施につき外交軍事の協調方関東軍に要請について

北平　6月4日後発
本省　6月4日後着

第二四三号

貴電第八六号後段ニ関シ

貴電第八一号及第八二号塘沽ニ於テ拝見三十一日日支懇談会前ニ岡村少将ニ会見シ右貴電ヲ内示シ将来ノ交渉ハ協定中関東軍ハ「自主的ニ概ネ長城ノ線ニ撤退ス」ル条項ノ運用如何ニ俟ツ所大ナル故ヲ以テ外交軍事ノ協調方ヲ依頼シタル処副長ハ勿論同席ノ喜多（誠二）大佐モ快ク之ヲ承諾セラレタルニ付懇談会後李択一トモ話シ帰平早々黄郛ト会見ノ希望ヲ申入レ置ケリ

95　昭和8年6月4日　在南京日高総領事より内田外務大臣宛（電報）

羅文幹外交部長の留任について

南京　6月4日後発
本省　6月4日後着

第三一六号

往電第三〇一号ニ関シ

羅文幹ハ盧山会議ヨリ帰来一日新聞記者ニ対シ辞職説ヲ否定シ自分ハ国難ニ伴ヒ身心ヲ痛メ健康ヲ害シ居ルモ此ノ際辞職スル事ナク依然中央ノ意思ニ依リ積極的ニ努力スル旨ヲ言明シタルカ諜報ニ依レハ羅ノ辞任ヲ申出タルハ事実ナルモ蔣介石汪精衛ヨリ今次ノ停戦協定カ単ニ軍事ニ限ラレ何等外交上影響ヲ及ホスモノニアラサル事並ニ右ハ行政院長タル汪ニ於テ其ノ責任ヲ負フ事ヲ説得セラレ次テ汪ノ名ニ於テ往電第三一四号（九三文書）ノ宣言ヲ発セラレタル結果羅ハ之ヲ納得シ留任スル事トナリタル趣ナリ

右何等御参考迄

96　昭和8年6月4日　在南京日高総領事より内田外務大臣宛（電報）

中央政治会議における停戦協定の字句に関する非難について

南京　6月4日後発
本省　6月4日後着

第三一七号

情報ニ依レハ三日中央政治会議臨時会議ニ於テ停戦協定ノ報告ヲ受ケタル際多数委員ハ第三条中「長城ノ線迄帰還ス」トノ字句ニ関シ帰還トハ我家ニ帰ルコトヲ意味シ恰モ

長城ノ線ヲ以テ日本ノ領有タルコトヲ黙認セリトノ口実ヲ与フル惧アリトシ右ハ当然撤退ナル文字ヲ用フヘキモノナリトテ当局ノ不注意ヲ非難シタル趣ナリ

97 昭和8年6月5日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

停戦協定に関する孫科の新聞記者への談話について

上海　6月5日後発
本省　6月5日後着

第三一七号

南京ヨリ来滬ノ孫科カ四日当地新聞記者ニ為セル談話中参考トナルヘキ点左ノ通リ

一、五月二十一日夜日本側ヨリ突然黄郛ニ対シ停戦ニ関スル五項ノ覚書ヲ提出シ来リ黄ヨリ右対策ニ関シ中央ニ請訓アリタルヲ以テ中央ニ於テハ全体会議ニテ考慮ノ結果

(一)協定ハ単ニ口頭約束ニ止メ文書ニ依ラサルコト

(二)緩衝地帯ヲ設ケサルコト

(三)軍事事項ノミニ限リ政治範囲ニ亘ラサルコト

(四)会議ハ双方ノ軍事当局ニ於テ処理シ外交官及政治家ヲ参与セシメサルコト

等ヲ条件トシテ交渉スヘキ旨電訓セル所日本側ハ(一)、(二)両項ヲ承諾セサリシ為已ムヲ得ス政治ニ亘ラサル範囲内ニ於テ日本側覚書ヲ修正シ今回ノ協定調印ヲ見ルニ至リシ次第ナリ

平津危急ニ瀕セル際日本側ハ張敬堯、斉燮元、孫伝芳、石友三等ノ漢奸ヲ買収シ張ノ如キハ百八十万元ヲ受領シ政客及軍隊ノ買収ニ力メ居タルヲ以テ平津若シ陥落セハ必スヤ新政権ノ樹立ヲ見タルヘク之レ局部的停戦ヲ受ケサルヲ得サリシ所以ナリ

二、平津ノ戦争ハ一段落着キタルカ馮玉祥ノ抗日民衆軍総司令就職以来日本軍ハ兵力ヲ察哈爾方面ニ転用セントシ居ル処中央トシテハ馮ヲ指揮スル事素ヨリ不可能ナルノミナラス中央軍ノ一部ヲ派遣シテ馮ノ指揮下ニ属セシムル（コト）モ亦困難ナルヲ以テ目下黄郛ハ人ヲ派シテ馮ト商議中ナリ従テ中央ノ対策ハ将来ノ発展ニ俟ツノ外ナシ

三、世界ノ思潮ハ今ヤ世界経済会議ニ集中セラレ極東ノ問題ヲ見ルノ暇ナキヲ以テ若シ会議終了後外交及軍事上ノ

力量ヲ運用シ東北問題ノ解決ヲ計ルニ於テハ或ハ成功ノ可能性アルヘシ

四、有吉公使カ近日中ニ北上シ日支間政治問題ヲ討論スヘシトノ説アルモ黄郛ノ権限ハ局部的問題解決ニ限ラレ全般的政治問題交渉ノ権ハ中央ニ属スルヲ以テ仮令公使北上スルモ全般ニ討議スルカ如キ事決シテナシ

98 昭和8年6月6日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

七日南京に向け出発について

上海　6月6日後発
本省　6月7日前着

第三一九号

往電第三一三号ニ関シ

日高総領事ノ報告ニ依レハ各方面ノ状勢ハ本官ノ赴寧ニ差支ナキ模様ナルカ此ノ際支那側輿論ノ影響等ヲモ考量シ成ル可ク大袈裟ニ吹聴セサルコト然ルヘシト存セラレ旁新聞等外部ニ対シテハ旧知ニ挨拶ヲ兼ネ家族同伴観光ノ為ト称シ七日朝出発赴寧ノコトトセリ不取敢

99 昭和8年6月6日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

黄郛有吉公使の北上延期方要請について

北平　6月6日後発
本省　6月6日後着

第二四六号（暗、極秘）

橘ノ報告ニ依レハ同人ハ六日黄郛ニ面会シ有吉公使北上ニ関スル黄郛ノ内意ヲ極メテ非公式ニ尋ネタル処黄ハ自分ヨリ言フヘキ筋合ニ非サルモト前提シ目下ハ表向ニ日本ヨリノ御援助ハ却テ支那側内部ノ複雑ナル関係上打壊シトナル虞有ル事ト羅文幹ノ問題モ此処一週間中ニハ決定シ其ノ後任者ハ孰レ自分等ト同シ考ヲ有スル者カ就任スル筈ナルニ付其ノ際ニハ或ハ南京方面ニテ公使トノ間ニ話合ヒモ出来ル事カトモ思フ故北上ハ今暫ク右ノ事情決定スル迄ハ待タレテハ如何カト考ヘル旨ヲ率直ニ述ヘ右適当ノ方法ニテ公使ニ伝ヘ尚本官ニモ伝達方依頼セル趣ナリ

支ヘ転電セリ

100 昭和8年6月6日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

羅外交部長の辞任説について

第三一〇号　天津　6月6日後発　本省　6月6日後着

平津地方旅行中ノ参謀本部支那課長酒井(隆)大佐本六日北平ヨリ帰来極秘トシテ本官ニ語ル所ニ依レハ黄郛及張群等ノ意見ヲ綜合スルニ羅文幹ハ停戦協定成立ヲ切掛ニ之ニ反対ノ理由ヲ以テ辞表ヲ提出セシカ汪精衛ハ之ヲ許ス時ハ累ヲ右協定ニ及ホスヲ虞レ協定ノ成立ハ行政院長タル汪自身ノ責任ナル旨ヲ声明シテ一応慰留シ更ニ眼病ヲ理由トスル一月ノ請暇ヲ許可セル次第ナルカ結局辞任スルニ至ルヘク中央ハ斯クシテ羅ノ引退ニ引続キ宋子文ヲモ引退セシムル方針ニシテ羅辞任後ハ恐ラク徐謨ヲシテ代理セシムルコトトナルヘシトノ趣ナル処尚五日王揖唐モ本官ニ対シ大体右ト同様ノ内話ヲナシ唯汪精衛一時外交部長ヲ兼任スルコトトナルヘシト語レリ

101　昭和8年6月6日　在広東吉田総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

停戦協定成立により西南側抗日部隊の進発中止について

第三〇〇号（暗）　広東　6月6日後発　本省　6月6日後着

往電第二九五号ニ関シ

西南側ハ日支休戦協定成立ヲ奇貨トシ果然其抗日部隊ノ進発ヲ一斉ニ中止シタルカ右ニ関シ御参考迄左ノ通

一、郴州ニ待機中ナリシ十九路軍抗日部隊ハ蔡廷鍇ノ電命ニ依リ左ノ如キ回帰通電ヲ発シテ五日ヨリ韶関ヘ後退ヲ開始シ連平ヲ経テ帰閩ノ筈

今般総指揮ヨリ「河北当局既ニ城下ノ盟ヲ誓ヒタルニ付両縦隊長ハ所属ヲ率ヒ恨ヲ呑ンテ帰閩シ徐ニ救国ノ大計ヲ計ルヘシ」トノ電命ヲ奉シタル処吾人ハ抗日ノ精神ニ基キ軍ヲ率ヒテ前線ニ赴ク決心ナリシモ黄郛ハ甘ンシテ売国奴トナリ遂ニ抗日ニ屈シテ城下ノ盟ヲ誓ヒ満州ハ異族ニ委(ママ)另サレ東北ノ同胞悉ク奴隷トナリ勢ヒ全中国ヲ滅亡ニ導カントシ国家人民ヲ誤ルコト之ヨリ甚タシキハナシ斯テ我部隊ハ目的ヲ失ヒ玆ニ六月五日恨ヲ含ミツツ後退セントス（三日付張炎、譚啓秀）

二、(イ)広東北上部隊（独（立）第四師）ハ韶州楽昌間ニアリシモ陳済棠ノ命ニ依リ前進ヲ中止シ其儘江西ニ赴キ共産軍ニ当ル旨伝ヘラレ居レリ

(ロ)韶州ニ集結準備中ナル広西軍北上部隊（凌圧西及竜振翼両団）又剿匪軍ニ合流シ不日江西入リヲ為スヘク報セラル右不取敢

支、北平、南京、漢口、天津、青島、福州、厦門、満、汕頭ヘ転電シ香港ヘ転報セリ

支ヨリ上海ヘ、青島ヨリ済南ヘ、漢口ヨリ長沙ヘ転報アリタシ

102　昭和8年6月7日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

有吉公使の北上延期要請の理由に関する黄郛の内話について

第三一一号　天津　6月7日後発　本省　6月7日後着

六日黄郛カ橘ニ内話セシ要領橘ノ希望ニ依リ御参考迄ニ電報ス

有吉公使北上ノ事ハ黄自身トシテハ種々了解又ハ援助ヲ請フタメ大イニ希望スル所ナルモ停戦協定直後一部反動派及南京党部広東系河北傍系軍中ノ不純分子等ハ何カノ機会ヲ捕ヘテ大衆煽動ヲ秘カニ企テツツアルヲ以テ此ノ際日本公使ノ北上ハ日支妥協ノ端ヲ開ク為トカ或ハ外交交渉開始ノ為トカ謡言ヲ作ル源トナリ結果ハ停戦協定ニ依リ折角多少空気緩和サレ幾分華北ノ事態安定セントシツツアル前途ニ支障ヲ生スル惧ナシトセス殊ニ南京外交部当局ノ更迭ハ大体確定シ後継外交当局ハ黄等ト同主義ノモノナル事ハ明カナレハ対日関係上極メテ好都合ナルヘキニ付有吉公使ニ於テモ右新外交当局ノ就任後一応南京ノ空気ヲ見極メラレタル上北上セラルル方好都合カト思考ス

尚日本軍部ノ一部ニハ停戦協定ノ実行監視中華北ニ於ケル一切ノ交渉ハ依然軍部ニ於テナスヘキ筋合ナリト考ヘ居ルモノモアルヤニ見受ケラル此ノ点ニ付有吉公使カ速カニ北上セラレン事ヲ希望スルモ亦斯カル雰囲気ノ内ニアリテハ遽カニ北上セラレサル方却ツテ宜敷カトモ思考セラルル次第ナリ

以上ハ全ク自分ノ腹蔵ナキ意見ニシテ公使ニ直接申上ケラルルヘキ筋合ニアラサレハ其積ニテ然ルヘク裁量アリタシ

ト付言セリ云々

103

昭和8年6月8日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

対米棉麦借款の成立および蔣介石と宋子文との関係等に関する陳彬龢の内話について

上海　6月8日後発
本省　6月8日後着

第三二五号

七日陳彬龢ノ館員ニ対スル談話左ノ通

一、今次ノ対米棉麦借款成立ハ専ラ米国ノ対内的打算ニ依ルモノナルコト勿論ナルモ他方之ニ依リ北支停戦協定成立以来漸ク台頭シ来レル国民政府内ノ親日論者ノ出鼻ヲ挫キ以テ宋子文等ノ親米派ノ立場ヲ強化シ支那側ニ対シ米国尚頼ムヘシトノ感ヲ与ヘタルハ否ムヘカラス

二、最近陳公博側近者ヨリノ聞込ニ依レハ宋ハ渡米直前蔣、汪等ニ対シ支那ハ今後米国及連盟ノ援助ヲ藉リテ満州事変ニ依リ中絶セル「ライヒマン」ノ支那啓発計画ヲ復活シ以テ日本ニ対抗スヘシト主張シ一同ノ支持ヲ得タル趣ナルカ本借款モ此ノ経緯ニ依ルモノナランカ

三、蔣、宋関係ニ付テハ従来ヨリ兎角ノ噂アリ北支停戦協定成立ニ際シテモ蔣カ黄郛、張群等ノ意見ヲ採用シ宋子文一派ノ主張ヲ無視シタルハ事実ナルモ其ノ勢力保全ノ見地ヨリセハ蔣、宋両人ハ結局不可分ノ関係ニアリ停戦協定ト云ヒ対米借款ト云ヒ其間何等矛盾無キ筈ニテ今次借款ノ成功ハ愈以テ蔣ヲ宋ヨリ不可離ナラシムヘシ此間一部親日論者ハ蔣カ対日妥協ノ方針ニ転換セル機会ニ対日外交指導権ヲ宋子文一派ヨリ奪取セント策動シツツアルモ右試ハ恐ラク成功セサルヘク事実宋カ財政部長ノ地位ヲ利用シ内外ニ培ヒ来リタル牢乎タル信用並ニ彼ヲ廻ル子良、子安ノ両弟、外人顧問「ヤング」、上海関監督唐海安、財政部次長鄒琳及李調生並ニ張寿鏞（光華大学校長ニシテ事実上宋留学中ノ財政部ヲ主宰ス）等ノ鞏固ナル団結ニハ容易ニ歯モ立タサルヘシ

四、今次借款ハ破産ニ瀕セル国民政府ニ対シ「カンフル」注射ノ効ハアルヘク蔣ハ之ヲ利用シテ剿共反蔣運動ノ切崩シ浙江財閥ノ救済等ヲ画策スヘク何レニセヨ本件ハ直接間接ニ蔣、宋連立政府ノ安定ニ資スル所鮮カラサルヘシ

104

昭和8年6月9日　※在南京日高総領事より内田外務大臣宛（電報）

日中国交調整に関する汪行政院長との会談要領について

南京　6月9日後発
本省　6月10日前着

第三二四号（暗、極秘）

有吉公使ヨリ左ノ通[1]

八日午後本使汪精衛ヲ訪問シタルカ（当方ハ有野、先方ハ唐有壬同席）会談要領左ノ通

一、挨拶交換ノ後本使ヨリ両国ノ関係ニ付既往ノ如キ不幸ナル事態ヲ繰返スハ遺憾ニ堪ヘス速ニ改善ノ途ヲ計ル必要アリ貴見如何ト述ヘタルニ汪ハ同感ノ意ヲ表シタル後中日両国ハ兄弟ノ国柄ナルニ拘ラス之レ迄背中合セノ状態ナリシカ今後ハ正面ニ向キ直リテ漸次接近スル必要アリト答ヘタルニ付本使ハ貴電第一〇四号及第一〇七号ノ趣旨ヲ可然説明シタル上両国ノ接近及邦交ノ改善ヲ期スル為ニハ支那カ事態ヲ今日ノ状態ニ立至ラシメタル根本原因タル排日行動ノ停止ヲ実行スルコト最大要件ナリトテ既往ノ経過等ニ見ルモ排日ノ結果カ支那ニ何等利益スル所ナキ次第ヲ説示シタルニ汪ハ孫文ノ主義カ当初ヨリ排外的ノモノニアラサルコト唯一ノ目的カ不平等条約ノ撤廃ニアルコト等ニ付説明ヲナシ暗ニ排外運動ハ之ニ関連シテ発生シタルモノナル次第ヲ弁解的ニ述ヘタルカ本使ノ言分ニ対シテハ良ク了解セリトテ極メテ素直ニ是認ノ態度ヲ示シ尚不平等条約撤廃ト云フモ支那ハ権利ノミヲ主張スルニアラス同時ニ義務ヲ尽スハ勿論ニシテ現ニ治外法権撤廃ニ関シ司法制度改善等ニ努力シ居ルハ其ノ一例ナリト付言セリ

二、依テ本使ハ関税自主其ノ他ノ例ヲ引キ日本カ当初ヨリ支那ノ不平等条約撤廃運動ニ同情シ合理的ナル撤廃ヲ十分援助シ来リタルコト然ルニ支那カ順序ヲ経スシテ急激不当ノ手段ニ出テ一面排日運動ト以夷制夷ノ政策ヲ以テ日本ニ当リタル為今日ノ結果ヲ来シタルニアラスヤトテ更ニ之ヲ切掛ニ今回ノ関税増徴ニ言及シ別電ノ如キ問答（見当ラズ）ヲ繰返シタル後要スルニ国民政府カ既往ヲ反省シ態度ヲ改ムルニ於テハ日本ハ今後トモ不平等条約ニ対シ合理的撤廃運動其ノ他正当ナル工作ニ対シテハ同情シ援助ヲナ

スニ吝ナラストノ趣旨ヲ述ヘタルニ汪ハ外交的辞令ヲ抜ニシテ自分ハ平素ヨリ中日ノ共存ヲ主義トシ居リ在野当時ヨリ満州ニ於ケル張学良ノ遣リ方カ日本ノ真ノ要求ヲ理解セサルヲ遺憾トシ政府ニ屢々忠告シタルコトアリ殊ニ日本ニ対シ戦フ実力モナク又ハ（脱）スル途ヲモ考ヘス只管事態ヲ悪化スルノミナリシニ鑑ミ行政院長新任後対日感情転換ノ第一歩トシテ学良ヲ下野セシメ之ヲ国外ニ去ラシメタルカ（客年八月三十日付公信第二五七号参照）（二一六―一五七文書）更ニ第二歩トシテ先般黄郛ヲ北上セシメ日本トノ接近ノ端緒ヲ開カシムルコトトシタル次第ナリ此ノ辺ノ事情ハ日本側ニテモ充分了解セラレ居ルモノト信スト述ヘ尚黄郛トノ関係ニ付黄ノ意見ニ対シテハ北上前既ニ同感ノ意ヲ表シアリ北上後ノ行動ニ対シテモ満腔ノ支持ヲ与ヘ居ル旨ヲ付言セリ

三、[2] 次テ本使ハ満州国ノ「ステイタス」ニ言及シ支那側ニテハ動モスレハ満州カ日本ノ為ニ占領セラレタルカ如キ感ヲ抱キ居ルハ甚タシキ誤リナリ同国ハ支那ト同一民族ニ依リ構成セラレタル謂ハハ支那ノ分家トモ考ヘラルルニアラスヤトテ同国ノ厳然タル存在ト既成ノ事実ヲ認ムルコトカ東洋平和ノ要件タル次第ヲ説示シタルニ汪ハ満州国ト謂フモ其ノ人民ノ九割ハ支那人ニシテ満州人ハ僅カニ一割ニ過キス又中国ノ立場トシテ満州国ヲ承認シ得サル次第ハ貴公使モ亦了解セラルル所ナルヘキカ吾人ノ今後為サントスルハ既往ノ詮議立テニアラス将来ノ打開ニアリ右ハ諺ニ謂フ「己ヲ責ムルニ重ク人ヲ責ムルニ軽シ」ノ意ニ当ルモノニシテ将来ハ中日両国共存ノ主義ニ依リ一致シテ其ノ工作ニ努力センコト希望ニ堪ヘス此ノ点自分ハ最近ノ紀念週ニ於テモ其ノ意見ヲ発表シタル次第ナリトテ（往電第三二七号御参照）（一〇五文書）暗ニ満州国問題ハ此ノ際「セット、アサイド」スルモ差支ナキカ如キ意向ヲ仄カシ尚最後ニ右両国一致工作ノ為ニハ将来トモ相互ニ誠意ヲ以テ意見ノ交換ヲ為シタシト結ヘリ

尚又別ルルニ臨ミ汪ノ耳打チニテ唐有壬ヨリ会談ノ内容ハ新聞ニ発表セサル様致度シト申出タルカ汪ハ門前ニ待構ヘタル邦人記者団ニ対シ本日ノ会見ニテ両国ハ従来ノ如キ共亡ノ道ヲ捨テ今後共存ノ道ヲ進ム必要アル点ニ付意見ノ交換ヲ為セル旨発表シタル趣ナリ（以上汪ノ立場モアリ発表セサル様致度シ）

北平、満、天津、青島、済南、漢口、広東、福州ニ転電シ支ヘ転報セリ

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

105　昭和8年6月9日　在南京日高総領事より内田外務大臣宛（電報）

停戦協定問題その他に関する汪行政院長の演説について

南京　6月9日後発
本省　6月9日後着

第三二七号

汪行政院長カ総理紀念週ニ為セル報告演説概要左ノ通

河北停戦協定カ単ニ軍事ニ限リ政治ニ亘ラサル点ニ於テ上海停戦協定ト性質ヲ同フスルモ地勢ノ相違ハ上海ノ時ノ如ク日本軍ノ乗船帰国トナラス長城以北ヲ以テ我領土ニ非サル事ヲ承認セルカ如ク観ユルモ決シテ然ラス右ハ抵抗不能ニ陥リタル為ノ弁法ニシテ世界平和ニ関スル各種条約ニ調印セル支那ハ右ニ依リ紛争ノ解決有ル可キヲ期待スルモノナリ然ルニ日本ノ輿論ハ支那ヲ難詰シテ支那ハ依然トシテ以夷制夷ノ旧方法ヲ用フトセリ而シテ国際合作ハ世界ノ趨勢ニシテ互ニ利スル事ヲ以テ目的トス日本ノ輿論カ此ノ点ヲ諒解セハ誤解有ル筈無シ況ンヤ日本ノ輿論ノ一部ニハ明カニ日支ノ共存ニ着眼シ侵略ノ不自然ナルヲ知レリ此ノ一部ノ輿論ト共ニ日支共存ヲ実行スルハ国際協力ノ日支紛争解決ヲ妨クルモノニ非スシテ方ニ相助ケテ解決ヲ容易ナラシムルモノナリ武力ニ依ル失地回復ハ国力発達シ武力ノ充実ニ待ツヘキナリ武力ハ国力ノ一部分ナリト信ス武力ノ充実ニ注意ヲ怠ラサルト同時ニ国力ノ発達ノ為ヨリ以上ノ注意ヲ払フ可キナリ

全訳文郵送ス

106　昭和8年6月10日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

河北視察より帰来の唐有壬停戦交渉に関し談話発表について

上海　6月10日後発
本省　6月10日後着

第三二七号

河北視察ヨリ帰来セル唐有壬ノ九日新聞記者ニ対スル談話御参考迄

一、停戦交渉当初日本側提出ノ条件ハ苛酷且多分ニ政治的性質ヲ含ミ居リ交渉地点モ秦皇島トアリタルヲ以テ我方ハ之ヲ峻拒シ同時ニ天津説ヲ提出シタル処日本側モ政治的苛酷ナル条件ヲ撤回シ交渉地点モ塘沽ニ折合ヒタル次第ナリ

二、交渉ノ当初曹汝霖カ居中斡旋セリト伝フル向アルモ右ハ全然出鱈目ニシテ且日本側ハ曹ヲシテ信用シテ居ラス最近日本側通信ハ政治交渉開始説ヲ伝ヘ居ルモ日支直接交渉ハ単ニ中日間ノ問題ニ非スシテ世界問題ナレハ政治交渉ハ両国ニ於テ勝手ニ進行シ得ヘキモノニ非ス

三、曩ニ日本軍平津進行ノ際日本側ハ河北ニ第二ノ傀儡国樹立ノ目的ニテ二十五万元ヲ以テ張敬堯ヲ十五万元ヲ以テ孫伝芳部下ヲ四万元ヲ以テ其他大小漢奸ヲ買収シタルカ孰レモ失敗ニ帰シ張敬堯ハ死亡シ其ノ他ノ一味ハ大連等ニ逃亡セリ

107 昭和8年6月10日　在南京日高総領事より内田外務大臣宛（電報）

有吉公使の南京訪問に関する新聞報道について

南京　6月10日後発
本省　6月10日後着

第三二九号

公使来京ニ関シ当地各支那新聞ハ何レモ論評ヲ為サス亦頗ル穏カニシテ公使ノ汪院長羅部長訪問ニ付テモ右ハ純然タル訪問ニシテ関税問題日支関係等何等交渉ニ亘ラサリシ旨ヲ報道セル等取締慎重ヲ加ヘタルヲ感セラル

108 昭和8年6月11日　在広東吉田総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

停戦協定および対米棉麦借款問題に関する西南政務委員会の非難電について

広東　6月11日後発
本省　6月11日後着

第三〇九号

西南政務委員会ハ停戦協定及対米棉麦借款ノ両問題ニ関シ九日付立法院長孫科及同院各委員宛左ノ如キ忠告電ヲ発セル趣ナリ

日支停戦協定及対米五千万弗借款ハ国家ノ存亡ト人民ノ負担ニ関スル重大問題ニシテ法律上立法院ヲ通過セサルヘカ

ラス然ルニ右ハ何レモ同院ノ審査ヲ経ス関係当局ノ一、二官吏ニ於テ擅ニ調印セルモノニ係リ明ニ軍事及財政官吏ノ専断違法ノ行為タルノミナラス立法院トシテハ真ノ職権ヲ抛棄セルモノト称スヘシ抑々今次ノ停戦協定ハ国家主権ヲ害セルコト二十一箇条ヨリモ甚シク又米仏借款（棉麦カ）ハ其ノ非違衰世凱ノ六千万磅大借款ニモ過クルモノアリ而モ立法院ハ其ノ監督権ヲ行使セス更ニ同院院長ノ如キハ屢々言訳的弁明ヲ試ミテ糊塗ニ努メツツアリ

斯ノ如ク立法院カ国家ノ死線及外債ノ取極ニ付キ与スル能ハスンハ責ニアルモノ宜シク速ニ立法院ノ廃止方ヲ申請シ辞職シテ罪ヲ天下ニ謝スヘキナリ云々

109 昭和8年6月13日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

宋子文帰国の影響に関する陳彬龢の内話について

上海　6月13日後発
本省　6月13日後着

第三三五号

十三日陳彬龢ノ館員ニ対スル内話左ノ通

一、過般停戦交渉ニ際シ宋子文ハ米国ヨリ申報社長史量才宛電報ヲ寄セ対日妥協反対ノ激越ナル意見ヲ述ヘ来リ居リ自分（陳）ハ右電報ヲ現認セリ

二、宋子文カ経済会議ヲ匆々ニシテ切リ上ケ帰国ノ途ニ就カントシ居ルハ事実ニシテ右ハ最近蔣介石カ平津ノ危機ニ依リ対日妥協ニ傾キ之レニ乗シ黄郛一派ノ所謂親日派カ宋子文一派ノ打倒ヲ策シ居ルノ報ヲ得テ急遽帰国之レカ対策ヲ講センカ為ナリ宋ノ対日反感ハ宋帰国後モ依然変ラサルヘク又宋ト黄郛トノ関係ハ極メテ悪シキモノアリ彼ノ帰国ニ依リ蔣介石ノ心境カ如何ニ変化スルヤハ注目ニ値ス

三、元来宋ハ中々ノ野心家ニテ内外ニ自己ノ地盤ヲ固メツツアル一方実力派ノ間ニモ積極的ニ連絡ヲ取リツツアリ宋ハ十九路軍ノミナラス最近ニテハ韓復榘トノ間ニモ相当突込ミタル関係アリ

四、昨今蔣介石汪精衛ノ合作ハ可成リ円満ニ行キ居ルモ右ハ両者ノ意見完全ニ一致スルカ為ナラス汪ニ於テ妥協的態度ヲ執リ居ルカ為ナリ尤モ宋子文ハ従来ノ実際的遣口ニ鑑ミ外遊ヲ機会ニ抗日的態度ノ転換ヲ計ルヘシトノ観

測最近支那側ノ一部ニ行ハレ居リ右ニ付テハ充分注意ノ要アルモ不取敢

110　昭和8年6月13日　外務省

日本軍の撤収状況について

六月十三日係官カ参謀本部川本大尉（秀太郎）ヨリ電話ニテ聴取セル北支方面日本軍撤収状況左ノ通

一、古北口方面ヨリ関内ニ進出セル鈴木部隊ハ十三、四日頃ヨリ移動ヲ開始シ密雲ヨリ石匣鎮、古北口ニ至ル一帯ニ撤収スヘシ

二、川原部隊ハ十一日頃ヨリ撤収ヲ開始シ承徳平泉方面ニ到達スル予定

尚其ノ一部ハ馬蘭関ニ向ヒ撤収ス

三、服部部隊ハ目下移動中ナルカ同部隊ハ主力ヲ山海関ニ置キ一個大隊位ノ兵力ヲ灤州、建昌営、綏中、興城（最後ノ二地ハ関外）ニ配スル予定

四、他ノ部隊ノ移動ニ付テハ未タ公電到着シ居ラス

（以上状況ハ外部ニ洩ラササル様願ヒ度シトノコトナリ）

111　昭和8年6月20日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

汪兆銘の塘沽停戦協定その他政局に関する内話について

上海　6月20日後発
本省　6月20日後着

第三五〇号（暗）

十九日心声通信社袁逍逸ノ館員ニ対スル内話ニ依レハ十八日来滬ノ汪精衛ハ往訪ノ記者（袁モ列席ス）ニ対シ新聞ニ発表セサルヲ条件トシテ左ノ如ク談話セル趣ナリ

一、連盟（カ）満州国不承認案ヲ通過シタルハ支那ノ外交ノ大勝利ナルカ然リトテ連盟ノ対日実際制裁ハ不可能ナルヲ以テ支那ノ連盟依頼ハ既ニ終了セルモノト云フヘシ日本ハ連盟ニ対シ極端ナル強硬態度ヲ持シ遂ニ之ヲ脱退セルモ欧米トノ各個連絡政策ヲ執リツツアルヲ以テ支那ハ全国力ヲ挙ケテ対日抗争ヲ堅持スヘキニテ河北停戦協定ハ已ムヲ得サルニ出テタル一種権宜ノ手段ナリ

二、今後支那ハ日蘇間ノ紛議ヲ利用シテ日本ノ国家単独親交ヲ牽制スルト共ニ暫ク対外問題ヲ緩和シ国内充実ヲ計ルヘキナリ東支売却ハ明カニ蘇側屈服ニテ吾人ハ極力反対宣伝ヲ為シ居ルモ本件抗議モ支那カ東北回収実力ヲ備ヘサル限リ蘇側ニ於テ問題ニセサルヘシ

三、羅外交部長カ嘗テ自分（汪）及蔣委員長ニ対シ辞職ヲ申出テタルハ事実ニシテ目下引留中ナルカ辞職ノ重ナル理由ハ外交問題ニ付各方（面）ノ意見不一致甚タシク責任者トシテ甚タシク困難ヲ感シ居ルカ為ナリ（袁ハ言外ニ羅ノ辞職ハ不可避トノ印象ヲ受ケタル趣ナリ）

四、宋子文ハ来月中ニ帰国ノ筈ナルカ英国ニ於テ借款進行中ナリトノ噂ニ付テハ宋ヨリ何等報告ニ接シ居ラス又政府ニモ其議無シ対米棉麦借款モ前以テ計画無カリシモ宋渡米後話始マリタリトノ来電アリ政府ハ宋ニ商議全権委任ヲ電命シタル次第ナリ本借款ノ用途管理等ハ宋ノ帰国ヲ待チテ詳細決定セラルヘシ

満、北平、天津、南京、広東ヘ転電セリ

日本外交文書　満州事変　第三巻　終